

第4章 イギリスの国際教育¹

はじめに：イギリスの社会・文化的状況

イギリスは、かつて大英帝国として世界中に多くの植民地を有し、それらを「英連邦 (Commonwealth of Nations)」として統率していたことから、現在の同国内の移民や外国人はこうした歴史的事実と密接に関係している。もともと同国における大規模な移民は1800年代のアイランドから始まったが、その後1900年代初めには宗教的迫害を逃れた東欧系ユダヤ人へと変化していった。こうしたことからイギリスでは移民の流入を制限する法律を制定したが、この法律は英連邦からの移民には適用されなかったために、第二次大戦後にはインドをはじめ、パキスタンや西インド諸島といった、いわゆる「英国臣民 (British Subject)」²の大量移民を受け入れることになった。こうした教訓を受けて1971年の「移民法」では居住権の有無による移民の階層化が行われ、これによって同国の移民政策の基本概念が確立された。そして、この方針は20世紀末まで貫かれることになった。

しかしながら21世紀になると、同国経済の持続的成長に伴い、国内労働市場に情報技術 (Information Technology: IT) などの専門分野における技術者不足のみならず、建設業や農作業などの分野でも深刻な労働力不足を招くようになった。また同時に社会の少子高齢化現象も加速し、大量の移民による埋め合わせがなされない限り、深刻な労働人口の減少が避けられない状況となった。このため、同国政府は移民規制を緩和するとともに、ポイント制³による高度技能移民の積極的な受け入れを開始した。これは同国におけるおよそ30年ぶりの移民政策の大転換と言われている。

近年のイギリスにおける総人口に対する外国人の割合は約5%となっており、この傾向は年々強まっている。このことは、出入国者数の推移を見ると明らかで、1997年以来一貫して入国超過の傾向が続いており、毎年200万人以上の入国超過となっている。特に東欧からの移民が大多数を占めている。ただし、近年はアジアと中東地域からの移民が急増しており、外国人労働者全体の3分の1を占めるまでになっている。

現在、イギリス政府はこうした状況に対して社会統合に向けた諸政策を実施しており、その背景には移民の受け入れは経済成長に効果があり、移民は国家経済の発展に大きく貢献するという政府の基本的な考え方がある。



出典：調査団作成。

図4-1 イギリスを構成する四つの地方政府

¹ 本章においては、「国際教育」という用語を主として用いるが、イギリス現地の教育状況の説明においては、同国で使われている「グローバル学習」「グローバル・シティズンシップ教育」「開発教育」などの用語を適宜用いる。

² 「英国臣民」とはイギリスの君主に支配される者としての人民を指し、現在も公的に国民を指す用語として使用され続けている。その背景には、イギリス国民は依然として「王の臣民＝王の保護と臣民の忠誠」という概念がある。

³ 「ポイント制」とは、従来のように出身地域や民族による選定ではなく、地域や民族に関係なく全人類を受け入れの対象とする普遍原則に基づいている。年齢、学歴、語学力、就労経験などを基準に沿ってポイント化し、そのポイントによって移民の受け入れ可否を判断するという制度である。イギリスだけでなく、カナダやオーストラリアの移民政策においても採用されている。

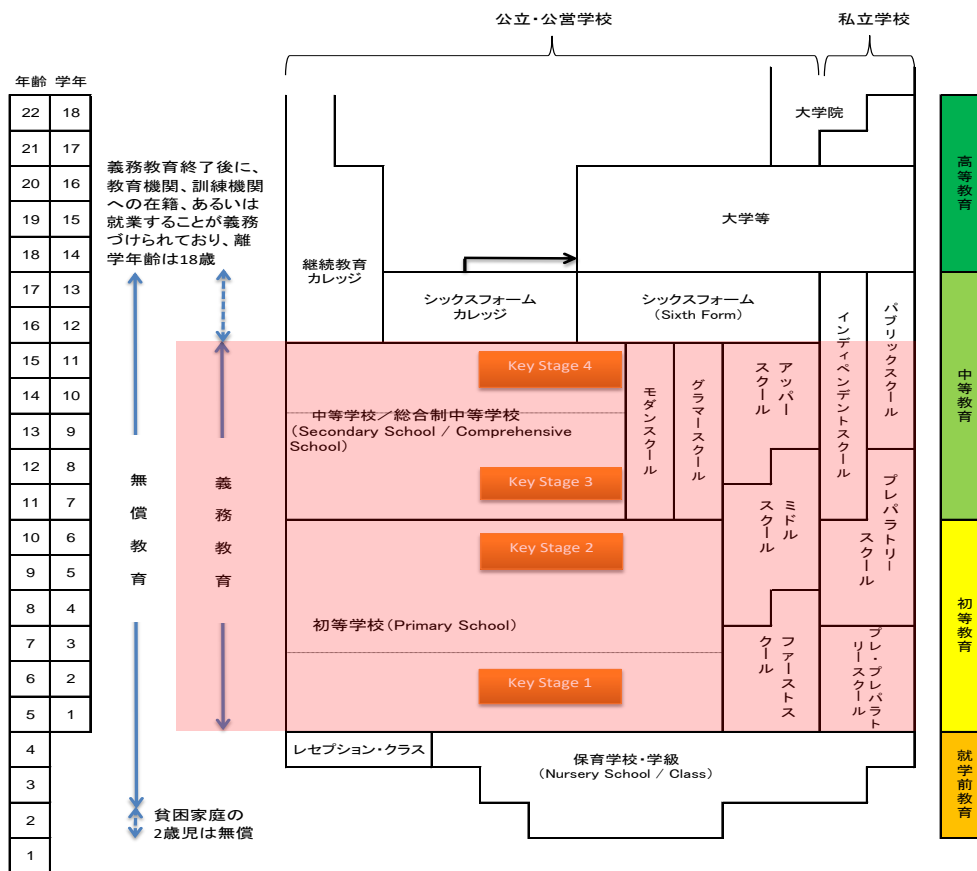
4-1 イギリスの教育概要

4-1-1 教育制度

イギリス（イングランド）の義務教育は5歳から16歳までの11年間である。義務教育段階は、原則的に、5～11歳までが初等学校（Primary School）、11～16歳までが中等学校（Secondary School）に区分されている。なお、地域によっては初等学校を前期課程（Infant School）と後期課程（Junior School）に区分しているところもある。また、義務教育段階を3～4年毎に区分して、ファーストスクール（First School）、ミドルスクール（Middle School）、アップスクール（Upper School）に区分しているところもある。

義務教育終了後の教育機関としては、中等学校に併設されているシックスフォーム（Sixth Form）及び独立したシックスフォームカレッジ（Sixth Form College）がある。これらは主に高等教育への進学準備教育を行う。また、技能及び職業に関する訓練をパートタイム及びフルタイムで提供する継続教育カレッジ（Further Education College）もある。なお、継続教育カレッジには16～18歳の年齢の若者だけでなく、成人の学生も在籍している。継続教育カレッジ以外にも、ターシャリー・カレッジ（Tertiary College）、コミュニティ・カレッジ（Community College）などがあり、職業資格（National Vocational Qualification: NVQ）を取得する課程としての職業教育の機会も提供されている。

高等教育機関としては大学などがある。大学は通常3年間の学士修得課程のほかに、専門資格取得のための課程等も提供されている。



出典：調査団作成。

図 4-2 イギリスの教育制度

義務教育に就学する前の 3 歳児から無償の就学前教育が提供されており、保育園 (Nursery) や初等学校に併設される保育学級 (Nursery Class) やレセプションクラス (Reception Class) (4 歳児から対象) などに在籍し、就学前教育におけるナショナル・カリキュラム (Statutory Framework for the Early Years Foundation Stage: SFEYFS) に基づいた教育を受けることができる。なお、貧困家庭の子どもは 2 歳から無償の就学前教育を受けることも可能である。無償の範囲は、週 15 時間分の教育に対するもので、国の定める就学前教育におけるナショナル・カリキュラムに基づく教育を実施していると認証されている施設に対して、在籍者数分の補助金が支給される。

また、2008 年以降は義務教育終了後の 16~18 歳の 2 年間は、フルタイムまたはパートタイムで、教育または訓練機関に在籍すること⁴が義務付けられ、離学年齢が 18 歳に引き上げられた (Raising the Participation Age: RPA)。

イギリスの義務教育の規定は、1996 年教育法 (The Education Act 1996) において「義務教育年齢に該当する全ての子どもに対して、学校への規則的出席またはその他の方法により、その年齢、能力及び適正に応じて、または教育の特別なニーズがある場合にはそれに応じた効果的なフルタイムの教育を受けるさせることは親の義務である」(第 7 条)と規定されており、就学義務の国ではない。この規定によりイギリスでは、保護者はここに規定されている「その他の方法 (Otherwise)」の一つとしてホームエデュケーション (Home Education) も選択できる。

イギリスの学校には、児童生徒が通学する上で地理的に合理的な範囲としての通学区 (Catchment Area) が設定されている。保護者は、自分の子どもの能力・特性に合った学校を選択し、順位付けした希望する複数の学校を、就学年齢の前年度に地方当局に申請する。学校は入学者決定要項 (Admission Policy) を策定し、公表する義務がある。学校はその要項に基づいて入学者を決定する。希望する学校に入学できず、そのことが納得できない場合、保護者は不服申立委員会 (The Schools Adjudicator) に申し立てることができる。

イギリスでは 1996 年教育法において、特別な教育的配慮が必要な (Special Educational Needs: SEN) 児童生徒もできるだけ通常の学校で受け入れるように規定されている。ただし、特別な教育的配慮が必要な児童生徒に必要な教育が提供できること、他の子ども達に対しても効果的な教育ができること、資源の有効活用が図られることが条件となっている。2015 年以降は、特別支援教育の対象者を、地方当局による公的な判定を経て特別支援教育の認定書 (SEN Statement) を受領し、個別指導支援計画 (Education, Health and Care Plan, EHC Plan) を策定される児童生徒と、特別支援教育の支援 (SEN Support) を受ける児童生徒 (個別指導支援計画は策定されない) の 2 種類に区分している。

4-1-2 教育課程の構造と内容及びその特徴 (教育内容の扱いと資質・能力との関係)

イギリスでは、1944 年教育法により宗教教育が義務付けられていたが、そのほかには教育課程の基準はなかった。しかし 1988 年教育改革法により、「ナショナル・カリキュラム (National Curriculum、全国共通教育課程)」が導入され、教育大臣が定める教育課程の基準のもとで、学校が教育課程を編成し、実施することが規定された。ただし、その遵守義務は、公立学校及び公営学校にのみ適応され、アカデミー及びフリースクールという公営独立学校及び独立学校にはその遵守義務はない。

1988 年当初は、必修 10 教科であったが、1995 年に「情報教育」(ICT) (2013 年より「コンピューティング」に名称変更) が、2000 年には「シティズンシップ」(Citizenship Education) が必修教科 (中等学校のみ) としてなり、現在 12 科目が必修教科となっている (表 4-1 参照)。また 2020 年に

⁴ ①シックスフォーム (またはシックスフォームカレッジ) また継続教育機関でフルタイムの教育を受けること、②週に 20 時間あるいはそれ以上の就労、あるいはボランティアに従事している場合は、パートタイムで教育または訓練を受けること、③見習い訓練 (Apprenticeship) プログラムを受けることのいずれかに在籍することが義務付けられた。

は、必修教科以外で指導が法的義務付けられている教科に、「宗教 (Religious Education)」のほかに、「人間関係・性教育と保健教育 (Relationships and Sex Education (RSE) and Health Education)」が追加された。このほかに、必修教科以外に、教科横断的な活動 (薬物教育、経済教育など) を行う「人格・社会・保健・経済教育 (Personal, Social, Health and Economic Education: PSHE)」⁵と、学校独自の教育活動を組み合わせて学校が教育課程を編成する。

教育大臣は、ナショナル・カリキュラムに規定されている教科毎に「学習プログラム」を公表し、キーステージ毎に教えるべき内容 (Matters)、技能 (Skills)、プロセス (Processes) を規定することが義務付けられている。各学校は、ナショナル・カリキュラム及び学習プログラムに規定されている事項に基づいて、学校での教育課程を編成する。ナショナル・カリキュラムは、より広範な学校での教育課程一環として児童生徒の知識、理解、スキルの発達を促進するために、教員が刺激的な授業を展開できる核となる知識の概要を提供しているものと位置付けられている。

表 4-1 イギリスの教育課程表

キーステージ		KS1	KS2	KS3	KS4
年齢		5-7	7-11	11-14	14-16
学年		1-2	3-6	7-9	10-11
中核教科	英語	●	●	●	●
	算数・数学	●	●	●	●
	理科	●	●	●	●
基礎教科	美術・デザイン	●	●	●	
	シティズンシップ			●	●
	コンピューティング	●	●	●	●
	デザイン・技術	●	●	●	
	言語		● 外国語	● 現代外国語	
	地理	●	●	●	
	歴史	●	●	●	
	音楽	●	●	●	
	体育	●	●	●	●
その他の必修教科	宗教	●	●	●	●
	人間関係・性教育と保健教育			●	●

出典：DfE (2014) The national curriculum in England Framework document をもとに本節担当の調査メンバー作成。

ナショナル・カリキュラムでは、義務教育段階の 11 年間で四つのキーステージ (Key Stage) に区分して、それぞれに教科を配置している。学習プログラムには、児童生徒に対して教えるべき知識や技能、理解の内容について、教科毎に各キーステージにおける到達目標に基づいた基本的な指導内容が記述されている。到達目標には、学習プログラムにおいて、多様な能力や発達段階の異なる児童生徒が、各キーステージの終了時まで習得することが期待される知識、技能及び理解力について記述されている。なお、到達目標については、従来は設定されていたレベルはなくなり、各教科共通で、各キーステージの終了時に児童生徒が習得することを期待されている、当該プログラムに示される事

⁵ 2020年9月から、初等教育では「人間関係 (Relationship Education) 及び保健教育 (Health Education)」、中等教育では「人間関係・性教育 (Sex Education)」に分けて指導されている。

項、スキル及び手順・方法が記述されている。

イギリスでは、ナショナル・カリキュラムの学習到達度を確認するために、ナショナル・カリキュラムに基づく評価が行われる（表 4-2 参照）。この評価には、全国共通教育課程テスト（Standards Assessment Test: SAT, National Test などと表される）及び教員による評価がある。就学前教育基礎課程（Early Years Foundation Stage: EYFS）の終了時には、「EYFS Profile」が作成される。これが初等学校に渡されることで入学時点での各児童の習得している能力が判断される。

初等学校入学後は、第 1 学年において、フォニックステスト（Phonics Screening Check）が行われる。キーステージ 1 の終了時には、「英語」（リーディング、文法・句読法・スペリング）、「算数」のテストが実施される。併せて教員による評価も実施される。キーステージ 2 の終了時に、「英語」（リーディング、文法・句読法・スペリング）、「算数」のテストが実施される。併せて教員による評価も実施される。キーステージ 4 の生徒に対する評価は、全国共通教育課程テストの一つである中等教育終了一般資格試験によって行われる。学校が開設する科目から、「英語」「数学」「理科」の中核教科のほかに数科目を生徒が選択する。ペーパー試験とコースワークによって評価される。8 段階（A*から G）の D 以上が合格点である。また GCSE（General Certificate of Secondary Education、中等教育修了資格試験）に代わるものとして、English Baccalaureate（EBacc）も提供されている。

また大学に進学する場合は、GCE・A レベル資格試験（General Certificate of Education・Advanced Level）を受け、各大学の学科毎に決められている科目の合格点をとらなければならない。シックスフォームの 2 年間で、AS レベルと A2 レベルに分けられ学習する。中等教育終了一般資格試験および GCE・A レベル資格試験は、試験委員会により提供される。学校は、科目毎に試験委員会を選択し、授業を実施するとともに、コースワーク等の活動を提供する。このほかにも、職業資格としての全国職業資格や中等教育レベルの応用資格としてのディプロマなどがある。

表 4-2 イギリスの教育課程に基づく評価枠組み

年齢	学年	キーステージ	学校段階	評価
3-4		Early Years		
4-5	レディ・ジョンクス	Early Years		教員による評価（認定的な評価もある） Early Years Foundation Stage Profile
5-4	1年	KS1	初等学校	フォニックステスト
6-7	2年			全国テスト 教員による評価（英語、算数、理科）
7-8	3年	KS2		
8-9	4年			
9-10	5年			
10-11	6年			全国テスト 教員による評価（英語、算数、理科）
11-12	7年	KS3	中等学校	
12-13	8年			
13-14	9年	KS4		
14-15	10年			一部の生徒がGCSEを受験
15-16	11年			多くの生徒がGCSEを受験、あるいはその他の資格試験を受験

出典：DFE の情報（The national curriculum: Overview - GOV.UK (www.gov.uk)最終アクセス 2023 年 12 月 16 日）をもとに本節担当の調査メンバー作成。

4-1-3 教育実施体制

(1) 学校経営形態

イギリスの学校は、1988年教育改革法により導入された自律的学校経営の推進により、教育課程の編成、教職員の人事、学校予算の運用などの学校経営に関するほとんどの権限と責任をもっている。そしてその権限と責任を負う最高意思決定機関として、保護者代表、教職員代表、創設者代表などによって構成される学校理事会（School Governing Board）が学校に設置されている。

教育課程については、学校に、ナショナル・カリキュラムに規定されている教科などに加えて学校の裁量により設定できる教育活動によって、「精神的、道徳的、社会的、文化的、知的及び身体的発達を促すバランスのとれた教育課程」を提供することが求められている。学校が決定できる事項には、教育課程の編成、1コマの授業時間の長さ、1日の授業時間、週あたりの授業時間、各教科への配当時間、学級編成、教科書などがある。

教職員の任用については、教職員の雇用数の決定、採用の募集及び選考、解雇の決定は学校が行う。任命権者は公立学校及び有志団体立管理学校の場合は地方当局であるが、有志団体立補助学校、地方補助学校、及びアカデミー、フリースクールの場合は学校である。また、給与及び雇用条件については、アカデミー及びフリースクール以外の公費維持学校では全国共通教員給与基準（School Teacher's Pay and Conditions）や関係法令を遵守して決定しなければならない。なお教員は、自由意思で異動が可能である。

学校予算の運用については、原則、児童生徒の年齢及び人数に応じて国から配分される学校補助金（Dedicated Schools Grant: DSG）を学校の裁量で運用する。1988年教育改革法により導入された自律的学校経営により予算の運用権限が地方当局から学校に委譲された。学校予算は、アカデミー及びフリースクールにおいては、国（学校補助金庁、Education Funding Agency: EFA）から学校に直接配分されるが、それ以外の公費維持学校の場合は、地方自治体を通して配分される。

次にイギリスの学校運営形態についてである。イギリスの学校は大きく分けると国からの公的資金が投入される公費維持学校（Maintained School）と、公的資金が投入されない独立学校（Independent School）に区分される。公費維持学校には、地方自治体との関係性や創設母体の関与の大小によって多様な学校が存在する（図4-3参照）。



出典：本節担当の調査メンバー作成。

図 4-3 イギリスの学校の運営形態

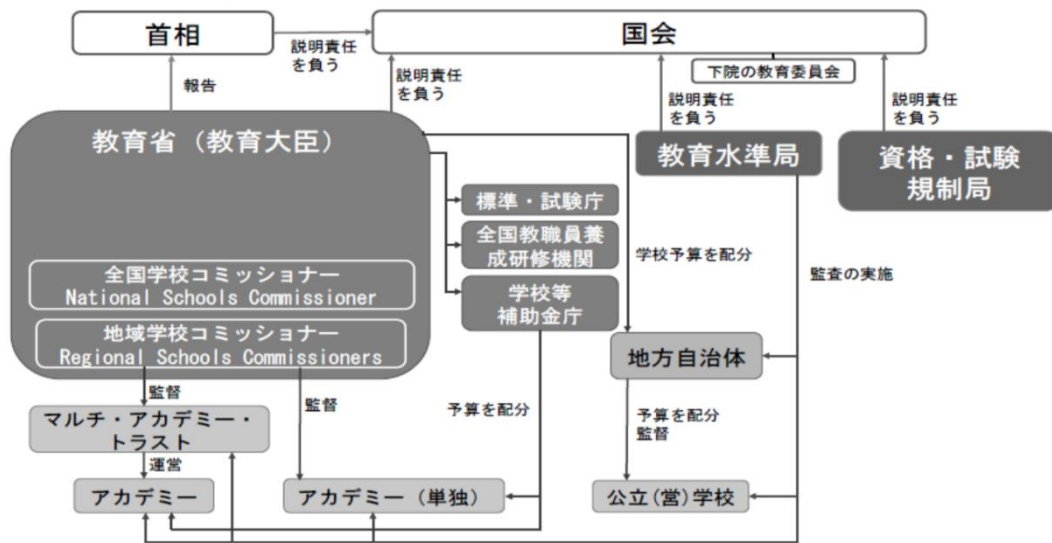
公費維持学校のうち、地方自治体によって設立され、土地も建物も地方自治体が所有する学校を公立学校（Community School）という。次に、創設母体などがある学校を公営学校（Publicly Founded School）という。このカテゴリーには、有志団体立管理学校（Voluntary Controlled School）と有志団体立補助学校（Voluntary Aided School）、地方補助学校（Foundation School）がある。そして2010年に新たに設置されたカテゴリーが、公営独立学校（Publicly Founded Independent School）である。これには、既存の学校が転換する形のアカデミー（Academy）と新規に開校されるフリースクール（Free School）がある。アカデミー及びフリースクール（以下、「アカデミー」と記述）とは、地方当局から離脱し、国（学校補助金庁）から直接補助金を受け取る学校である。公立学校とアカデミーの違いは、ナショナル・カリキュラムや全国共通教員給与基準の遵守義務がないこと、在職する教員に教員資格が必要ないなどである。

アカデミーは、もともと2002年に労働党政権下で設置された学校形態である。この時には、社会経済的に不利益な地域の教育成果が低い中等学校を対象としたもので、民間企業やチャリティなどのスポンサーから新校舎の建設資金などの財政面も含めた支援を受けつつ、地方当局を介さずに国から運営資金を配分される学校として設置された。しかも、学校経営においては、国の様々な基準などの適応が緩和され、通常の学校よりも自由裁量権をもって学校経営が行われた。その結果、学校改善が促進されたとして、2010年に発足した連立政権においても、アカデミーという自由裁量権を有した学校という枠組みを維持し、公営独立学校（State-Funded Independent School）という新たなカテゴリーを設けてアカデミーの推進を図った。そして、「2010年アカデミー法（Academy Act 2010）」及び「2011年教育法（Education Act 2011）」が制定され、すべての地域及びすべての学校を対象とした新たなアカデミー制度が導入された。この新たなアカデミー制度では、学校監査結果が「Outstanding」という最も高い評価を受けている学校だけが選択及び転換できる転換型アカデミー（Converter Academy）と、学校監査結果が低い学校に対して適用されるスポンサーアカデミー（Sponsored Academy）の2種類が設定された。そして、2014年には、全国学校コミッショナー（National Schools Commissioner）及び地域学校コミッショナー（Regional Schools Commissioner）が任命され、アカデミーの品質管理と普及、拡大が図られた。さらに2016年教育白書では、学校主導型システムを実現するために、協働的な学校システムとしてのマルチ・アカデミー・トラスト（Multi-School Trust: MAT）の推進が提言されるなど、アカデミーの拡充整備が図られている。2022/23年度現在、アカデミーは学校数全体の41.6%（初等学校で40.4%、中等学校で80.4%）を占めている⁶。また、近年は6~30校の規模のMATが増加傾向にあり、両方で全体の約39%（2000/21年度）を占めている⁷。

このようなアカデミー及びMATの増加、また全国学校コミッショナー及び地域学校コミッショナー（8名）の配置ということが進められた結果、公立学校及び公営学校を管轄する系列と、アカデミーを管轄する系列という複線型の学校ガバナンスシステムができるなど、学校を取り巻くガバナンス構造が変容している（図4-4参照）。

⁶ Schools, pupils and their characteristics (<https://explore-education-statistics.service.gov.uk/find-statistics/school-pupils-and-their-characteristics/2022-23>、最終アクセス2023年12月23日)

⁷ DfE (2023) Academy Schools Sector in England Consolidated Annual Report and Accounts



出典：国立教育政策研究所（2019）『地方教育行政の組織と機能に関する国際比較研究』p. 51 より引用。

図 4-4 イギリスの教育ガバナンス構造

また、地方当局の学校教育に関する役割及び機能自体も、1988 年教育改革法において導入された自律的学校経営（Local Management of Schools: LMS）により、特に財政面での経営権限を学校が有したことで、地方当局の学校教育に関する機能が縮小した。

さらに、2004 年子ども法（The Children’s Act 2004）により教育と福祉サービスを一元化し、子どもサービスとして地方当局（Local Authority: LA）の機能にこれらを統合した。そのため、地方自治体では、教育行政も含めた子どもサービスを担当する子どもサービス担当部局を設置し、その責任者として子どもサービス担当長（Director of Children’s Service: DCS）を配置している。その結果として、地方自治体における学校教育に関する機能が縮小する傾向が見られている。

地方当局の基本的な役割は、当該地域の住民のニーズに沿った効果的な初等教育及び中等教育を保証し、地域住民の精神的、道徳的及び知的・身体的発達に（その権限の及ぶ範囲において）寄与することと規定されている（1996 年教育法第 13 条）。また同時に、高い教育水準を推進すること及びすべての子ども達の教育的可能性の実現を推進することが義務付けられている（1996 年教育法第 13A 条）。さらに 2006 年教育法では、これらに加えて、学校の多様性の確保及び保護者の選択の拡大も地方当局の義務とされている（第 2 条）。このように、地方当局がもつ学校教育に対する機能は縮小傾向にあるが、地方当局としての基本的な役割を果たすために地方当局は活動を行っている。

(2) 教員養成・研修

イギリスの公立学校及び公営学校の教壇に立つためには、教員資格（Qualified Teacher Status: QTS）を取得しなければならない。この教員資格は、大学あるいは学校などの多様な機関が提供するプログラムを修了することで取得することができる。提供機関は、教員スタンダード（Teacher’s Standards）に合致したプログラム（学級経営、教科指導等に関すること）を提供すること、メンターや教員などから学術的及び実践的な指導を受けること、最低二つの学校で、最低 24 週間の学級での教育実習が設定されていることなどの要件を満たしていることで教育省（Department for Education: DfE）から認証を受ける。

イギリスの特徴の一つが提供機関の多様性である。高等教育機関で提供される大学卒業後の 1 年間（フルタイム）の教員養成コース（Post Graduate Certificate in Education: PGCE）や学校がグル

ープを組んで大学卒業後の者を対象に提供されるものがある。学校がグループを組んで学校現場での実習を中心にしたプログラムを提供するものには、SCITT (School-Centred Initial Teacher Training) や School Direct (授業料型、給付型) などがある。

さらに、2010 年教育白書「Importance of Teaching」において、学校ベースのトレーニングの重要性と、多様な提供者による教員養成の質管理の重要性が指摘されたことから、教員専門職基準を満たす教員養成の質を担保するために、大学も含めた教員養成の提供機関同士のパートナーシップに基づくプロバイダーベースの教員養成のモデルとして「ティーチング・スクール (Teaching School)」が提言された。ティーチング・スクールは、ネットワークに基づく教員養成、研修及び学校間の相互支援の新たなシステムである。2020 年 11 月からは、成果を上げているティーチング・スクールを「ティーチング・スクール・ハブ (Teaching School Hubs)」として認証し、大学や学校、民間機関などの多様な提供者とパートナーシップやネットワークという形で連携協働し、教員養成、教員研修などを提供している。

次に教員研修である。イギリスでは 2011 年に「教員スタンダード (Teachers' Standards)」が発表された。スタンダードでは、教員は児童生徒の教育の要であり、その仕事の質に責任をもつことが重要であるとして、教員が教科に関する知識を誠実にもつこと、日常的に知識・技能を維持すること、自己反省をすること、積極的に専門的な関係を増進させること、保護者との関係を構築することを教員の資質能力として規定した。その上で、教授活動に関することと、個人的及び専門的な事項に関することの二つの側面から教員として必要最低限の資質能力について規定している。教授活動については次の 8 項目について規定されている。

- ・児童生徒を奮起させ、動機付け、挑戦させるような高い期待を児童生徒にもつこと
- ・児童生徒に対して、よりよい発達と成果を生み出すこと
- ・よい教科と教育課程の知識を提示すること
- ・よりよく構造化された授業計画を立て、教授すること
- ・すべての児童生徒の強みとニーズに応えるような教授をすること
- ・間違いのない建設的な評価を行うこと
- ・安全でよい学習環境を保証するための効果的な児童生徒への指導を行うこと
- ・専門職としての広範な責任を果たすこと

8 項目それぞれに、教員がしなければならない行動規範が規定されている。例えば、よりよく構造化された授業計画を立てることについては、次の 5 項目の具体的な行動規範が規定されている。

- ・授業時間を効果的に使うことにより知識の伝達と理解の向上を図ること
- ・学習への愛着と子どもの知的好奇心を開発すること
- ・既習の知識や理解を統合し拡大するための家庭学習や教室外での活動を計画すること
- ・教授計画と指導方法の効果について体系的に振り返ること
- ・関連する教科における魅力的な教育課程の計画と内容の構築に貢献すること

このスタンダードは、教員自身の専門的職能開発に活用されるだけでなく、採用の際の基準や教員評価、学校監査の際の教授活動の評価、上級給与表への昇級の際の評価、導入教育の基準等に活用されている。またスタンダードの中の個人的及び専門的な事項に関しては、倫理綱領的な内容となっており、不適格教員を判定する際の基準として利用される。

教員は、スタンダードに基づいて職能開発をし、教員としての資質能力を向上させなければならない。そして教育活動を改善し、その結果として児童生徒の教育成果を高めていくことが求められている。職能開発については、児童生徒の学習成果の改善に焦点をあてること、強固な証拠と専門的知識

に裏打ちされていること、協働的で専門的な挑戦を含むこと、持続可能な取り組みであること、そして学校の学校管理職によって優先順位付けがされていることという基準に基づいて提供されることとされている。なお、教員の年間勤務日数は 195 日間（最大 1265 時間）と規定されているが、そのうちの 5 日間は職能開発にあてられるようになっている。

またイギリスでは 2002 年教育法（The Education Act 2002）により、教員及び校長に対する教員評価が定期的実施されている。その具体的な取り組みは各学校において方針が決められ、教員の資質能力を向上させることを目的に行われる。まず職務契約に基づいて年間の目標が設定される。そして活動は定期的に観察（担任の場合は、最低 3 回の授業観察等）が行われ、その結果は報告書にまとめられる。その結果に基づいて面談が実施され、評価結果が決められる。その結果に基づいて、次年度に向けた資質能力の向上のための研修の機会などが提供される。このようにイギリスでは、常に教員自身が教員スタンダードに掲げられている基準に維持するために、職能開発に努めることが求められているのである。

前述したように、イギリスでは、学校にほとんどの経営権限が委譲されていることから、学校管理職のマネジメント力やリーダーシップがその学校の成果に影響するため、学校管理職の能力開発及び育成が重要となっている。学校管理職の職能開発については、1960～1980 年代までは、地方当局や勅任視学局による実践コースや修士課程における教育経営コースなどが中心であった。それが、1980 年代の自律的学校経営が導入されて以降は、学校管理職の資質能力の水準化が図られるための育成プログラムの研究開発が進められ、その成果に基づく研修プログラムが全国的に提供された。

学校管理職の資質能力を水準化し、その質を管理するために、1994 年教育法（The Education Act 1994）により、教員研修及び教員養成などを担当する準政府機関（Non-Departmental Public Body）として教員研修機構（Teacher Training Agency: TTA）が設置された。そして 1997 年には初めての校長職の専門職基準（National Standards for Headship）が策定され、全国校長資格付与プログラム（National Professional Qualification for Headship: NPQH）が導入された。

校長職の専門職基準は、2000 年に一部改訂され、2004 年には校長の専門職基準（National Standards for Headteachers）に改訂された。2015 年にはさらに卓越した校長の専門職基準（National Standards of Excellence for Headteachers）に改訂された。

そして 1997 年に導入された NPQH が校長職の資格として普及する中で、2004 年に取得が義務付けられた。ただし 2010 年に義務化は停止された。しかし、今もなお校長候補者への研修プログラムとしてイギリスでは普及している。

イギリスにおいて、このような学校管理職の資質能力の水準化や育成及び研修プログラムの普及を実現させるための組織として、2000 年に全国リーダーシップカレッジ（National College for School Leadership: NCSL）が準政府機関として創設された。これにより、NCSL によって一元化された学校管理職の育成及び資質能力の質管理の仕組みが整備されたのである。

それまでは、NPQH のほかには、新任校長のためのプログラムである Leadership Programme for Serving Headteacher (LPSH) や現職校長のためのプログラムである Headteacher's Leadership and Management Programme (HEADLAMP) が提供されていた。2015 年の卓越した校長の専門職基準が発表されて以降、新たに全国専門職資格（National Professional Qualification: NPQ）の枠組みが発表され、NPQH を含めたミドル、シニア、校長、統括校長の段階に区分された研修プログラムが提示された。

これらの研修プログラムは、教育省の認証を受けた提供機関（Provider）が「全国専門職資格の内容と評価枠組み」（National Professional Qualification <NPQ> Content and Assessment Framework）及び「全国専門職資格の質枠組み」（National Professional Qualification <NPQ> Quality Framework）に基づいて提供する。教育省が定めた枠組みは次の 6 項目から構成されている。

- ・戦略と改善
- ・教授学習と教育課程の卓越性
- ・影響を調整すること
- ・パートナーシップの運用
- ・資源活用とリスク管理
- ・能力開発

そして各項目において、四つの養成プログラム毎に、学習方法、学習内容、評価規準が決められている。提供機関は、その基準に則って、独自の教材や教育内容を開発して、研修プログラムを提供している。その活動内容及びその成果は、教育省に委託されている民間の評価機関から定期的に監査を受けて評価される仕組みになっている。

2021年に改訂が行われ、以下に示すような内容に変化した。この改訂ではミドルリーダーについて、より教員の職務に関連した内容にすることで教員がキャリアに応じて職能開発をすることを可能にした。このことにより教員がより定着していくことが意図されている。

2021年以前

PGCE SCITT School Direct Teacher First	QTS	教員	NPQML	ミドルリーダー (教務主任、教科主任、学 年主任など)	NPQSL	シニア・リーダー (副校長など)	NPQH	校長	NPQEL	統括校長
---	-----	----	-------	-----------------------------------	-------	---------------------	------	----	-------	------

- * NPQML: National Professional Qualification for Middle Leadership
- * NPQSL: National Professional Qualification for Senior Leadership
- * NPQH: National Professional Qualification for Headship
- * NPQEL: National Professional Qualification for Executive Leadership

2021年以降

PGCE SCITT School Direct Teacher First	QTS	教員 初期2年: ECF	NPQLTD NPQLBC NPQLT NPQLL NPQLPM	ミドルリーダー 熟練教員	NPQSL	シニア・リーダー (副校長など)	NPQH	校長	NPQEL	統括校長
---	-----	-----------------	--	-----------------	-------	---------------------	------	----	-------	------

- * NPQLTD: National Professional Qualification Leading Teacher Development
- * NPQLBC: National Professional Qualification Leading Behavior and Culture
- * NPQLT: National Professional Qualification Leading Teacher
- * NPQLL: National Professional Qualification Leading Literacy
- * NPQPM: National Professional Qualification Leading Primary Mathematics

出典：本節担当の調査メンバー作成。

図 4-5 イギリスの NPQ の枠組み

4-2 イギリスの国際教育に関する教育政策・方針

4-2-1 国際教育・現代的諸課題⁸に関する基本政策・基本方針

現行の「教育課程の枠組み (The National Curriculum in England, Framework Document)」は 2014 年に改訂されたものである⁹。この総論部分には国際教育についての明確な記述は見られないが、各教科目についての記述の中で国際教育に関して触れられている。特に「地理 (Geography)」「歴史 (History)」（ともにキーステージ 1～3)、「シティズンシップ (Citizenship)」（キーステージ 3～4、必須ではないがキーステージ 1～2 でも扱い可能)、「理科・科学 (Science)」（キーステージ 1～4) といった教科には、国際教育の視点や内容が一定程度取り入れられていると言える。では、これらの教科における記述を順に見ていこう。

【地理】

質の高い地理教育は、児童生徒に世界と各地に居住する人々に対する興味をもたせ、その魅力が一生心に残るものとなるように導かれる。地理教育では地球の主要な物理的及び人間的なプロセスについて深い理解を促進するとともに、多様な場所や人々、資源、自然環境、人間環境についての知識を習得させる。これらは、児童生徒が成長して世界についての理解が深まるにつれて、物理的プロセスと人間的プロセスとの間の相互作用、及び景観と環境の形成についての理解を深めるのに役立つ。地理的な知識、理解及びスキルは、地球がどのように形成され、相互接続され、時間とともにどのように変化するかを説明するフレームワークとアプローチを提供する。
(太字は調査団による)

出典：Department of Education, “The National Curriculum in England”, 2014, p. 240.

【歴史】

質の高い歴史教育は、児童生徒がイギリスの過去とそれ以上に広範囲の世界の過去について一貫した知識と理解を得るのに役立ち、過去についてもっと知りたいという好奇心を刺激する。歴史の指導においては、知覚的な問いを發し、批判的に思考させ、証拠を比較検討させ、議論を吟味させ、視点と判断力を養うように行われるべきである。歴史は、児童生徒が人々の生活の複雑さ、変化の過程、社会の多様性 (Diversity of Societies)、異なる集団間の関係、そして自分自身のアイデンティティとその時代の課題について理解するのに役立つ。
(太字は調査団による)

出典：Department of Education, “The National Curriculum in England”, 2014, p. 245.

【シティズンシップ】

質の高いシティズンシップは、生徒が社会に積極的に関与し、行動していくために必要な知識やスキルを提供する。特に民主主義や政府のあり方、そしてどのようにして法律が定められ支持されるのかということについて、しっかりとした認識と理解を育んでいく。この教科の指導は、政治課題や社会課題について批判的に探究し、証拠を比較検討し、討論し、合理的な議論を行うための知識とスキルを身に付けさせるように行われる。また責任ある市民として社会で活躍し、お金を適切に管理し、健全な経済的決定ができるように準備をする。
(太字は調査団による)

出典：Department of Education, “The National Curriculum in England”, 2014, p. 227.

⁸ ここで言う「現代的諸課題」とは、日本の文部科学省「学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総則編」2017 年の「付録 6」で言及されている①伝統や文化に関する教育、②主権者に関する教育、③消費者に関する教育、④法に関する教育、⑤知的財産に関する教育、⑥郷土や地域に関する教育、⑦海洋に関する教育、⑧環境に関する教育、⑨放射線に関する教育、⑩生命の尊重に関する教育、⑪心身の健康の保持増進に関する教育、⑫食に関する教育、⑬防災を含む安全に関する教育、といった 13 の内容をもとに、特に国際教育に関連した内容として、次の 4 分野を指すこととする。⑦異文化理解、⑧国際関係・国際協力、⑨移民/多文化共生、⑩地球環境/気候変動、の四つである。

⁹ 現行の初等教育及び中等教育における教育課程全体の枠組みは 2014 年改訂であるが、初等教育の教育課程の枠組みは 2013 年改訂版、中等教育の教育課程の枠組みは 2013 年版である。なお、PSHE については「教育課程の枠組み」には記載がなく、「PSHE ガイダンス (Guidance PSHE Education)」という別の文書が出されている。

【理科・科学】

質の高い理科・科学教育は、生物、化学、物理の特定の分野を通じて、**世界を理解するための基礎を提供**する。理科・科学は**私たちの生活を変え、世界の将来の繁栄に不可欠**であり、すべての児童生徒は理科・科学の知識、方法、プロセス、利用の重要な側面を教えられなければならない。一連の重要な基礎知識と概念を構築することにより、児童生徒は合理的な説明の力を認識し、自然現象に対する興奮と好奇心を養う必要がある。彼らは、**何が起きているのかを説明し、物事がどのように動作するかを予測し、原因を分析**するために、理科・科学をどう活動できるかを理解するように実践されなければならない。（太字は調査団による）

出典：Department of Education, “The National Curriculum in England”, 2014, p. 168.

また上記の教科以外にも法的に履修が義務付けられている「宗教 (Religious Education: RE)」(キーステージ 1～4)、「人間関係・性教育と保健教育 (Relationships and Sex Education <RSE> and Health Education)」(キーステージ 3～4、必須ではないがキーステージ 1～2 でも扱い可能)、さらに法的に履修が義務付けられていない「人格・社会・保健・経済教育 (Personal, Social, Health and Economic Education: PSHE)」(キーステージ 1～4)においても、それぞれの「ガイダンス (Guidance)」が発行されており、ここに国際教育に関係する内容が含まれている。

【宗教】

宗教は、**他者を尊重する精神を育成しながら、固定観念に挑戦し、他の文化や信念への理解を築くための重要な機会**である。これは民主的価値観と人権を擁護するものである、前向きで包括的な学校精神の促進に貢献するものである。子どもと若者に対する宗教教育を要約すると次のようになる。

- 人生の意味と目的、信念、自己、善悪の問題、人間であることの意味について挑戦的な疑問を誘発する。キリスト教、その他の主要な宗教、宗教的伝統についての児童生徒の知識と理解を深め、これらの疑問を検討し、個人的な内省と精神的な発達を促す。
- 宗教的信念と信仰の問題及びそれらが個人的、制度的、社会的倫理にどのような影響を与えるかを検討する際に、学んだことに照らして、児童生徒が自分の信念（宗教的であるか無宗教的であるかに関わらず）を探究することを奨励する。これにより、反民主主義や過激派の言説に対する耐性力も高まる。
- 児童生徒がアイデンティティと帰属意識を構築できるようにし、それがコミュニティ内で、また多様性のある社会の市民として成長するのに役立つ。
- 児童生徒に異なる信仰や信念をもつ人々を含む他者への敬意を育むように指導し、偏見に対抗するのに役立つ。
- 児童生徒が自分自身と他人に対する責任を考え、地域社会やより広い社会にどのような貢献できるかを探究するように促す。共感、寛大さ、思いやりを育成する。

宗教はすべての児童生徒が受ける権利のある広範でバランスのとれた一貫したカリキュラムの一部として重要な役割を果たす。宗教での質の高い学習体験は地域で合意されたシラバスや学校を通じて、内容の広さ、学習の深さ、概念、スキル、内容間の一貫性を提供する必要性を考慮した慎重な計画によって設計され、提供される。（太字は調査団による）

出典：Department for Children, schools and Families, “Religious Education in English Schools: Non-statutory Guidance”, 2020, pp. 8-9.

【人間関係・性教育 (RSE) と保健教育】

人間関係教育 (初等学校)

初等学校では、特に友情、家族関係、他の子ども達や大人との関係に言及しながら、**前向きな人間関係の基本的な構成要素と特徴を教える**ことに重点を置く必要がある。

人間関係・性教育 (中等学校)

人間関係・性教育の目的は、親密な関係だけでなく、**あらゆる種類の健全な人間関係を築くのに役立つ情報を若者に提供**することである。それによって、健全な関係とはどのようなものか、何が良い友人であり、良い同僚であるのか、そして幸せな結婚やその他の種類の献身的な関係をどのように作るかを知ることがで

きる。また、避妊、親密な関係の構築、セックスへのプレッシャーに抵抗すること（そしてプレッシャーをかけないこと）といった情報も提供する必要がある。人間関係において何が許容され、何が許容されない行動であるかを教えることも重要である。これは、生徒が良好な人間関係によって精神的健康に与えるプラスに影響を理解し、人間関係が正しくない場合を特定し、そのような状況にどのように対処できるかを理解するのに役立つ。

身体的・精神的健康（初等・中等学校）

身体的・精神的健康について児童生徒に教える目的は、自分自身の健康と幸福について適切な決定を下すために必要な情報を提供することである。これによって、子ども達は自分自身や他人にとって何が正常で、何が問題なのかを認識できるようになり、問題が生じた場合に適切な情報源にできるだけ早く支援を求める方法を知ることができる。（太字は調査団による）

出典：Department of Education, “Relationships Education, Relationships and Sex Education (RSE) and Health Education: Statutory Guidance for Governing Bodies, Proprietors, Head Teachers, Principals, Senior Leadership Teams, Teachers”, 2019.

【人格・社会・保健・経済教育（PSHE）】

PSHE はすべての児童生徒にとって重要で必要な教育である。すべての学校では PSHE を扱うべきであり、よい教育活動を実践すべきである。この教科を通じて達成されるべき期待は新しい教育課程（2020 年版）において明記されている。

PSHE は法的には定めのない教科である。したがって、質の高い PSHE を実践するためには、教員に柔軟性を提供することとそのための新たな標準的な枠組みを提供する必要があると考えている。**PSHE で扱うことができる内容は多様な領域にまで広がっている。**教員は、児童生徒のニーズをよく理解できる立場にあり、追加的な中央政府からの指示は全く必要ない。

しかしながら、各学校が独自の PSHE を児童生徒のニーズに合わせて作り上げていくことができると信頼している一方で、**各学校には児童生徒が安全に行動し、適切な意思決定を行うために必要な知識と技能を習得できるような PSHE 教育の実践**を行うことが期待されている。

各学校は、PSHE 教育の機会を有効活用して、教育課程や基礎学校カリキュラム、必須教科ガイダンスに記載された必須の学習内容をもとに独自に適切な内容を開発しなければならない。例えば、麻薬について、財政について、性教育、**人間関係学**、また身体的活動の重要性や健康な人生を送るための食事などが推奨される。（太字は調査団による）

出典：Department of Education, “Guidance – Personal, Social, Health and Economic Education (PSHE)”, 2021.

上記のように、「地理」「歴史」「シティズンシップ」「理科・科学」という教科目の記述の中に、「世界と各地に居住する人々」「多様な場所や人々、資源、自然環境、人間環境」「物理的プロセスと人間のプロセスとの間の相互作用」「景観と環境の形成」「地球がどのように形成され、相互接続され、時間とともにどのように変化するか」（以上は地理）、「イギリスの過去とそれ以上に広範囲の世界の過去」「人々の生活の複雑さ、変化の過程」「社会の多様性」「異なる集団間の関係」「自分自身のアイデンティティとその時代の課題」（以上は歴史）、「民主主義や政府のあり方」「どのようにして法律が定められ支持されるのか」「政治課題や社会課題」（以上は「シティズンシップ）」、「世界を理解するための基礎」「世界の将来の繁栄」（以上は理科・科学）といった国際教育と非常に関係の深い内容が記載されている。また「宗教」「人間関係・性教育（RSE）と保健教育」においても「他の文化や信念への理解」「多様性のある社会の市民」「異なる進行や信念をもつ人々を含む他者への敬意」（以上は宗教）、「前向きな人間関係」「あらゆる種類の健全に育まれる人間関係」（以上は人間関係・性教育と保健教育）といった国際教育にとって重要な内容が扱われる。

なお、「人格・社会・保健・経済教育（PSHE）」においては、教育省（Department for Education: DfE）から出されている「ガイダンス」においては、概要のみの記述になっているため、これだけでは詳細な内容はわかりにくい。しかしながら、この教科は先に述べた「人間関係・性教育（RSE）と保健教育」が 2020 年から必須教科となったことで、そこに PSHE の内容が反映されており、国際教育に関わる内容がかなりの程度扱われていることがわかる。実際にその具体的な内容を示す「学習プロ

グラム (Programmes of Study)」を開発している PSHE 協会 (PSHE Association) によれば、PSHE で扱う内容は大きく三つに分けられるが、その中の一つが「Relationship Living in the Wide World」であり、内容はグローバル教育にあたるため、国際教育に関する内容を扱いやすい教科であるということであった。

以上のように、イギリスではこうした教科目を通じて、国際教育に関わる学習内容についての理解を深めていくことが求められていると言える。

さらに、こうした学習内容は、国際教育の系譜の中でも近年重要視されている「持続可能な開発のための教育 (ESD)」で強調される六つの価値観である「多様性」「公平性」「相互性」「連携性」「有限性」「責任性」¹⁰とも密接に関係するものであるとも言え、イギリスの教育においては、いずれのキーステージにおいても、国際教育の内容や考え方、育成したい資質や能力、価値観などが散りばめられた内容になっていると言うことができる。

4-2-2 現代的諸課題 (本調査での 4 課題) の教育課程上の位置付け

本調査においては、現代的諸課題として「異文化理解」「国際関係・国際教育」「移民/多文化共生」「地球環境/気候変動」の 4 分野が想定されている。すでに 2014 年改訂の「教育課程の枠組み」における国際教育の教育政策及び方針については触れたが、ここでは再度これら 4 分野の現代的諸課題との関係性について整理しておこう。

なお、イギリスの教育課程は「教育課程の枠組み」及び教科目別の「学習プログラム」の二つから構成されているが、どちらにおいても各教科目別にそこで扱われる教育内容や目指される到達度などが示されている。そのため、いずれにしても教科目別の視点が重要になってくる。そこで、まずイギリスの「教育課程の枠組み」で示されている教育段階別の教科目構成を見て、その後、現代的諸課題がこれら教科目の中でどのように取り扱われているのかを概観する。

表 4-3 イギリスの教育課程における教科目構成

キーステージ (KS)	KS1	KS2	KS3	KS4	教科別「学習プログラム」 改訂年
年齢	5-7	7-11	11-14	14-16	
学年	Y1-2	Y3-6	Y7-9	Y10-11	
中核教科 (Core Subjects)					
英語 (English)	✓	✓	✓	✓	2014
算数・数学 (Mathematics)	✓	✓	✓	✓	2021
理科・科学 (Science)	✓	✓	✓	✓	2015
基礎教科 (Foundation Subjects)					
芸術・デザイン (Art and design)	✓	✓	✓		2013
シティズンシップ (Citizenship) *1			✓	✓	2013
コンピューティング (Computing)	✓	✓	✓	✓	2013
デザイン・技術 (Design and Technology)	✓	✓	✓		2013
言語 (Languages)		✓	✓		2013
地理 (Geography)	✓	✓	✓		2013
歴史 (History)	✓	✓	✓		2013

¹⁰ ESD では強調される六つの価値観の意味は次のようである。「多様性」は様々な視点をもって考えること、「公平性」は国や年齢に関わらず、誰もが平等に幸せになる権利があるということ、「相互性」とは人同士の関係はもちろん、自然界との関係をも含めたお互いの関係性の中で私たちの生活が成り立っているということ、「連携性」とは皆で協力すれば大きなことを成し遂げられるということ、「有限性」とは食べ物や電気などは無限でないことを理解し、将来のために考えるということ、「責任性」とは責任をもって、自分にできることは自分から進んで行動するということである (国立教育政策研究所『学校における持続可能な発展のための教育 (ESD) に関する研究 (最終報告書)』2012 年を参照)。

音楽 (Music)	✓	✓	✓		2021
体育 (Physical Education)	✓	✓	✓	✓	2013
法的に履修が義務付けられている教科 (Statutory Teaching)					
宗教 (Religious Education: RE) *2	✓	✓	✓	✓	2010
人間関係・性教育と保健教育 (Relationships and Sex Education <RSE>, and Health Education) *3			✓	✓	2019
法的に履修が義務付けられていない教科 (Non-Statutory Teaching)					
人格・社会・保健・経済教育 (Personal, Social, Health and Economic Education: PSHE) *4	✓	✓	✓	✓	2021

注1:「シティズンシップ」はKS3及び4では必修であるが、KS1及び2でも実施可能であり、そのための「学習プログラム」も策定されている。

注2:「宗教」は1944年以来、義務教育とされてきた教科である。2010年に「子ども・学校・家族省 (Department for Children, Schools and Families)」から『Religion Education in English Schools: Non-Statutory Guidance 2010』が出されている。

注3:「人間関係・性教育 (RSE) と保健教育」は2020年に義務付けられた教科である。2019年に教育省から『Relationships Education, Relationships and Sex Education (RSE) and Health Education: Statutory Guidance for Governing Bodies, Proprietors, Head Teachers, Principals, Senior Leadership Teams, Teachers』が出されている。

注4:「PSHE」は初等教育では人間関係教育 (Relationship Education) 及び保健 (Health Education)、中等教育では人間関係教育と性教育 (Sex Education) が履修される。「学習ガイダンス」はPSHE協会が開発している。

注5:太字・網掛けは現代的諸課題についての学習内容として扱っている教科目を指す。

先にも見たように、イギリスを構成する教科目のうち、「理科・科学」(キーステージ1~4)、「シティズンシップ」(キーステージ3~4、必須ではないがキーステージ1~2でも扱い可能)、「地理」(キーステージ1~3)、「歴史」(キーステージ1~3)、「宗教」(キーステージ1~4)、「人間関係・性教育と保健教育」(キーステージ3~4)、「人格・社会・保健・経済教育 (PSHE)」(キーステージ1~4)といった教科目が現代的諸課題を主に扱っていると言える。では、こうした教科目が、どのような現代的諸課題をどのように扱っているのかを見ていこう。

表4-4 現代的諸課題 (4課題) の教育課程上の位置付け

現代的諸課題	教育課程上の位置付け
異文化理解	<ul style="list-style-type: none"> キーステージ3の「歴史 (History)」: 人々の生活様式の複雑性、その変化の過程、社会の多様性 (Diversity of Societies)、異なった集団間の関係性 (Relationships between Different Groups) について理解する学習が行われる。 キーステージ4の「シティズンシップ (Citizenship)」: イギリスにおける「多様な国家的、地域的、宗教的及び民族的アイデンティティ (Diverse National, Regional, Religious and Ethnic Identities)」について理解し、それらを尊重する姿勢を養う学習が行われる。 キーステージ1~4の「宗教 (Religious Education: RE)」: 多様性のある社会の市民 (Citizens in a Diverse Society) としてのアイデンティティを構築するための学習が行われる。 キーステージ3~4の「人格・社会・保健・経済教育 (Personal, Social, Health and Economic Education: PSHE)」: 希望を制限する可能性のある固定観念 (Stereotypes) や家族、文化的期待 (Cultural Expectations) を認識し、それに挑戦するための学習が行われる。
国際関係・国際協力	<ul style="list-style-type: none"> キーステージ1の「地理 (Geography)」: イギリスを構成する四つの、世界の国々が扱われる。 キーステージ1の「歴史」: 国内及び世界的に重要な歴史的出来事 (ロンドンの大火、最初の飛行機による飛行、フェスティバルや記念日に行われる行事)、過去の重要な人物の生活が扱われ、後者は異なる時代の生活の側面を比較する学習が扱われる。 キーステージ2の「地理」: 欧州、南北アメリカの位置やその地域に含まれる国々が扱われる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーステージ 2 の「歴史」：ローマ帝国のイギリスへの影響、アングロサクソンによるイギリスへの定住、エドワード航海王の時代までのイングランド王国を巡るバイキングとアングロサクソンの闘争、古代文明などが扱われる。 ・ キーステージ 3 の「地理」：世界の国々、特にアフリカ、ロシア、アジア（中国とインドを含む）に焦点をあてて、それらの国々を空間的に認識し、地球上の位置関係を理解する学習が行われる。また、アフリカ及びアジア地域の地理的な類似性と創意性について理解する学習も行われる。 ・ キーステージ 3 の「歴史」：世界史における重要な社会問題及び他の世界の発展との相互関係を調べる学習が扱われる。 ・ キーステージ 4 の「シティズンシップ」：イギリスだけでなく、欧州諸国、イギリス連邦、国連、さらに全世界とのイギリスの関係が扱われる。
<p>移民/多文化共生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーステージ 2 の「歴史」：「移民」や「多文化共生」という用語は用いられないが、アングロサクソンのイギリスへの定住やスコットランドについての理解を深める学習が扱われる。 ・ キーステージ 3 の「歴史」：直接的に「移民」や「多文化共生」という用語は用いられていないが、植民地化による人々の移動による「社会の多様性 (Diversity in the Society)」について理解する学習が行われる。 ・ キーステージ 3 の「シティズンシップ」：直接的に「移民」や「多文化共生」という用語は用いられていないが、地域社会を暮らしやすい場所にしていくための公共機関や任意団体による役割について理解する学習が行われる。 ・ キーステージ 4 の「シティズンシップ」：直接的に「移民」や「多文化共生」という用語は用いられていないが、イギリスにおける多様な国家的、地域的、宗教的及び民族的アイデンティティについて理解し、それらを尊重する姿勢を養う学習が行われる。 ・ キーステージ 1～4 の「宗教」：異なる信仰や信念をもつ人々 (People with different faiths and beliefs) を含む他者への敬意を育む学習も行われる。 ・ キーステージ 1～4 の「人間関係・性教育と保健教育 (Relationships and Sex Education <RSE> and Health Education)」：前向きな人間関係 (Positive Relationships) の基本的な構成要素と特徴や、あらゆる種類の健全に育まれる人間関係 (Healthy, Nurturing Relationships of All Kinds) を築くのに役立つ情報が提供される。 ・ キーステージ 1～2 の「PSHE」：社会における異なった集団 (Different Groups) 及び彼らの類似性と相違性 (They are the same as, and different to other people) についての学習が行われる。 ・ キーステージ 3～4 の「PSHE」：他者の包摂を促進し、差別に対峙する (Promote Inclusion and Challenge Discrimination) ための学習が行われる。
<p>地球環境/気候変動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーステージ 3 の「地理」：地球上の人間活動がどのように景観や環境、気候を変化させてきたか、また人間活動がどのように自然環境に依存してきたかを理解する学習が行われる。 ・ キーステージ 3 の「理科・科学 (生物分野) (Science, Biology)」：直接的に「地球環境」「気候変動」という用語は用いられていないが、「相互作用と相互依存関係 (Interactions and Interdependencies)」という領域において「エコシステム (Ecosystem)」が扱われ、有毒物質を含むものがどのように生物や環境に影響を与えるかについて学習する。 ・ キーステージ 3 の「理科・科学 (化学分野) (Science, Chemistry)」：地球の構成と構造、限りある資源の源としての地球とリサイクルの有効性、炭素循環・大気の組成・人間活動による二酸化炭素の生成と気候への影響を考える学習が行われる。 ・ キーステージ 4 の「理科・科学 (生物分野)」：直接的に「地球環境」「気候変動」という用語は用いられていないが、「エコシステム (Ecosystem)」という領域において、すべての生物が環境の中で相互依存しながら環境に適応して生きており、生物

	<p>多様性が重要であること、さらに人間がエコシステムへの与える肯定的な関係と否定的な関係を学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キーステージ 4 の「理科・科学（化学分野）」：「地球と大気の科学（Earth and Atmospheric Science）」という領域で、「気候変動（Climate Change）」「地球の気候（Earth Climate）」のさらなる人為的原因に関する証拠と証拠の不確実性についての学習が扱われる。
--	---

出典：調査団作成。

2014 年改訂（キーステージ 4 の一部は 2013 年改訂）の「教育課程の枠組み」及び 2019 年、2020 年、2021 年に出された「ガイダンス」（宗教、人間関係・性教育と保健教育、人格・社会・保健・経済教育<PSHE>）においては、表 4-4 からわかるように、現代的諸課題そのものの用語は使われてはいないが、異なった表現や記述方法によって、4 分野すべてに言及され、これらの諸課題についての学習内容が扱われていると言える。「異文化理解」「国際関係・国際理解」「移民/多文化共生」の三つの課題は「地理」「歴史」「シティズンシップ」「宗教」「人間関係・性教育と保健教育」「人格・社会・保健・経済教育」で取り扱われている。また、「地球環境/気候変動」についてはキーステージ 3 の「地理」と「理科・科学」においても扱われている。

もちろん、これらの教科目以外にも教科横断的な学習として、各学校の判断次第でこうした現代的諸課題の学習が行われている。

4-2-3 国際教育・現代的諸課題の実施状況についての評価

これまで見てきたように、教育省によって策定された「教育課程の枠組み」及び各教科目別の「学習プログラム」には、国際教育及び現代的諸課題についての内容が一定程度記載されており、教育政策のレベルにおいては国際教育が重視されていることがわかる。特に「理科・科学」（キーステージ 1～4）、「シティズンシップ」（キーステージ 3～4、必須ではないがキーステージ 1～2 でも扱い可能）、「地理」（キーステージ 1～3）、「歴史」（キーステージ 1～3）、「宗教」（キーステージ 1～4）、「人間関係・性教育と保健教育」（キーステージ 1～4）、「人格・社会・保健・経済教育」（キーステージ 1～4）といった教科目では、国際教育及び現代的課題に関する内容が多く扱われている。

今回の調査での教育省との面談において、国際教育と関係のある教科として特に強調されていたのが「シティズンシップ」である。この教科はキーステージ 3～4 で必須となっているが、実はキーステージ 1～2 においても必須ではないが実践することが奨励されており、キーステージ 3～4 と同様に、「学習プログラム」が策定されている。これらの「学習プログラム」によれば、キーステージ 1～2 で「尊敬と寛容 (Respect and Tolerance)」「権利と責任 (Rights and Responsibilities)」「活動的な市民 (Active Citizenship)」といった内容を学習し、キーステージ 3～4 で「民主主義への参加 (Engagement in Democracy)」「地球規模の視点 (Global Outlook)」「メディア・リテラシー (Media Literacy)」「財政教育 (Financial Education)」といった内容を学習することになっている。こうした内容、特にキーステージ 1～2 のすべての学習内容及びキーステージ 3～4 の「民主主義への参加」「地球規模の視点」は国際教育及び現代的諸課題と直結するものであり、同国における教育政策においては、国際教育について十分な配慮がなされているということであった。

ただし、「シティズンシップ」を学習した児童生徒の学習目標の達成度の評価については、正確に言及することはできないということであった。というのは、義務教育後に受験する中等教育修了資格試験 (GCSE) において「シティズンシップ」を受験科目として選択する生徒は全国で僅か 2 万 7 千人程度であり、「英語」「数学」を受験する生徒数 60 万人などに比べると非常に少ないからということであった。

さらに、現在、教育省は「持続可能性と気候変動：教育と子どもへのサービスシステムの戦略

(Sustainability and Climate Change: A Strategy for Education & Children's Services Systems)」(2022年)を強力に推進しており、これは学校に限らず、地域社会全体において取り組んでいくべきものとして定義されている。この戦略とは、2030年までにイギリスが持続可能性と気候変動の分野で世界をリードする教育セクターになることを目指したもので、次の四つの戦略目標の達成のために努力していくというものである。そして、この目標達成のために次の五つの分野での行動を促進していくということである。

【四つの戦略目標】

- 変化する世界に対応する優れた教育とスキル (Excellence in Education and Skills for a Changing World)
学習と実践経験を通じて、すべての若者が気候変動の影響を受ける世界に備えられるようにする。
- ネットゼロ (Net zero)
教育施設や介護施設からの直接的及び間接的な排出量を削減し、法的目標を達成するためのイノベーションを促進し、子ども達と若者がネットゼロへの移行に実質的に取り組む機会を提供する。
- 気候変動に対する耐性 (Resilience to climate change)
教育及び会議の施設とシステムを気候変動の影響に備えるように適応させる。
- 将来の世代のためのより良い環境 (A Better Environment for Future Generations)
生物多様性の強化、大気質の改善、教育及び介護の現場及びその周囲の自然へのアクセスと自然との繋がりの増加を促す。

【五つの分野での行動】

- 気候教育 (Climate Education)
- グリーンスキルとキャリア (Green Skills and Careers)
- 教育資産とデジタル・インフラ (Education Estate and Digital Infrastructure)
- オペレーションとサプライチェーン (Operations and Supply Chains)
- 国際的な行動 (International Action)

この内容を見ると、「持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development: ESD)」に近い教育活動であると考えられる。

以上から、教育省においては、教育政策上、国際教育及び現代的諸課題といった内容については、教育課程の中に含まれる学校現場で学習される教科目はもちろんであるが、学校外での教育活動においても、国際教育及び現代的諸課題についての学習機会が推進されており、子どもや児童生徒、そして若者に対して、多様なアプローチを用いて国際教育及び現代的諸課題の内容が理解される場が設定されていると考えられている。例えば、学校外での教育活動を推進しているものとして、「エジンバラ公国際アワード」といった賞がある。

コラム：イギリスのエジンバラ公国際アワード (The Duke of Edinburgh's International Award)

この賞は若者のチャレンジを尊重し、その達成を表彰する国際的な賞であり、「サービス」(他者や地域社会に奉仕することの価値理解)、「スキル」(個人の興味、創造性、実用的スキルの成長)、「身体的レクリエーション」(スポーツやその他の身体的レクリエーションに参加して、健康とフィットネスの向上)、「冒険旅行」(グループで旅に出ることで冒険や発見の精神を養うこと)といった四つの分野から関心ある分野へ参加し、自分自身が事前に計画した目標を達成するように努力していく中で、個人の成長を図っていくというものである。若者がこうした活動に挑戦することは「行動」→「反省」→「協議」→「応用」といった一連の「経験学習」でもあり、それを経験した対価として同賞が贈られる。なお、この賞は1955年にエジンバラ公 (Duke of Edinburgh) とクルト・ハーン (Kurt Hahn、ドイツ帝国宰相の私設秘書) によって設立されたことから、この名称となった。

コラム：イギリスの国際教育の変遷史

イギリスの国際教育は1960年代から今日までの60年近くの長い歴史をもっている。その歴史の中で、系譜の異なる開発教育、ワールド・スタディーズ、グローバル教育などの国際教育が誕生し、人権教育や環境教育、多文化教育やシティズンシップ教育などと併存したり、または相互に影響し合いながら今日に至っている。以下、簡単にイギリスの国際教育の歴史を振り返っておこう。

表 4-5 イギリスの国際教育の変遷の歴史

時代	主な特徴
開発教育の誕生以前 (1960年以前)	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦後から第二次世界大戦にかけて、被災地の難民や被災民、さらには子どもの救済活動を行うため、一般市民による街頭での募金活動が開始。こうした活動が NGO として次第に組織化され、開発教育 (Development Education) の誕生に結び付いた。 この時代に、セーブ・ザ・チルドレン (Save the Children)、オックスファム (OXFAM)、クリスチャン・エイド (Christian Aid) などが発足した。
開発教育誕生の時代 (1960年代)	<ul style="list-style-type: none"> イギリス植民地から独立した国々の混乱とイギリス国内の復興のための低賃金労働者の不足という状況からアジア・アフリカからの大量の難民や移民が流入した。 南北問題の解決のため、独立間もない開発途上国への海外援助が本格化する中で、ウィルソン (Harold Wilson) 労働党政権が NGO と協議するために海外援助と開発問題に関する有志委員会 (VCOAD: Voluntary Committee on Overseas Aid and Development) を設置。その教育ユニットがキャンペーン活動を実施したり、学校で活用できる資料や教材を作成し、こうした活動が、のちに開発教育として普及していった。
国際教育の第一発展期 (1970年代)	<ul style="list-style-type: none"> 海外開発省 (Ministry of Overseas Development: ODM) が開発教育基金を設置し、NGO の開発教育活動を支援した。 海外援助や開発問題に関心を寄せる一般市民や学校教員、NGO の担当者らが各地に開発教育センター (Development Education Centre: DEC)を開設した。 欧州の新教育運動の普及に努めたジェームズ・ヘンダーソン (James Henderson) が設立に尽力したワン・ワールド財団が「ワールド・スタディーズ・プロジェクト (World Studies Project)」を開始。またロビン・リチャードソン (Robin Richardson) を中心にワールド・スタディーズの多くの授業案が開発され、学校で実践されていた。 政府は難民・移民への同化政策から文化的複合主義へ政策転換を行った。
国際教育の冬の時代 (1979～1996年)	<ul style="list-style-type: none"> 保守党のサッチャー (Margaret Thatcher) 政権の下、海外開発省 (ODM) が外務・英連邦省の一部局に格下げられたことで NGO や DEC の予算が逼迫した。 NGO は厳しいながらも独自の活動を展開した。各地の開発教育センター (DECs) の連合体である開発教育センター全国協会 (NADEC) が1979年に発足。1993年に開発教育協会 (DEA) に改組された。 ワールド・スタディーズは政府に代わってロウントゥリー財団からの支援を得て、サイモン・フィッシャー (Simon Fisher) とデイビッド・ヒックス (David Hicks) を中心に展開された。ヨーク大学を拠点に、デイビッド・セルビー (David Selby) やグラハム・パイク (Graham Pike) らが、ワールド・スタディーズを基礎にグローバル教育 (Global Education)を展開した。 政府による文化的複合主義から多文化・反人種差別主義への転換が行われた。
国際教育の第二発展期 (1997～2010年)	<ul style="list-style-type: none"> 労働党ブレア政権の下、英国国際開発省 (Department for International Development: DfID) が設立され、積極的な開発教育支援が展開された。開発問題啓発基金 (Development Awareness Fund: DAF) が設立された。 1998年にナショナル・カリキュラムが導入された。その2000年版から「シティズンシップ」が導入された。学習内容として人権問題、同国の多様性とその理解、国内及び国際的なボランティア団体の活動、紛争解決の重要性、グローバル・コミュニティとしての世界と課題などが取り上げられた。 イギリスの開発教育の経験を基礎の、欧州グローバル教育ネットワーク (GENE: Global Education Network Europe) が発足し、欧州地域全体においてグローバル教育を推進していく取り組みが開始された。
国際教育の低迷期・学校現場での国際教育の定着 (2010年以降)	<ul style="list-style-type: none"> キャメロン (David Cameron) 保守党政権の誕生により、NGO 活動や国際教育のための予算が大幅に削減された。 2020年には英国国際開発省 (DfID) が外務・英連邦・開発省 (Foreign, Commonwealth & Development Office)として統合され、国際教育への支援はほぼなくなった。 グローバル教育や開発教育を行ってきた団体や担当部局の多くが閉鎖や縮小を余儀なくされた。ただし、他の資金を模索してグローバル教育活動を継続している組織もある。 学校現場にはこれまでの知見の蓄積が確実に行われ、普通の教育実践の中において国際教育の内容が多く扱われている。

出典：調査団作成。

4-3 イギリスの国際教育に関する学習内容

4-3-1 国際教育を通じて育成を目指す資質・能力（国際教育の扱いにより目指すもの）

イギリスでは、2011年までの教育課程においては「コア・スキル」や「キー・スキル」という用語のもとで、以下のように学習を通じて児童生徒に習得させたい資質・能力を定めていた。

表 4-6 「コア・スキル」と「キー・スキル」に含まれた技能

スキルの名称	具体的な技能
コア・スキル	コミュニケーション力 (Communication) 数の活用 (Application of Number) 情報技術 (Information Technology)
キー・スキル	コミュニケーション力 (Communication) 数の活用 (Application of Number) 情報技術 (Information Technology)
	他者との協力 (Working with Others)
	自らの学習と実行の改善 (Improving Own Learning and Performance)
	問題解決 (Problem Solving)
	思考スキル (Thinking Skills)
	-情報処理スキル (Information-Processing Skills)
	-推論のスキル (Reasoning Skills)
	-探究のスキル (Enquiry Skills)
	-創造的な思考のスキル (Creative-Thinking Skills)
	-評価のスキル (Evaluation Skills)

出典：藤井泰「イギリスにおける連立政権によるナショナル・カリキュラムの見直しの動きー『ナショナル・カリキュラムの枠組み』(2011年)を中心にー」、松山大学『松山大学論集 第24巻、第6号』2013年を参考に調査団作成。

しかしながら、現行の「教育課程の枠組み」及び「学習プログラム」においては、教科目の学習内容を重視し、そこで学習される内容との関連から習得されるべき能力やスキルが記載されており、従来のような「スキル」のみを特段取り出して言及することはなくなっている。これは、近年、OECDや諸外国がコンピテンシー (Competencies) という資質・能力を抽出して、従来の知識の習得以上にコンピテンシーの習得を重視していることとは若干異なる方向性である。

この考え方に大きな影響を与えているのは、アメリカの教育学者で、『文化的リテラシー (Cultural Literacy)』の著作で知られるエリック・ドナルド・ハーシュ (Eric Donald Hirsh, Jr., 1928-現在) の考え方であるという意見がある。彼によれば、アメリカの非知識型の教育理論によって成果が上がらないばかりか、人種・階級間の不平等を助長しているということである。アメリカの教育理論の関心は子どもの批判的思考力を育むことであるが、実際の内容を教えることを軽視していると強調されている。

このように教育課程の考え方や構成が改訂されたために、学校教育活動全般あるいは各教科目を通じて取り扱われる国際教育についても、同教育を通じて達成されるべき資質・能力というものは特に定められていない。

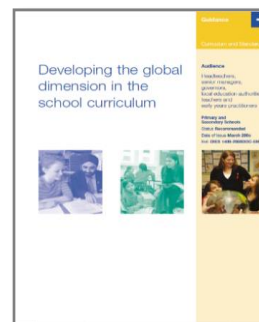
とは言うものの、国際教育を推進する市民組織や外部団体においては、独自の考え方に基づいて国際教育において目指される資質や能力を個別に定めている。では、以下に二つの事例を示す。



出典：Great Thought Treasury
ドナルド・ハーシュ

(1) 『学校カリキュラムにおけるグローバルな次元の開発』による資質・能力

イギリスでは国際教育を指す用語として、広く「グローバル学習 (Global Learning)」が用いられているが、これは 2005 年に発行された『学校カリキュラムにおけるグローバルな次元の開発 (Developing the Global Dimension in the School Curriculum)』¹¹が大きな影響を与えている。この冊子は当時の開発教育協会 (Development Education Association: DEA) の所長であったダグラス・ボーン (Douglas Bourn) 氏を中心に、国際開発省 (DfID、当時) 及び政府機関、外部団体など共同して作成されたものである。この冊子の発行を契機に「開発教育 (Development Education)」ではなく、「グローバル学習」という用語が使われるようになった。



出典：[globald_Redacted.pdf \(ioe, ac, uk\)](#)

『学校カリキュラムにおけるグローバルな次元の開発』

少し古い資料だが、現在でもイギリスの国際教育においてその基本を示すものとなっているため、ここに記された内容を振り返っておく。なお注意が必要なのは、この冊子自体は今から 20 年も前に発行されたものであるため、現在では目にすることは極めて少なくなっているということである。しかし、その頃に国際教育に関わっていたシニアの教育専門家や学校現場の中堅教員においては、ここに記された内容が国際教育を推進・実践する上での礎となっている。

この冊子では、まず「グローバルな次元」の学習を通して習得させたい資質・能力として「態度・価値観」と「キー・スキル」が挙げられており、それぞれは表 4-7 に示したように、さらに細かく分けられている。

表 4-7 「グローバルな次元」の学習を通じて習得を目指す資質・能力

資質・能力	具体的な内容
態度・価値観 (Attitudes and Values)	・ 社会的、文化的、言語学的、倫理的な多様性を尊重する態度 (Attitude to Respect Social, Cultural, Linguistic and Ethical Diversity)
キー・スキル (Key Skills)	・ コミュニケーション力 (Communication) ・ 文化横断的なコミュニケーション力 (Cross-Cultural Communication) ・ 他者との協力 (Working with Others) ・ ある事象についての多様な考えた方があることを認識できる能力 (An Awareness of Diverse Perspectives on Issues) ・ 思考力 (分析力、評価力、質問力、推測力、変化を肯定的に受容する創造的思考力などを含む) (Thinking Skills to Analyse, Evaluate, Question Assumptions; and Creativity Identify Ways to Achieve Positive Change)

出典：DfID, ” Developing the Global Dimension in School Curriculum”, 2005, p.4 を参考に調査団作成。

次に「グローバルな次元」の学習においては「グローバル市民 (Global Citizenship)」「紛争解決 (Conflict Resolution)」「多様性 (Diversity)」「人権 (Human Rights)」「相互依存 (Interdependence)」「社会正義 (Social Justice)」「持続可能な開発 (Sustainable Development)」「価値観と認識 (Values and Perceptions)」という八つの鍵概念があり、それぞれは以下のような内容を含むとされている。

表 4-8 「グローバルな次元」学習の八つの鍵概念の内容

鍵概念	内容
グローバル市民 (Global)	情報に通じ活動的で責任ある市民として必要な概念と制度についての知識、スキル、理解を深める。 ・ メディアやその他の情報源を通じて、地球規模の課題に関する情報や様々な視点を評価するスキルを

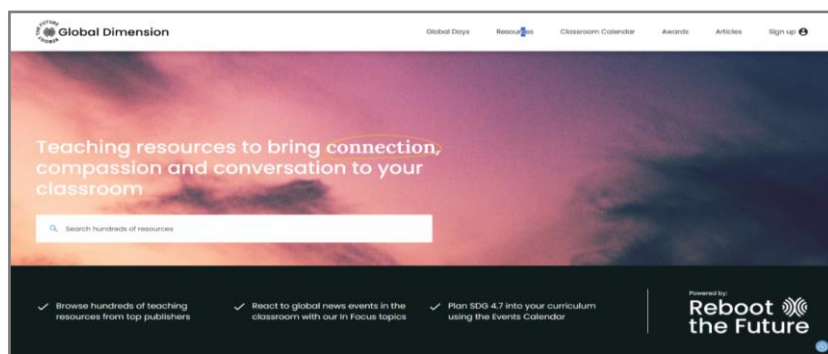
¹¹ この冊子は、当時のイギリス国際開発省 (DfID)、教育技能省 (Department for Education and Skills: DfES)、資格カリキュラム機構 (Qualifications and Curriculum Authority: QCA)、開発教育協会 (Development Education Association: DEA)、シュア・スタート (Sure Start)、ブリティッシュ・カウンシル (British Council) の共同編纂によるものであり、2000 年代前半には多くの学校によって参照された。なお、シュア・スタートとは 1998 年から開始されたイギリス政府の地域ベースの取り組みで、保育や早期教育、健康、家族支援などの改善を通じて、子ども達に可能な限りよい人生のスタートを提供しようというものである。

Citizenship)	<p>開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 制度、宣言、協定及びグローバルな課題における集団、NGO、政府の役割について学ぶ。 ・ 主要な意思決定が、どこで、どのように行われるのかについての理解を深める。 ・ 若者の意見や懸念が重要であり、耳を傾けることを評価する。そして地球規模の課題に影響を与え、影響を与える可能性のある責任ある行動をとる。 ・ 個人的及び社会的レベルでの地域及び地域におけるグローバルな文脈を評価する。 ・ 自分自身と他者のアイデンティティにおける言語、場所、芸術、宗教の役割を理解する。
紛争解決 (Conflict Resolution)	<p>紛争の性質、開発への影響、紛争の解決と調和の促進が必要な理由を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域、国内、世界における紛争の様々な例とそれらを解決するために多様な方法について知る。 ・ 紛争地域では他の人に選択肢と結果があることを理解する。 ・ 対話、寛容、尊敬、共感の重要性を理解する。 ・ コミュニケーション、アドボカシー、交渉、妥協、協働のスキルを伸ばす。 ・ 対立を認識することは潜在的に創造的なプロセスとして機能する必要があることを理解する。 ・ 人種差別のあらゆる形態とそれらへの対応方法を理解する。 ・ 紛争を理解することは、地域及び世界における人、場所、環境に影響を与える可能性があることを理解する。
多様性 (Diversity)	<p>違いを理解し、尊重し、それらを私たちの共通の人間性に関連付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普遍的な人権の文脈における世界中の類似点と相違点を評価する。 ・ 文化、慣習、伝統の違いを尊重することの重要性と社会がどのように組織され統治されているかを理解する。 ・ 世界中の様々な人々や環境に対する畏敬の念を育む。 ・ 生物多様性を尊重する。 ・ 環境が文化、経済、社会に与える影響を理解する。 ・ グローバルな課題に関する多様な視点とアイデンティティが意見や視点にどのように影響を与えるかを評価する。 ・ 偏見と差別の性質とそれらにどのように挑戦し対抗できるかを理解する。
人権 (Human Rights)	<p>国連子どもの権利条約を含む人権についての知識を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの共通の人間性、普遍的な人権の意味を尊重する。 ・ グローバルな状況における権利と責任及びグローバルとローカルの相互関係を理解する。 ・ 様々な状況で競合する権利と責任があることを理解し、人権が地域的及び世界的に否定されたり、反対に主張されたりしているいくつかの事例について理解する。 ・ 人種差別などの不平等や偏見に挑戦するための枠組みとしての人権を理解する。 ・ 児童の権利に関する国連条約、欧州人権宣言及びイギリス法における人権について理解する。 ・ 人権の普遍性と不可分性を理解する。
相互依存 (Interdependence)	<p>人、場所、経済、環境がすべて密接に関連しており、選択や出来事が地球規模で影響を与えることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化の影響を理解し、選択が個人レベルからグローバルレベルまで様々な段階で結果をもたらされていることを理解する。 ・ 他者の生活と子どもや若者自身の世界との繋がりを評価する。 ・ 多様な文化や考え方（政治、社会、宗教、経済、法律、技術、科学）がお互いに与える影響を理解し、相互依存の複雑さを理解する。 ・ 世界がどのようにグローバル・コミュニティを形成しており、私たちがどのように市民であるかということを理解する。 ・ イギリスでの行動、選択、決定が他の国の人々の生活の質にどのように正または負の影響を与えるかを理解する。
社会正義 (Social Justice)	<p>持続可能な開発とすべての人々の福祉の向上の両方における要素としての社会正義の重要性を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会正義を尊重し、同一社会の内部及び異なった社会間のすべての人に平等、正義、公平を確保するために社会正義の重要性を理解する。 ・ 不平等な権力と資源へのアクセスの影響を認識する。 ・ 行動が人々の生活に意図的及び意図しない結果をもたらすことを認識し、情報に基づいた選択の重要性を認識する。 ・ より公正な世界に貢献する行動を起こす動機とコミットメントを発達させる。 ・ 人種差別やその他の差別、不平等、不正に挑戦する。 ・ 機会均等について理解し評価する。 ・ 過去の不正が現代の地域及び世界の政治にどのような影響を与えているかを理解する。

<p>持続可能な開発 (Sustainable Development)</p>	<p>将来の世代のために、地球に損害を与えることがなく、現在の生活の質を維持及び改善する必要性について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地球の資源には限りがあるため、私たち一人ひとりが責任をもって活用しなければならないことを認識する。 ・ 社会、経済、環境分野間の相互関係を理解する。 ・ 可能性が高く好ましい未来と、後者を達成する方法を検討する。 ・ 経済発展は生活の質の一つの側面に過ぎないことを理解する。 ・ 排除と不平等がすべての人々の持続可能な開発を妨げることを理解する。 ・ お互いを尊重する。 ・ 再考、削減、修理、再利用、リサイクルなどの持続可能な資源利用の重要性を認識し、持続可能な方法で管理された資源から材料を入手する。
<p>価値観と認識 (Values and Perceptions)</p>	<p>グローバル課題の表現の批判的価値と、これらが人々の態度や価値観に与える影響の評価ができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人々は異なる価値観、態度、認識を有していることを理解する。 ・ 人権の重要性と価値を理解する。 ・ 出来事、問題、意見などについての多様な視点と新しい美香を發展させる。 ・ 仮定や認識に疑問を投げかけ、挑戦する。 ・ 認識、選択、生活様式に影響を与えるメディアの力を理解する。 ・ 人々がもつ価値観が彼らの行動を形成することを理解する。 ・ 様々な問題、出来事、課題に直面する子どもや若者自身の価値観と認識及び他者の価値観と認識について探究する。

出典：DfID, "Developing the Global Dimension in School Curriculum", 2005, pp.12-13 を参考に調査団作成。

ここで定義された「グローバルな次元」で養うべき資質・能力や鍵概念などは依然として重視されており、国際教育を将来的に推進していこうという目的で、教育者らが立ち上げた「グローバルな次元」と呼ばれるプラットフォームがオンライン上に設置され、国際教育に関する様々な情報を提供している¹²。



出典：<https://globaldimension.org.uk>。

「グローバルな次元」プラットフォーム

(2) 開発教育センター (DECs) による資質・能力

イギリス各地にある開発教育センター (Development Education Centres: DECs) は、現在 26 団体が存在している。もともと DECs は 1970 年代に開発 NGO をはじめ、一般市民や学校教員らが国内の主要都市であるバーミンガムやエディンバラ、リーズ、マンチェスターに地域における開発教育の活動拠点として設立したもので、これ以降各地に広がっていった組織である。1979 年には DECs の全国組織として、開発教育センター全国協会 (National Association of Development Education Centre: NADEC) が設立され、これが 1993 年に開発教育協会 (Development Education Association: DEA) に改組された。しかし、DEA は財政上の理由から 2019 年に解散し、DEA が有していた DECs のネットワーク機能を引き継ぐために開発教育センター・コンソーシアム (Consortium of DECs: CoDEC) が発足した。現在はグローバル学習ネットワーク (Global Learning Network) と名称変更されている。

現在の DECs の主要な活動は、学校での実践のためのグローバル学習プログラムの開発、グローバル学習を指導する教員のためのプロフェッショナル・デベロップメント研修の実施、コミュニティに

¹² 「グローバルな次元」プラットフォームは、もとはダグラス・ボーン氏が開発教育協会 (DEA) の所長時代に立ち上げたもので、その後 DEA が管理運営してきたが、DEA が 2019 年に解散してからは Reboot the Future が引き継いで現在に至っている。

に向けたグローバル学習の展開、若者のための学習プログラム開発、グローバル学習教材の提供と資料室の一般市民への開放、グローバル学習のための教員や教育関係者に向けたアドバイスや支援の提供といったものである¹³。

DECs では長年の経験と豊富な知見に基づいて、グローバル学習を行うことによって、児童生徒は自分自身、他者、環境に対する重要な考え方を身に付けることができ、アイデンティティ、多様性、公平性、対立、持続可能性などの現在のグローバルな社会を生きていく上で必要不可欠な概念を理解することができると考えられている。そして、グローバル学習によって次のようなスキルが習得できると強調されている。

グローバル学習を通して習得されるスキル
<ul style="list-style-type: none"> 自己認識 (Self Awareness) コミュニケーションと共感 (Communication and Empathy) 紛争解決と協力 (Conflict Resolution and Collaboration) 批判的で創造的な思考 (Critical and Creative Thinking) 行動を起こす能力 (Taking Action)

出典：グローバル学習ネットワークのホームページを参考に調査団作成。

(<https://www.thegloballearningnetwork.org/global-learning/global-learning-in-practice/>)

上記のスキルは、使われている用語こそ異なるものの、先に見た『学校カリキュラムにおけるグローバルな次元の開発』で明記された「キー・スキル」と相通じるものがあり、ほぼ同様のことが表現を代えて言い直されていると考えることもできる。

4-3-2 教科書・教材における国際教育（特に現代的諸課題）の扱い

ここでは、教育課程の中において国際教育、特に現代的諸課題について扱われている主要な教科目の内容について見ていこう。現行の教育課程において国際教育に関わる内容、特に本調査における四つの現代的諸課題が多く扱われているのは、「地理」「歴史」（ともにキーステージ 1～3）、「シティズンシップ教育」（キーステージ 1～2 必須ではない、キーステージ 3～4 必須）、「理科・科学」「人格・社会・保健・経済教育（PSHE）」（ともにキーステージ 1～4）である。そして、これらの教科目における国際教育に深く関係する学年とその内容は以下の通りである。また、これらの教科目の全体像については、巻末に付属資料として掲載している。なお繰り返しになるが、イギリスでは教科書の検定制度や使用義務などの規定はないため、教育課程や教科書に国際教育に関する内容の記載があるからといって、必ずしもすべての学校でそれらが扱われているという保証がないことに留意する必要がある。

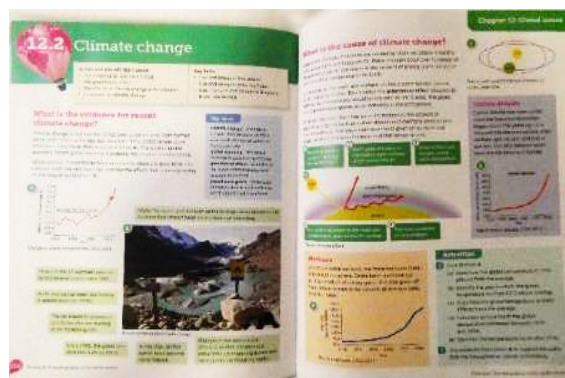
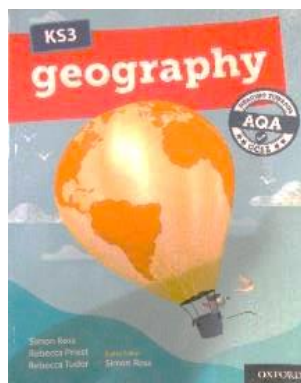
(1) 「地理」（キーステージ 1～3）

KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS1 1～2 年生	位置の情報	<ul style="list-style-type: none"> 世界の 7 大陸と 5 大洋の名前と位置。 イギリスを構成する四つの地方政府（イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド）とその首都とそれを囲む海洋の名前と位置と特徴。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力
	場所の知識	<ul style="list-style-type: none"> イギリスのある地域の人文地理と自然地理の学習を通して、その地理的類似性と独自性を理解する。また対照的な非欧州諸国のある地域におけるそれについても理解する。 	

¹³ イギリスでは、DEA が 2000 年代中頃から一般市民や学校教育関係者からの理解や支持を得るために、「開発教育」という用語に加えて「グローバル学習 (Global Learning)」という用語を打ち出すようになり、2008 年からは団体名も DEA から「Think Global」へと改称している。

	人文・自然地理	・イギリスの季節や気候及び日々の天候のパターンを理解する。また世界の暑い地域と寒い地域について赤道や北極、南極との関係から理解する。	
	地理的技能と野外調査	・この KS において学習されるイギリスやそれを構成する国々、世界の国々、大陸、大洋を世界地図や地図帳、地球儀を使ってその位置を示すことができる。	
KS2 3～6年生	位置の情報	・欧州（ロシアを含む）の地図、南北アメリカの地図を使って世界の国々の位置を知るとともに、それぞれの地域の環境、主要な自然的・人文的特徴、国名や都市名がわかる。 ・イギリスを構成する国々と都市の名前と位置、地理的な位置、人文的・自然的特徴、主要な地形的特徴（丘陵、山岳、海岸、河川を含む）や土地利用状況、それらの土地の変化について理解できる。 ・緯度、経度、赤道、北半球、南半球が理解できる。また北回帰線、南回帰線、北極圏、南極圏、昼夜を含むグリニッジ子午線、等時帯も理解できる	・国際関係・国際協力
	場所の知識	・イギリス、欧州、南北アメリカ地域の人文的・自然的地理の学習を通じて、地理的類似点及び相違点について理解できる。	
	人文・自然地理	・次の主要な事柄について理解し、説明できる。 ✓ 気候区、生物群・植生帯、河川、山岳、火山、地震、水の循環を含む自然地理 ✓ 移住形態、土地利用、貿易を含む経済活動、エネルギー、食料、鉱産物、水を含む天然資源の埋蔵を含む人文地理	
	地理的技能と野外調査	・8方位が描かれた方位磁石、4行と6行から構成された方眼紙、記号とキー（測量地図の使用を含む）を使って、イギリス及び世界の知識を構築できる。	
KS3 7～9年生	位置の情報	・アフリカ、ロシア、アジア（中国及びインドを含む）、中東を示した世界地図を使って、世界の国々の位置や配置についての理解を深める。また極や灼熱の砂漠を含む各地の環境や各地の自然的・人文的特徴を理解する。さらに国々の名前や都市についても理解を深める。	・国際関係・国際協力
	場所の知識	・アフリカやアジア地域の人文・自然地理の学習を通じて地理的類似点と相違点及び地域の関係性について理解する。	

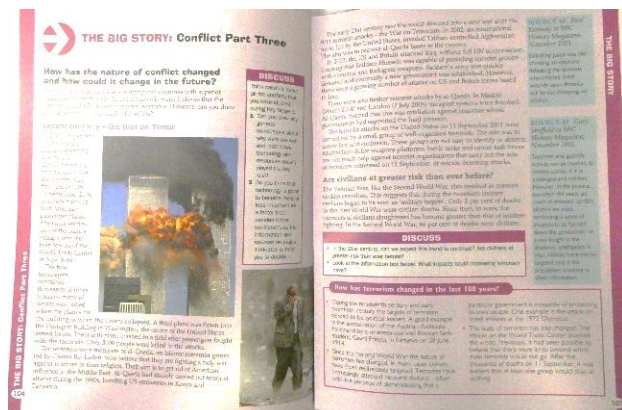
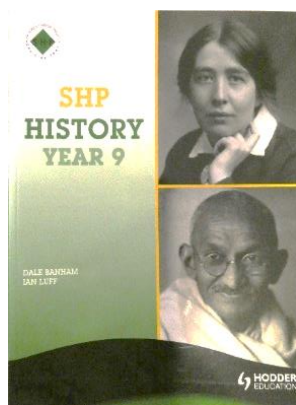
注：KS は「キーステージ」の意味。



キーステージ3の「地理」、出版社：OXFORD、発行年：2019年

(2) 「歴史」(キーステージ 1~3)

KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS1 1~2年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内的または世界的に重要な事柄(例えば、ロンドンの大火、最初の飛行機による飛行、フェスティバルや記念日に行われる行事)は人々の記憶に鮮明に残ることを理解する。 ・ 国内及び国際的な業績に貢献した過去の重要な人物の生活については、異なる時代の生活の側面を比較するために有用であることを理解する。(例えば、エリザベス 1 世とビクトリア女王、クリストファー・コロンブスとニール・アームストロング、ウィリアム・キャクストンとティム・バーナーズリー、長老ピーター・ブリューゲルと LS ローリー、ローザ・パークスとエミリー・ディヴィソン、メアリー・シーコール及び/またはフローレンス・ナイチンゲールとエディス・キャベル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力
KS2 3~6年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ ローマ帝国とイギリスへの影響について理解する。 ・ アングロサクソンによるイギリスへの定住とスコットランドについて理解する。 ・ エドワード航海王の時代までのイングランド王国を巡るバイキングとアングロサクソンの闘争について理解する。 ・ 初期の文明の成果: 最初の文明が出現した場所と時期の概要と、「古代シュメール」「インダス渓谷」「古代エジプト」「古代中国の殷王朝」のいずれかについて詳細に調べる。 ・ 古代ギリシア: ギリシア人の生活と業績及び西洋世界への影響に関して調べる。 ・ イギリスの歴史との対比を提供する非欧州社会: 「バグダットの研究を含む初期のイスラム文明: AD900 年頃」「マヤ文明: AD900 年頃」「ベナン(西アフリカ): AD900-1300 年頃」から一つについて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力 ・ 移民/多文化共生
KS3 7~9年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1901 年から現在までのイギリス、欧州、そして世界の課題について理解する。またホロコーストについて調べる。 ・ 世界史における重要な社会問題及び他の世界の発展との相互関係に関する少なくとも一つの調べ学習を行う。(例えば、インドのムガル帝国: 1526-1857 年、中国の清朝: 1644-1911 年、ロシア帝国の変化: 1800-1989 年、20 世紀のアメリカ)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際関係・国際協力 ・ 移民/多文化共生



Year 9 の「歴史」、出版社: Hodder Education、発行年: 2022 年

(3) 「シティズンシップ」(キーステージ1~2 <必須ではない>、キーステージ3~4 <必須>)

KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS1 1~2年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなものと嫌いなもの、公平と不公平なもの、正しいものと間違っているものについて理解する。 自分にとって重要なことについて意見を共有し、自分自身に意見を説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解 移民/多文化共生
KS2 3~6年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 人間の相違点と類似点は、文化的、民族的、人種的、宗教的多様性、性別、障害を含む多くの要因から生じることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 異文化理解
KS3 7~11年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> イギリスの国民に享受されている貴重な自由を理解する。 社会における公的機関と任意団体が行う役割、学校を中心とした活動への参加の機会を含む地域社会の改善に向けた市民の共同活動のあり方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 移民/多文化共生
KS4 10~11年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> イギリス国内及び国外における異なった選挙制度と、市民が地域においてまたは国家において、さらにはそれ以上の範囲で選挙結果に影響を与えることができる民主的選挙制度における行動を理解する。 イギリス国外における民主的政府制度及び非民主的政府制度を理解する。 私たちの住むコミュニティ行政、地方行政、国際行政及び欧州諸国、イギリス連邦、国連、さらには全世界とのイギリスの関係を知る。 人権と国際法について知る。 イギリスにおける多様な地域、宗教、民族的アイデンティティと相互尊重と理解の必要性がわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際関係・国際協力 異文化理解 移民/多文化共生

(4) 「理科・科学」(キーステージ1~4)

KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS3 7~9年生	生物 (相互作用と相互依存関係)	<ul style="list-style-type: none"> 食物連鎖や昆虫受粉作物など、生態系における生物の相互依存性を理解する。 人間の食糧安全保障における昆虫受粉による植物の繁殖の重要性を知る。 生物が有毒物質の蓄積を含め、環境にどのように影響を及ぼし、また影響を受けるかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境・気候変動
KS3 7~9年生	化学 (地球と大気)	<ul style="list-style-type: none"> 地球の構成と構造を理解する。 岩石サイクルと火成岩、堆積岩、変成岩の形成について理解する。 限りある資源の源としての地球とリサイクルの有効性について知る。 炭素循環、大気の組成、人間活動による二酸化炭素の生成と気候への影響を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境・気候変動

KS4 10～11 年生	生物 (エコシステム)	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコシステム内の組織のレベルを理解する。 ・ 地域社会に影響を与えるいくつかの非生物的及び生物的要因を知り、コミュニティ内の生物間の相互作用の重要性を認識する。 ・ 生態系の非生物的及び生物学的構成要素が物質をどのように循環させるかを知る。 ・ 生態系における物質の循環での微生物（分解者）の役割を知る。 ・ 生物は相互依存しており、環境に適応していることを理解する。 ・ 生物多様性の重要性を認知する。 ・ 種を特定し、生息地内の種の分布、頻度、存在量を測定する方法を知る。 ・ 人間と生態系との肯定的及び否定的な相互作用を理解する。 	・ 地球環境・ 気候変動
KS4 10～11 年生	化学 (地球と大 気の化学)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球形成以来の大気の組成と進化の証拠を説明する。 ・ 気候変動のさらなる人為的原因に関する証拠と証拠の不確実性について理解する。 ・ 二酸化炭素とメタンのレベル上昇が地球の気候に及ぼす潜在的な影響とその緩和について調べる。 ・ 一般的な大気汚染物質である二酸化硫黄、窒素酸化物、微粒子及びそれらの発生源を調べる。 ・ 地球の水資源と飲料水の確保について探求する。 	・ 地球環境・ 気候変動

(5) 「宗教 (RE)」 (キーステージ 1～4)

KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS1-4 1～11 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様性のある社会の市民としてのアイデンティティを構築する。 ・ 異なる信仰や信念をもつ人々を含む他者への敬意を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生 (なお、学校裁量が大きく、様々な現代的諸課題を扱うことが可能)

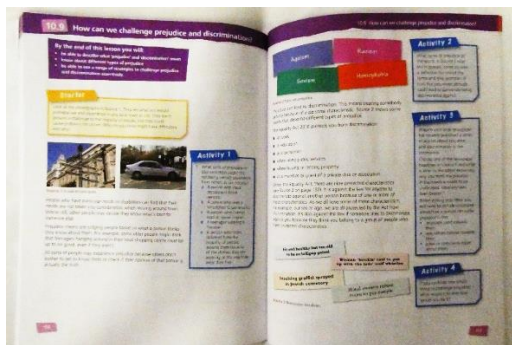
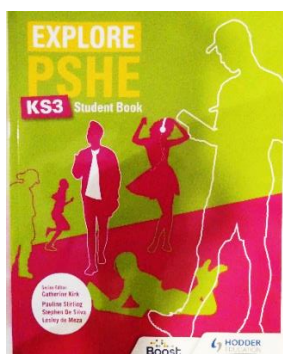
(6) 「人間関係・性教育 (RSE) と保健教育」

(キーステージ 1～2 <必須ではない>、キーステージ 3～4 <必須>)

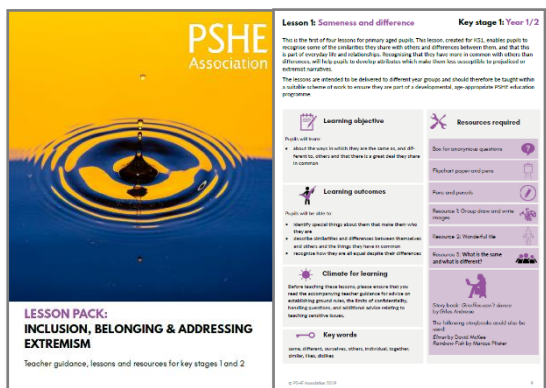
KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS1-4 1～11 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前向きな人間関係の基本的な構成要素と特徴や、あらゆる種類の健全に育まれる人間関係を築くのに役立つ情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移民/多文化共生 (なお、学校裁量が大きく、様々な現代的諸課題を扱うことが可能)

(7) 「人格・社会・保健・経済教育 (PSHE)」 (キーステージ 1~4 <必須ではない>)

KS 学年	領域	内容	関連する現代的諸課題
KS1-2 1~6 年生	N/A	・ 社会における異なった集団及び彼らの類似性と相違性について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異文化理解 ・ 移民/多文化共生 (なお、学校裁量が大きく、様々な現代的諸課題を扱うことが可能)
KS3-4 7~11 年生	N/A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望を制限する可能性のある固定観念や家族、文化的期待を認識し、それに挑戦する。 ・ 他者の包摂を促進し、差別に対峙することの重要性について理解し、そのように行動できるようになる。 	



キーステージ 3 の「PSHE」、出版社 : Hodder Education、発行年 : 2023 年



出典 : PSHE Association のホームページ (<https://pshe-association.org.uk/topics/>)

PSHE 実践のための教員用指導書 (左 : 包含と帰属、右 : 環境保護)

4-3-3 学校現場における国際教育の扱い

イギリスの学校現場においては、教員不足や若手教員の能力の低下、また多忙な教員の業務負担の軽減策の実行などによって、それぞれの教員が業務時間内に質の高い授業実践のための教材や学習指導案を開発することが難しいという状況が見られている。そうした中、学校現場で有効に活用できる教材・リソースを開発し、提供する民間組織や団体の存在感が大きくなってきている。

なお、同国ではすべての学校が学校経営の権限をもっていることから、自校での教育活動の実施において、それに関連するサービスを学校側が独自に判断して、購入・使用することが前提となっていることから、外部の組織や団体が開発した教材・リソースであっても、授業実践において効果的に活用できると考えられるものは積極的に取り入れられる傾向がある。

本調査において教育省と面談を行った際、オーク・ナショナル・アカデミー（Oak National Academy: ONA）¹⁴ についての話もあった。この組織は学校現場における教育実践の質を保証し、かつ教員の業務の負担を軽減するためにカリキュラム・リソースを開発して学校現場に提供している組織である。2020年に設立されたまだ新しい組織であるが、教育省から資金を調達して積極的に活動している。もともとは類似の組織が複数の学校の運営協議会によって独自に運営されていたが、こうした組織が上手く機能しているということで、教育省がこのような組織を正式に設立することを呼びかけて誕生したものである。現在、教育省が策定する「教育課程」の解説書をはじめ、約6万点にも及ぶ各教科目の指導案、モデル授業映像、児童生徒の理解度を測るテストなどを開発し、各学校に提供している。現地調査時点（2023年11月）では「英語」「算数・数学」「理科・科学」「地理」「歴史」「音楽」の6教科の教材・リソースが完成しているということであった。この組織の支援は、特に国際教育に直接的に関係するものとは言えないが、各教科の学習を通じて国際教育の内容に触れていくという視点からは学校現場にとっては役立つものであると考えられる¹⁵。

これ以外に、イギリス各地にある開発教育センター（DECs）では国際教育（グローバル学習）の実践に必要な学習教材などを開発しており、それらを用いた学習プログラムや教員を対象としたプロフェッショナル・デベロップメント研修などが提供されている。さらに PSHE 協会（PSHE Association）、シティズンシップ教育協会（Association for Citizenship Teaching: ACT）といった組織でも、教育課程で設定されている「PSHE」や「シティズンシップ」の学習に関連した教材・リソースが開発され、学校現場に提供されている。さらにオックスファム・グレートブリテン（Oxfam GB）などの国際 NGO でもグローバル・シティズンシップ教育に焦点をあてた多様な教材やガイドブックが開発されている（これら DECs、PSHE 協会、ACT、オックスファムについては第8章で詳述する）。

¹⁴ これは「Executive Non-Departmental Public Body, Sponsored by the Department for Education」というイギリス特有の組織である。政府からの独立性をもちながらも、政策の戦略性とリンクすることで政府からの予算の提供を受けている組織である。このような組織を「Arm's Length Body (ALB)」と呼ぶ。また「Academy」は「Charitable Company」のカテゴリーに入っており、法的には会社法とチャリティ法の両方が適用される組織である。したがって、イギリスの教育の文脈において、「民間企業」と言った場合、日本のものとは同一でないことに留意する必要がある。

¹⁵ ロンドン大学（University College London: UCL）教育研究院（Institute of Education: IOE）の開発教育研究センター（Development Education Research Centre: DERC）のダグラス・ボーン教授によれば、イギリスの学校現場がこうした民間組織などに多くを頼っていることを危惧しているということであった。というのは、彼らは決して教育の専門家ではないし、彼らが開発した教材に学校現場の教員が頼ってしまうことは、学校教員の能力の成長や発展にも決してよい影響は与えないというのである。このようにイギリス国内には批判的な意見も見られる。

4-4 学校現場での国際教育の実施体制・指導方法

イギリスでの国際教育の実践を把握するために、同国における国際教育を推進し、実践現場への支援活動を行っているロンドン大学（UCL）教育研究院（IOE）開発教育研究センター（DERC）のハント准教授（Frances Hunt）に紹介していただいたクロックスリー・デーンズ校を訪問した。

4-4-1 学校現場のカリキュラム・マネジメント状況

■クロックスリー・デーンズ校（Croxley Danes School）（生徒数 926 名、教員数 124 名）

今回訪問したクロックスリー・デーンズ校は、デーンズ・マルチ・アカデミー・トラスト（Multi Academy Trust: MAT）の傘下の 9 校（初等学校 4 校、中等学校 4 校、美術学校 1 校）のうちの 1 校である。デーンズ MAT 自体は 2016 年の創立である。創立者の Dr. Josephine Valentine は、地域の教員養成学校連合（Teaching School Alliance）の代表を務め、教育省の校長代表団（Headteacher Reference Group）の構成員も務めている。同 MAT は、理事会に「平等と多様性」の専門家を抱え、喜び、楽観性、レジリエンス、ウェルビーイング、平等、安全な学びの六つを目指すべき「核となる価値」として掲げている。デーンズ MAT は国から補助金を受け取っており、それを活用して教職員、地域の代表者、保護者を中心に構成された学校運営評議会（Trust）によって運営されている。

クロックスリー・デーンズ校はデーンズ MAT が 2017 年に創立したフリースクール¹⁶である。キーステージ 3、4 及び 5（7～8 年生、9～11 年生及びシックスフォームの生徒が学ぶ学校である。生徒数は 926 名で、出身階層別に見ると、英国系白人 560 人、英国系以外の白人 92 人、パキスタン系 90 人、インド系 86 人、アフリカ系黒人 48 人、ミックス 50 人となっている。

265 人（全校生徒の約 4 分の 1）は、英語が母語ではない生徒として登録されている。教員は「話し言葉（Oracy）」チームを組織して、彼らの読み指導にあたっている。また 147 名は社会経済的に不利な立場にある生徒を対象として配分される補助金（Pupil Premium）¹⁷の対象である。同校では政府から配分されるこの補助金を活用して彼らへの支援活動（補助教員の配置など）を行っている。

面談を通して明らかとなった同校の特徴としては、「平等・多様性・包摂グループ」や「社会・道徳・精神・文化グループ」などの教員グループが自主的に教育活動を行っていたことである。例えば、2022 年度から今年度にかけては、上記の「平等・多様性・包摂グループ」による活動が集中的に行われているという。また、近年目立ってきた生徒の精神保健の問題についても、支援チームを作って対応にあたっているとのことであった。

(1)クロックスリー・デーンズ校の学校カリキュラムと国際教育

同校の学校カリキュラムは、図 4-6 で示すように、三つのカリキュラム指針（Curriculum Intent）と四つのカリキュラム実装戦略から構成されている。三つのカリキュラム指針とは、①主体性をもつ



出典：調査団撮影。

クロックスリー・デーンズ校の正面

¹⁶ 先にも触れたように、「アカデミー（Academy）」（既存の学校が転換した学校）及び「フリースクール（Free School）」（新設された学校）とは、地方当局から離脱し、理事会（Trust Board）が教育省と直接契約を結び、学校運営費を国から直接受け取る学校である。ナショナル・カリキュラム及び教員給与基準の遵守義務はなく、教員免許未保持者を教員として雇用可能等の自由裁量権をもつ学校である。これらの学校形態の学校が複数集まって構成されているものを MAT という。この場合は、学校には理事会はなく、MAT として一つの理事会を置く。

¹⁷ 社会経済的に不利益な地域にある学校に対して、無料給食（Free School Meal）のステータスをもつ児童生徒数などの基準に基づいて配分される、社会経済的に不利な立場にある生徒への支援活動を重点的に行うための補助金。2011 年から実施されたものである。各学校は配分される予算の活用計画を作成する。

生徒の育成、②広い領域を関連付けるカリキュラムの実施、③授業を越えた応用力の育成、である。また四つのカリキュラム実装戦略とは、①学風 (Climate)、②挑戦課題 (Challenge)、③知識内容 (Content)、④論評 (Commentary)、である。同校がフリースクールであり、ナショナル。カリキュラムに準拠する義務がないことから、それに捉われないカリキュラムを策定していることがわかる。

クロックスリー・デーンズ校のカリキュラム指針			
主体的で、創造的で、興味関心をもつ生徒を育成する	広く、バランスの取れた、関連し合うカリキュラムを実施し、すべての生徒の成長と挑戦的な学びを提供する	学んだことを授業を越えて応用できる学習者を育成する	
よい授業に向けた共有原則を通じたカリキュラムの実装			
学風 (Climate)	挑戦課題 (Challenge)	知識内容 (Content)	論評 (Commentary)
すべての生徒に高い期待を寄せる。生徒は個人として尊重され、学びは個別化、包摂化される	すべての生徒への挑戦課題、独立性の向上	たくましい教科知識、効果的なアセスメント、社会道徳精神文化の発達、識字・話し言葉・数学発達への積極的働きかけ	効果的なフィードバックが生徒間の学び格差を解消し、生徒による学び過程の理解や課題達成方法の理解を促す
<ul style="list-style-type: none"> 授業開始時の あいさつ 授業開始時の小白板を用いた静かな活動 教室プロフィールに生徒個々の知識を提示する 授業での足場かけ (特に特別な支援を必要とする生徒などに対し) 褒めること 生徒が自信をもって取り組む/教室圖書の整理 教員が話す時の生徒の静聴 教室内掲示による学び促進 	<ul style="list-style-type: none"> 効果的な発問、挙手の活用 挑戦課題への機会/拡張課題 再現活動への日常的な機会 話し言葉スキルの開発 宿題による自分自身への挑戦機会 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の学術用語が教えられる リーディング機会が提供される 教員による模範演示 教員がたくましい教科知識を示す 生徒が様々な訂正手法によって支援される 2回のアセスメントポイントによるアセスメント 日常的な小さなアセスメントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での口頭でのフィードバック 筆記によるフィードバック RITが生徒によって行われる 緑色のペンによる自己アセスメント 生徒が学び達成をアセスメントで知ることと学び改善の目標を書くこと (彼らは進歩するために必要なことを知っている)

出典：クロックスリー・デーンズ校から提供された資料を調査団翻訳。

図 4-6 クロックスリー・デーンズ校のカリキュラム指針

また同校では、同様の理由からナショナル・カリキュラムにおいて必須として規定されている「シティズンシップ」は設定されていない。同じように、「人間関係・性教育と保健教育」も設定されていない。ただし、同校ではこれらの内容は教科横断的に扱われたり、特に「人間関係・性教育と保健教育」の内容は「PSHE」の中で扱われたりしているということであった。このような事情から、同校において国際教育の内容が多く扱われているのは、「地理」「歴史」「宗教・倫理・哲学 (Religion, Ethical and Philosophical Studies)」「PSHE」といったそれぞれの教科目の枠内であるということであった。

(2) 教科教育を通じた国際教育

同校には国際教育を調整する教員はいない。そのため、各教科目の枠内で国際教育に関連する内容が扱われている。「地理」及び「歴史」に関しては、イギリスとアフリカ、アジア地域の地理的な類似点や相違点、また宗主国と植民地の関係性の学習や、各国の歴史とイギリスとの繋がりなどの国際関係についての学習が扱われる。「宗教・倫理・哲学」では道徳的観点と倫理的観点を基礎として、イギリス社会における貧困問題の様々な原因と影響の学習が行われる。加えて、世界の貧困問題の影響とその解決策などについても触れられる。「演劇」では「グローバル化の影響」、「科学」では「気候変動」な教えなければならない単元がある。

さらに、前述したように、同校の特徴的な取り組みとしては「PSHE」がある。授業ではないが、2週間に1度、「PSHE」のトピックを扱う学年集会有り、ゲストスピーカーによる講話や関連知識の

紹介が行われる。基本的には学年別に集会が行われるが、合同学年集会、全校集会で一緒に行われることもあるということであった。以下に 2023/2024 年度の PSHE の年間トピックを示しておく（図 4-7）。本調査に関連が深いと思われる国際教育のトピックは太字で示した。例えば、「黒人の歴史（Black History）」「言語（Language）」「虐殺（Massacre）」「セクシャルマイノリティ（Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Questioning: LGBTQ）」などである。これらトピックは週間キャンペーンとして取り組まれ、「黒人の歴史」週間であれば、すべての教科においてアフリカの歴史や黒人差別の歴史、また人権の問題について触れるようにし、学校の食堂でもアフリカの料理が提供されることである。また「言語」週間であれば、生徒自身が自分の出身である民族のウェディング衣装をもち寄って、それを他の生徒に紹介するという学習活動が行われる。こうした学習活動は、単に知識だけでなく、生徒自らの体験や経験を活用するために、テーマについてより深い理解が可能になると同校教員たちは語っていた。

また、カリキュラム上、国際教育を扱うことが明示されていないが、教員の関心次第で国際教育を扱うことがあるという。例えば、「英語」では「詩」の単元において国際教育に関連する詩を選択するといったことである。

秋学期	自分の落ち着かせ方、親切な人になる、 黒人の歴史月間 1 、精神保健の維持、 黒人の歴史月間 2 、フェアトレード、ストレス対処、 ヘイトとは 、いじめ対策、地理週間、 現代の奴隷 、満足を遅らせること
春学期	依存症、糖分過剰摂取、 現代の虐殺 、 LGBTQ 月間 、安全なインターネット、児童労働、本の日、ケアラー週間、不健全な友人関係、 世界水の日 、 ラマダン
夏学期	健康運動・食事、シェイクスピア、自己と他者、英国の価値とは、急進派とは、 共感 、楽観性・積極性、逃れること、芸術、 アクティブ市民 、SNS

注：表中の太字は調査団による。

出典：クロックスリー・デーンズ校から提供された資料を調査団翻訳。

図 4-7 クロックスリー・デーンズ校の「PSHE」のトピック（2023/2024 年度）

(3) 課外活動を通じた国際教育

授業以外の課外活動を通じ、同校は積極的に国際教育を実施していた。課外活動は希望制であり、任意の生徒がクラブやグループに参加し、泊まりがけの行事を含め、学校内外で活動を行う。学校が実施するもの、学校外組織が実施するものに分かれている。Global Campaign for Education¹⁸、Send My Friend to School¹⁹、Global Action Plan²⁰、社会的環境的正義を求める大学生団体「People and Planet」のクラブ活動²¹などがあった。こうした学校外組織との連携は、Cox 副校長が個人的に有するネットワークによって開拓されていた。

¹⁸ 2000 年の世界教育フォーラム（ダカール）に先立って、1999 年に教育分野の市民社会組織（CSO）が立ち上げた教育開発の運動で、政府と市民社会に、世界中の子どもが教育を受けられるよう働きかけている。クロックスリー・デーンズ校によれば、オックスファム（Oxfam GB）が主導し、イギリスの学校に呼びかけをしている。なお、日本からは教育協力 NGO ネットワーク（JNNE）が加盟している。

¹⁹ Global Campaign for Education に向けたイギリス国内の運動。国際 NGO、教員組合が主催している。事業に参加する学校では生徒が自らと世界の生徒の教育改善について協議し、提案を作り、これを地域代表に伝える。地域代表は政治家に教育改善の提案を行う。

²⁰ イギリスの環境保護 NGO。大気汚染の予防や緑化運動推進を掲げている。

²¹ 社会問題、環境保護のためのイギリス学生の全国ネットワーク。次世代教育、経済・社会システム改善、教育改革を掲げている。クロックスリー・デーンズ校では、この活動に参加する生徒が気候変動に関する美術作品を制作し、全国の美術作品がイギリス議会に展示された。People and Planet は、このような中等学校での教育活動を支援している。

図 4-8 は、生徒会組織図である。生徒会の中に、環境、ウェルビーイング、平等チーム、デジタル・リーダー、報道、チャリティのサブグループがある。例えば平等チームでは、担当教員の支援の下に、人種や障がいの有無による差別をなくし、個人を保護することを目的とした地域活動を展開している。これは 2010 年に政府政策として始まったものが、2020 年のブラック・ライブズ・マター運動のうねりを受け、デーンズ・アカデミー・トラスト傘下の学校全体で取り組まれている実践である。具体的にはこのグループを中心に「包摂キャンプ」を夏休みに実施していた。



出典：クロックスリー・デーンズ校内の掲示を調査団撮影。

図 4-8 クロックスリー・デーンズ校の生徒会組織図

4-4-2 教員の授業計画（準備方法、学習指導案）

同校では、授業案は教科別チームと教員個人が独自に策定している。したがって上述の教科教育を通じた国際教育は、教科チームと教員個人の力量に委ねられる。チーム・個人の授業計画策定においてカリキュラム専門家が 10 名ほど関わっているという。

4-4-3 授業実践の様子と学習者に対する評価

(1) 授業実践の様子（その 1）

- 学年：7 年生、27 名（男子 11 名、女子 16 名）
- 教科：歴史
- 授業者：30 代後半の女性教員
- テーマ：Battle of Hastings
- 授業の展開：

<導入：13:20-13:30（10 min）>

- 投影したスライドに映し出された Battle of Hastings についての五つの質問について考える。
- 一つひとつ別の生徒にこれら質問に答えさせる（この時に間違っても敢えて訂正しない）。

<展開：13:30-14:10（40 min）>

- Battle of Hastings について書かれたスライドを示し、生徒に読ませる。
- Battle of Hastings で対立する二軍について、「軍隊の種類」「軍の経験」「軍の大きさ」「軍のエネルギー」の四つについて書かれた表を見せる。生徒はそれを見て、「どちらの軍が強いか？またそう考えた理由は何か？」を検討する。
- Battle of Hastings についての BBC 放送の 8 分ほどのビデオを視聴する。
- ビデオ視聴の後、課題として二つを示し、生徒に選択させ、どちらか一つの課題に取り組ませる。

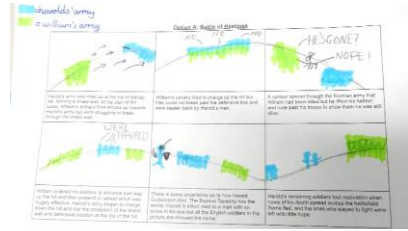
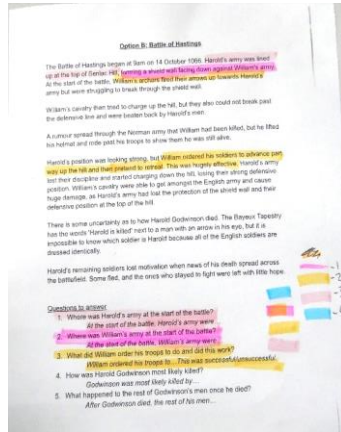


出典：調査団撮影。

クロックスリー・デーンズ校での授業実践の様子

(選択 A は Battle of Hastings の文章を読んで、問いに答える、選択 B は Battle of Hastings を 6 枚の絵で示す)

- 「なぜ、ウィリアムが勝利したのか？」という質問について各自が考える。



出典：クロックスリー・デーンズ校より提供。

クロックスリー・デーンズ校の「歴史」授業実践で生徒に配布されたプリント

<まとめ：14:10-14:20 (10 min)>

- Battle of Hastings について各自がその内容を発表。その際、テニスボール 1 個を用意し、それを受け取った生徒だけが話すことができるという興味深い活動とした。

(2) 授業実践の様子 (その 2)

■ 学年：8 年生、28 名 (男子 12 名、女子 16 名)

■ 教科：英語

■ 授業者：Mr. Wilson

■ 内容：Heaney の詩「Mid-term brake」

詩の内容はおおよそ以下の通り。

1. 大学生が就業後に車で家に連れて行かれると、そこに父親が泣いて待っていた。
2. 遺体が家に到着し、多くの人が迎える
3. 交通事故で亡くなった次の日に故人の葬儀が行わる

■ 授業の展開

<出欠確認 (4 分) >

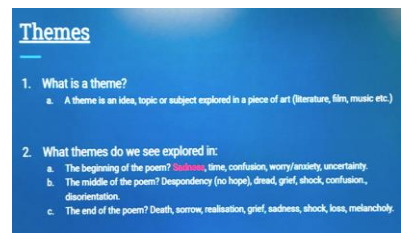
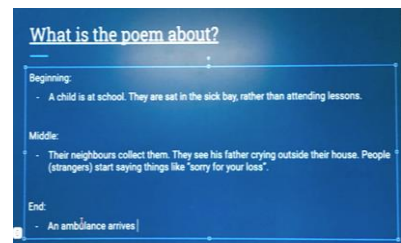
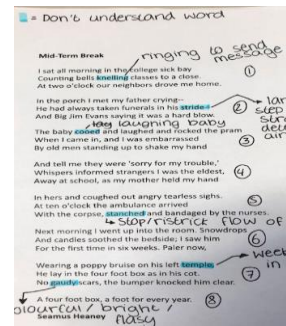
- 一人ずつ名前を呼ぶ、生徒が「Good afternoon, sir!」と返事
- 一人男子が遅れてくる。*この生徒が最後まで授業についていけず、Wilson 教諭は適宜個別指導をする。

<活動 1 (6 分)：詩の技法、構成要素などの知識クイズ、典型的な IRE 構造>

- 教員：「詩における行のかたまりを何と言うか」との問い
→生徒はノートの裏側のホワイトボードに記入
→教員の合図で生徒たちがそのホワイトボードを教員に提示
→教員が正解を確認
- このサイクルでクイズが 6 題程度続く

<活動 2 (16 分)：詩に書かれている事柄の確認>

- グループ 5 分：本日の詩を三つに分け、それぞれの段落で「何が起きているか」を話す
- 全体 11 分：段落別に起きている事実を確認



出典：調査団撮影。

クロックスリー・デーンズ校の「英語」の資料と授業風景

<活動 3 (7 分) : 主人公の感情について意見交換>

- グループ 2 分 : 人が亡くなったことがわかった際の主人公の青年の気持ちを想像する
- 全体共有 5 分

<活動 4 (4 分) : 同義語を考える>

- 詩とは一旦離れ、単語 Suggest の同義語をそれぞれ考えて発表する

<活動 5 (15 分) : 三つの段落それぞれを象徴する単語 (形容詞、抽象名詞) を考える>

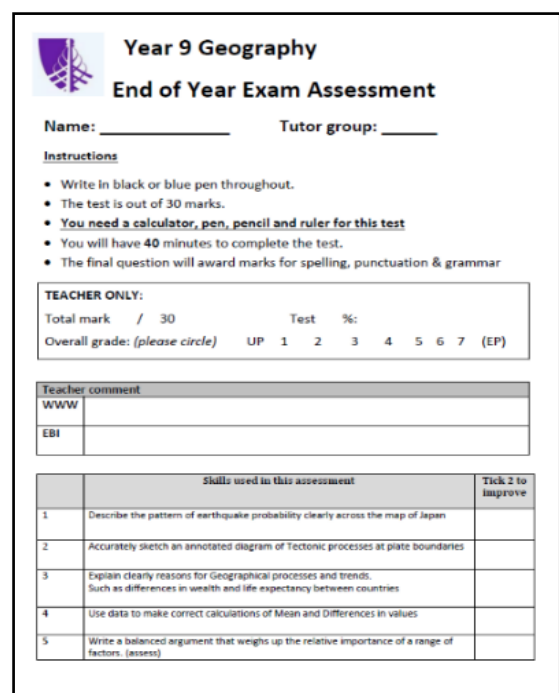
- グループ 6 分
- 全体共有 9 分

(3) 学習者に対する評価

国際教育としての評価方法はないとのことであった。教科教育の評価法は、主として内容・知識理解の測定をしているという。図 4-9 は「地理」の単元末試験の表紙である。次の頁に筆記試験 (30 点満点) が続く。右図のシートの下には、当該生徒の「地理」の知識とスキルが 2 点満点で評定され、中央部分で、当該学期の「地理」の評定が 1 から 7 の点数で提示される。スキルの評定が見られず、内容・知識ベースでの生徒評価をこのシートは示している。

出典 : クロックスリー・デーンズ校より提供。

図 4-9 クロックスリー・デーンズ校の「地理」の筆記試験の表紙



The image shows a form for a Year 9 Geography End of Year Exam Assessment. It includes fields for Name and Tutor group, instructions for the test, a teacher-only section for marking, and a table for skills used in the assessment.

Year 9 Geography
End of Year Exam Assessment

Name: _____ Tutor group: _____

Instructions

- Write in black or blue pen throughout.
- The test is out of 30 marks.
- **You need a calculator, pen, pencil and ruler for this test**
- You will have 40 minutes to complete the test.
- The final question will award marks for spelling, punctuation & grammar

TEACHER ONLY:

Total mark / 30 Test %:

Overall grade: (please circle) UP 1 2 3 4 5 6 7 (EP)

Teacher comment

WWW	
EBI	

	Skills used in this assessment	Tick 2 to improve
1	Describe the pattern of earthquake probability clearly across the map of Japan	
2	Accurately sketch an annotated diagram of Tectonic processes at plate boundaries	
3	Explain clearly reasons for Geographical processes and trends. Such as differences in wealth and life expectancy between countries	
4	Use data to make correct calculations of Mean and Differences in values	
5	Write a balanced argument that weighs up the relative importance of a range of factors. (assess)	

4-4-4 学校で活用されている教材・リソース

クロックスリー・デーンズ校においては、国際教育の教材が制度的にデーンズ MAT から紹介されるというよりも、同校の教員が自発的に組織・教材・リソースを入手して活用しているということであった。こうした教材購入には学校予算を用いることが可能である。

特徴的なのは、NGO の教材が、生徒の課外活動に活用されていたということである。上述したように、同校の教員 (特に副校長) は Send My Friend to School、Global Action Plan、オックスファム、ブリティッシュ・カウンシル (British Council) の情報に通じており、同校の学校行事とマッチングしているようである。近隣の開発教育センター (DEC) が提供している教材は「使っていない」とのことであったが、これは副校長の情報ネットワークに入っていないからではないかと思われる。

もう一つの情報源は、同校にコンサルティング・サービスを行う NPO の EqualiTeach である。「無意識のバイアスと偏見」「偏見から生じる事件への対処法」などの研修教材が無料で活用できる。なお、同校はフリースクールであるため、地方当局 (ハートフォードシャー州) から離脱しており、同地方当局からの国際教育なども含めた支援や教材提供はないということであった。

4-5 教員の能力強化（国際教育・現代的諸課題を扱うために教員への支援内容）

4-5-1 研修プログラムとその内容

イギリスにおける国際教育の実施状況に関する教員養成や研修について、制度的な特徴及び現地調査で訪問した学校での取り組みについて報告する。なお、教員養成・研修の制度的な概要については「4-1-3 教育実施体制」の「(2) 教員養成・研修」で詳述している。

(1) 教員スタンダード

教員スタンダードは 2007 年にプロトタイプ(Professional Standards for Teacher)が試行され、2011 年に現在の教員スタンダード(Teacher Standards)が制定されている。スタンダードは 8 項目からなり、それぞれ、①生徒の動機付け、②生徒の発達機会の保障、③教科と教育課程の知識、④授業計画立案と指導法の実施、⑤多様な生徒一人ひとりへの指導、⑥適切な生徒評価、⑦安全で良好な学習環境の保障、⑧教育専門職の責任遂行の内容となっている。これら 8 項目について、教員として期待される最低限のレベルが示される。教員研修機関や教員自身が教職の能力向上を評価できるようなフレームワークとして機能している。教員養成機関だけでなく、初任者研修や現職研修、教員評価、不適格教員や上級資格教員の審査、及び学校監査など多様な場面で用いられる(植田, 2018)。

教員スタンダードは、イギリスの教員養成・現職教員研修の多様化と不可分の関係にある。90 年代より教員教育の実践性と高度化が目指される中、後述するように教員研修の実施主体やコースが多様化した。多様化する教員教育の質を保証するために、入り口と出口、すなわち、教員の資質として必要なものは何か、実際に教育を受けた教員のパフォーマンスが基準に見合っているかを適切に管理することが目指されてきた。教員スタンダードは、Ofsted (Office for Standards in Education, Children's Services and Skills: Ofsted、教育水準監査院) による学校監査とともにイギリスの教育サービスの入り口と出口を規定する役割を果たしている(植田, 2018)。教員養成を行う機関(大学及び後述する先進校など)は、国によってその教員養成プログラムを厳格に審査されるが、その際も審査基準はこの教員スタンダードである。

イギリスには国の機関が付与する正規教員資格(Qualified Teacher Status)があり、行政が設置・運営する公営学校で教員になるためにはこの資格が必要となる。しかしながら、現在は学校経営の多角化及び教員不足対策によって民間が設置・運営するアカデミーでは、この資格がなくても教員になれるようになっている。

(2) 教員養成課程と国際教育

イギリスの教員養成教育は 1990 年代より、大学が主導するタイプ(学卒後教員養成課程<Postgraduate Certificate in Education: PGCE>)と、大学との連携をもとに各地の先進学校が行うタイプ(学校主導養成<School-Centred Initial Teacher Training>)が並存してきたが(佐藤, 2008)、2010 年代の連立政権発足後は後者が積極的に推進されている。政策として、地方教育行政を経ずに国家予算を教育の実践現場としての学校に直接繋ぐことを狙っている。この学校主導の教員教育は現職研修(ティーチング・スクール・ハブのネットワークによる国家専門職資格研修など)の制度作りも含み、ティーチング・スクールが地域の学校に提供する現職教員研修が増えている(植田, 2024)。2016/2017 年度では、養成課程受講者の割合は、大学主導より学校主導の方が多くなっている(盛藤, 2019)。

盛藤(2019)はこうした状況を受け、学校主導の教員養成のカリキュラムを 5 校の事例から分析し、以下の三つの特徴を指摘している。

- ・ 学校と教室のあらゆる場面に多様性に関する課題が内在していることを受け、教員養成の多文化

教育に関わる内容は、選択制や特定コースの選択という形式ではなく、複数の科目横断的に構成されている。

- ・ 配属学校での経験を通じて、児童生徒の多様性への気付きと応答に関する実践的訓練を提供する。
- ・ 授業計画、実践、振り返りのサイクルを通じて、多文化教育の要素をカリキュラムに位置付ける訓練を提供する。

先行研究からわかるのは、学校現場を通じた教員養成課程の中には、将来教員となる実習生が人種、民族、宗教、言語や文化の多様性や、特別支援ニーズ (Special Education Needs: SEN) や社会経済的に不利な立場の生徒の包摂を学ぶ機会が提供されていることである。

(3) 学校及びアカデミー内での国際教育の現職研修

このような現職研修の状況を踏まえて現地調査でわかったことは、学校レベルの国際教育は、国際教育に関心の強い幹部教員及び教員と外部民間組織 (クロックスリー・デーンズ校の場合は NPO) の二つ主体によって推進されていることである。

■クロックスリー・デーンズ校の現職研修の機会

現地視察したクロックスリー・デーンズ校では、第一に、国際教育に関心の高い副校長主導で学校の中に「平等・多様性・包摂」推進教員チームが組織され、全教員をあげた公正な教育への取り組みが行われていた。教員のチームとともに、生徒のチームも組織化されていた。Cox 副校長は、地理教員出身で、前職の学校 (Sir John Moore School) では国際教育を担当し、UCL のハント准教授と知己があり、ブリティッシュ・カウンシルやオックスファムの国際教育のプログラムを生徒に提供していた。

また同校は、多様な出身階層の生徒、社会経済的に不利な生徒を多く含む学校であり、日常の指導において、生徒の多様性配慮や包摂が必要となっていることも同校が国際教育に取り組む理由の一つであった。

こうした人材と社会的環境下にある同校では、表 4-9 のような現職研修の機会が確認された。

表 4-9 クロックスリー・デーンズ校の現職研修

制度的に機会が保障される研修		
公認教員資格 (Chartered Teacher status: CTS)	専門職大学	希望者への提供。Chartered College of Teachingが提供している15ヶ月の公認教員養成課程。資格取得には、優れた授業実践のエビデンスを示すこと、教育調査研究能力を認められること、専門知識を認められることなど多くの評価が必要である。希望者への提供。
国家専門職資格 (National Professional Qualifications: NPQs)	ハブ先進校	全国に87あるハブ先進校 (Teaching School Hubs, TSHs) が提供する教員資格研修。授業主任、行動文化主任、リテラシー主任、教員研修主任などの資格を4学期間で取得することができる。クロックスリー・デーンズ校の教員は近隣のアルバン先進校で研修を受ける。希望者への提供。
初任者枠研修 (Early Career Framework based training)	学校	教員採用から2年間は「初任教員」と呼ばれ、メンター教員の支援を伴う研修に参加する。初任教員は一定の期間は授業をせずに研修にあたる。研修にかかる費用は教育省の予算が配分される。教員の離職率が高いことから最近になって導入された。
「パートナーシップ」の研修	トラスト	同校が所属するデーンズ教育トラストが主催する、主として初任教員向け現職研修。コースによって研修期間が違い、数時間のものから数日を要するものまで様々である。
初任研修メンター研修	国/研修提供機関	国の規定でメンターを勤める教員に必須の研修。10時間以上の拘束 (研修) 時間がある。
現職研修の日	学校	同校では年間に5日間程度行われる。学校運営計画や法的に周知が必要な情報を学ぶ。
学校独自の研修		
フォーカスグループ研修	学校	すべての教員は学校内に組織される「平等・多様性・包摂」などの優先開発グループの会合に参加する。年間5日間、現職研修日に行われる。
学校開発有志プログラム (Educator led development programme)	学校	学校改善・授業改善に興味のある教師が集い、1年間にわたって活動を計画、提言、実施する。
校内研修	学校	教員の必要性に基づき、指導上の共有会。隔週で放課後に行われる。

出典：クロックスリー・デーンズ校から提供された資料を調査団翻訳。

研修のための学校予算が 2 万ポンド（約 380 万円）あり、研修希望者の調整を経て研修機会が提供される。これ以外にも校内のオンライン教員掲示板では学校内外の組織が提供する様々な研修が紹介され、参加希望者を募っている。また、日本の授業研究にあたるような同僚教員の観察と振り返りの会も行われているとのことであった。

なお、イギリスでは教員の離職率が高く、教員不足問題が深刻化していることから学校での初任研修が強化されている（植田、2024）²²。同校でインタビューした Chariotte 教諭は、昨年まで初任者枠の教員であり、同校でメンターの支援を受けながら研修を重ね、今年度からは、英語科に加え、全校生徒での「話し言葉」強化の担当教員となっている。これはおそらく英語を母語としない 265 名の生徒への指導と考えられる。Chariotte 教諭は、今年度から晴れて正規教員の一人となり頑張りたいと調査団に語っていた。

一方で、同校では教科教育に関しては教員と教科チームの独立性が高いことから、教科教育の知識内容面で、学校が行う国際教育の研修方針は見受けられなかった。

■デーンズ MAT と外部 NPO による国際教育の現職研修

同校の現職研修はデーンズ MAT と連携して行われる場合もある。前頁の表 4-9 の研修はデーンズ MAT のトラストが主催するものであったり、同 MAT 内の教員のネットワークを通じた情報共有会や授業研究会も行われているようである。

さらに特徴的なのは、外部団体による研修である。同校は EqualiTeach という NPO 団体のコンサルティング・サービスを購入し、学校改善に役立てている。この EqualiTeach は、同校のトラストであるデーンズ MAT と協定を結び、傘下の学校にコンサルティング・サービスを提供している²³。訪問したクロックスリー・デーンズ校が昨年度より力を入れている平等・多様性・包摂を目指す学校経営は、同 NPO の調査や助言に基づいている。平等・多様性・包摂グループ長の Flora 教諭は、EqualiTeach の支援を得ながらアクション・プランを策定・実施を調整している。同 NPO から関連教材の提供を受けて使用している。なお、イギリスでは学校予算でこれらのサービスを購入することから、毎年、教員の評判などを踏まえて評価を行い、これらの外部組織の取捨選択を学校の判断で行っている。

EqualiTeach による現職研修の一例

研修名	対象	研修の概要
平等と多様性についての研修（対面研修）	現職教員（一般教員からシニア指導者を含む）、教員を目指す学生、学校職員	<ul style="list-style-type: none"> 学校における平等を促進し、差別に立ち向かうためのスキル、知識、自信を習得する 批判的で対立的ではなく、オープンで正直な環境において懸念事項を提起できる安全な空間を提供することを通じて一人ひとりの意見が敬意をもって扱われることを学ぶ 小集団での活動、集団全体での討議などインタラクティブな手法を用い、参加者間や専門のファシリテーターから平等と多様性について学ぶ
学校での平等、多様性、包括性のための戦略（オンライン）	現職教員（シニア指導者）	<ul style="list-style-type: none"> 学校現場における平等、多様性、包括性に関するトピックについて、オンラインによって参加者がインタラクティブに活動を行うことで理解を深める 既存テーマとしては「無意識の偏見」「なぜ平等なのか？」「物議を醸す問題について若者と協力する」「偏見に関連した事件への効果的な対応」「包括的な雇用・採用」「平等の言語」など 15 コースがあるが、要望により新たなテーマ設定も可能である。

出典：EqualiTeach のホームページを参照して調査団作成（<https://equaliteach.co.uk/>）。

²² イギリスでは、2019 年から、初任者教員が着任後 2 年間、教育省が定める Early Career Framework（ECF）に基づいた教育活動などに関する支援（メンターによる支援など）を受けることができる仕組みが導入された。

²³ デーンズ MAT の中心校であるセントクレメントデーンズ校は、同 NPO の協力を得て校内の平等な学び環境を整備し、同 NPO が設けている Equalities Award を獲得している。

4-6 国際教育にかかる教育政策から学校現場の実践までの過程の考察

(1) 学校の自立性とアカウンタビリティ

イギリスでは 1988 年教育改革法に基づく自立的学校経営の導入以降、教育課程、教職員配置、財政などの学校経営における自立性が保証されている。教育課程については、全国的な標準としてのナショナル・カリキュラムに基づきながらも学校の状況を考慮しながら各学校の権限と責任において教育課程を編成し、具体的な教育活動を展開している。そしてその教育活動を効果的かつ効率的に運用していくために、原則児童生徒数に応じて配分される学校補助金や社会経済的に不利益な児童生徒の人数に応じて配分される補助金 (Pupil Premium) 等の予算を運用している。

他方でこのような学校経営の成果は、ナショナル・カリキュラムに基づく中等教育終了資格試験などの全国共通試験において生徒の学力として判定される。そしてその結果は、School Performance Table として公表される。また同時に、学校監査 (School Inspection) によっても評価され公表される。学校監査は 1992 年に組織改編して設置された Ofsted によって実施される。学校監査では、監査官が全国共通試験結果などの全国的に集積されている公的データなどをもとに学校の経営状況を事前に分析し、その結果に基づいて実際に学校訪問し、授業観察やヒアリングなどを実施する。そして、児童生徒の学力到達度、指導の質、児童生徒の態度や安全管理、校長のリーダーシップとマネジメントの各項目について 4 段階で設定されている全国的に統一された一律の基準で評価を行い、学校監査報告書を作成し公表する。各学校では学校監査報告書に基づいて学校改善計画を立て、常に学校改善に取り組むことが求められている。

つまり、イギリスでは国がナショナル・カリキュラムという全国共通の標準としての基準を設定して「入り口」を管理し、教育活動について各学校の自立性を保証し、その成果を国が全国共通試験や学校監査という形で「出口」を管理するという構造になっている。このような学校の自立性とアカウンタビリティというシステムのもとで国際教育も含めた教育活動が実施されているという特徴がある。

(2) ガバナンス構造の変容と地方当局の役割

イギリスの学校ではこのような自立性をもった状況に加えて、2010 年以降からは、アカデミーやフリースクール、さらにそのような学校が複数校で一つの学校群として学校経営を行う MAT の量的拡大という状況が見られている。

アカデミーやフリースクールは、通常の公営学校とは異なり、地方自治体から離脱し、学校補助金を国から直接受けるとともに、ナショナル・カリキュラムや全国教員給与基準などの遵守義務がないこと、教員の教員免許取得義務がないことなどの特徴を有している。このような学校の拡大促進と学校の質的管理を図るために、全国及び地方学校コミッショナーも配置されており、地方当局の統治下にある公営学校とは異なる学校のガバナンス構造を生み出している。

前述したように、このような学校は中等学校において約 8 割を占めており、このことは、国際教育を含めた学校での教育課程及び教育活動を取り巻く制度的な背景として理解しておくことが重要である。またメゾシステムとしての地方当局の役割を検討する上でも学校教育に対する地方当局の権限が限定的 (特別支援教育、登下校の交通手段の確保など) であることも理解しておくことが必要である。

(3) 学校でのカリキュラム開発と教育活動支援

前述したように、イギリスでは学校が自立的に教育課程の編成を行い、そのための条件整備についても学校が財政面や教員配置の面も含めて全て学校の権限と責任のもとで行う仕組みとなっている。そのため、各学校が児童生徒のニーズや学校の状況を考慮しながら教育課程を編成する必要がある。

また、イギリスにはナショナル・カリキュラムはあっても教科書検定や教科書の使用義務などはない。そこで、各学校には自分たちが編成した教育課程や教育活動を的確に実施できるような教材開発や教材の選定、教育活動の検討が求められている。そのため、イギリスの学校では学校外の教科など

の専門的な組織や教材関係の企業など多様な学校外の組織から、各学校において自立的に効果的な教育活動を展開するために、教育課程の編成、教材開発、教材提供、学習評価、学力分析などのサービスを、学校のニーズや児童生徒の社会経済的状況、財政状況などを学校管理職及び学校理事会が検討した上で購入している。

このような仕組みの中で、国際教育に関する支援サービスを提供する機関として、ロンドン・グローバル学習（Global Learning London）、レディング国際連帯センター（Reading International Solidarity Centre）などの開発教育センター（DECs）、オックスファム（Oxfam GB）及びロンドン大学の開発教育センター（DERC）などが挙げられる。DECs は、国際開発省（DfID、当時）からの資金提供によって整備が進み、国際教育の推進活動を展開してきた団体である。しかし、2020 年に DfID が外務・英連邦・開発省（FCDO）に組織編制され、かつ政策の優先事項が開発途上国への支援になったことで、イギリス国内向けの国際教育への財政支援は現在止まっている。このことは DECs において独自に資金調達しなければならないということを意味し、学校へのサービス提供を縮減したり限定的にせざるを得ない状況をもたらしている。

このほかにも、PSHE 協会（PSHE Association）のような全国規模の教科毎の専門組織などもあり、教材開発や教材提供、研修などの支援活動を実施している。さらに民間や NGO など多様な組織が学校への支援を行っている。

またイギリスでは教員の長時間労働や労働環境整備が問題となっており、その要因として授業準備や教材開発の負担増が指摘されている。そのため、イギリスでは、本節でも紹介したように、新しい組織として 2020 年にオーク・ナショナル・アカデミー（ONA）を設置し、国が質保証した教材や教育活動支援のサービスを無料で提供している。

しかしこのような外部の機関に教材開発や教授活動支援を過度に依存する傾向に対しては、教員の教材開発能力の成長によい影響は与えないという指摘もある。

(4) 全国統一の教員スタンダードと枠組みに基づく教員養成・研修

学校での国際教育も含めた教育活動を効果的に実施するためには、学校管理職や財務担当者のマネジメント能力などが重要である。また的確な教材開発や教授活動を展開できる教員の存在も重要である。

そのためイギリスでは、学校管理職及び教員の資質能力に関する全国統一の専門職スタンダードを策定し、そのスタンダードに基づく教員の資格枠組みを設定し、教員養成や研修の仕組みを整備している。各学校においてはその仕組みを活用しながら、教員の資質能力の向上を図っている。

4-7 フェーズ I 時点からの変容

これまで見てきたイギリスの教育制度、教育課程、国際教育に関する基本政策・方針、国際教育に関する学習内容、学校現場での実施体制・指導方法について、フェーズ I 時点（調査期間：2011 年 12 月～2014 年 3 月）から変化した点を以下に示す。なお、以下の表には第 8 章で述べる開発援助機関などの国際教育関与についてのフェーズ I 時点からの変化も含まれている。

項目	フェーズ I 時点の状況	今回の調査時の状況
教育制度 教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 調査時点はナショナル・カリキュラムの改訂中であり、これまでのキー・スキル（①コミュニケーション、②数字の活用、③情報技術、④他者との協働、⑤自分の学習と成績の向上、⑥問題解決、⑦思考力）を各教科を通して学ぶという基本姿勢から、「英語」「数学」「理科」については教えるべき教科知識を手厚く記述するという方向転換が起こる過渡期であった。 改訂中のナショナル・カリキュラムでは「会話言語（話し言葉）」と「コンピューティング」の重視。 改訂中のナショナル・カリキュラムでは、学習を通じて習得させたい資質・能力（スキル）は各教科の学習プログラム内に示される目標や教科の中に含まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> フェーズ I 後の 2014 年改訂のナショナル・カリキュラム（枠組み）が使用されている。ただし、各教科別の「学習プログラム」は適宜改訂されている。例えば、「算数・数学」及び「音楽」の学習プログラムは 2021 年改訂である。それ以外の教科目は 2013 年～2015 年の期間に改訂されたものである。
国際教育に関する基本政策・方針	<p>【シティズンシップ】（KS1～4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2000 年にナショナル・カリキュラムに「シティズンシップ」が新しい教科として導入されて以来、公費補助を受けていない私立学校を除く、すべての学校において 2002 年 8 月の新学年から実施。 KS1～2 では PSHE (Personal, Social, Health and Economic Education) の中で実践されていた。他方、KS3～4 では、①独立した教科として実施、②他の教科の時間に関連付けるか、あるいは教科横断的にテーマ学習として実施、③特別活動（学級活動・生徒会活動・学校行事・学校理事会等への参加など）として実施、という三つの実施方法から各学校が選択するようになっていたが、ほとんどの学校は②として実践。この理由は「シティズンシップ」の専門性をもった教員が少ないこと。 「シティズンシップ」の学習内容と方法は、資格カリキュラム機構（Qualifications and Curriculum Authority: QCA）によって 2007 年に『学習プログラム (Programme of Study)』が作 	<p>【シティズンシップ】（KS1～2）</p> <ul style="list-style-type: none"> 必須科目ではないものの、「学習プログラム」が策定されており、学校現場での実践が奨励されている。 2015 年改訂の「学習プログラム」では、「尊敬と寛容」「権利と責任」「活動的な市民」といった内容が扱われ、社会における他者との関係の中で、自分自身の立場を見出し、態度で表現していくというグローバルな人材の欠かすことのできない内容が扱われる。 <p>【シティズンシップ】（KS3～4）</p> <ul style="list-style-type: none"> 2013 年改訂の「学習プログラム」では「民主主義への参加」「地球規模の視点」といった内容が扱われ、特に KS4 においてはイギリス国内だけでなく国外、世界各国の政治形態や選挙方法、さらには宗教や民族的アイデンティティについて学ぶ内容が取り入れてられており、かなり「グローバル・シティズンシップ」を意識した内容となっている。 QCA は 2010 年に Ofqual (Office of Qualifications and Examinations Regulation、資格試験監査院) と QCDA (Qualifications and Curriculum Development Agency) という新組織に分かれた後、QCDA はさら

	<p>成。</p> <p>【グローバルな次元】</p> <ul style="list-style-type: none"> ナショナル・カリキュラムにあるグローバルな考え方・視点を育成するために教育省、QCA、DfID、DEA、British Council などが協力して『Developing the Global Dimension in the School Curriculum』（2005年）を作成、各学校に配布。 同冊子を実践するために「グローバル・ラーニング・プログラム（Global Learning Programme: GLP）」が計画されている。 	<p>に 2012 年に指導局（Teaching Agency）と標準試験局（Standards and Testing Agency: STA）の二つに分かれた。現行の「シティズンシップ」の「学習プログラム」は教育省によって策定されている。</p> <p>【グローバルな次元】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2005 年作成の『Developing the Global Dimension in the School Curriculum』に言及する学校などは以前に比べかなり少なくなってきたが、この基本的な考え方は健在であり、「グローバルな次元」プラットフォームは提供組織が代わったが継続されており、国際教育に関する情報交換がオンライン上で行われている。 2010 年に「グローバル・ラーニング・プログラム（GLP）」が教育省、DfID による資金提供によって始まり、Pearson、Geographical Association、ロンドン大学（UCL）教育研究院（IOE）、Oxfam UK、王立地理学会（Royal Geographical Society）が実践を促進した。2018 年に終了したが、その後はブリティッシュ・カウンシルが「グローバル学習で教室をつなぐ（Connecting Classrooms through Global Learning）」として引き継がれたが、これも 2022 年に終了した。 <p>【その他教科】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地理」「歴史」（ともに KS1～3）、「PSHE」（KS1～4）などの教科目において、かなり国際教育に関連した学習内容が取り入れられている。
<p>国際教育に関する学習内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> イギリスでは 21 世紀の複雑化する社会を生き抜いていく上で必要な資質・能力を、国際教育を通じて児童生徒に習得させていくことが早くから認識されており、様々な資質・能力及び方法論が示されている。 ✓ 『Developing the Global Dimension in the School』：（態度・価値）社会的、文化的、言語学的、倫理的な多様性を尊重する態度、（キー・スキル）①コミュニケーション能力、②文化横断的なコミュニケーション能力、③他者と協働できる能力、④ある事象についての多様な考え方があることを認識できる能力、⑤思考力 ✓ 開発教育センター（DECs）：①自己認識、②コミュニケーションと共感、③紛争解決と協力、④批判的で創造的な思考、⑤行動を起こす能力 	<ul style="list-style-type: none"> 現在も基本的に同様。 「地理」「歴史」（KS1～3）、「シティズンシップ」「理科・科学」「宗教」「人間関係・性教育と保健教育」「人格・社会・保健・経済教育（PSHE）」

		<p>(KS1～4)においてかなりの程度、国際教育及び現代的諸課題の内容が扱われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育省により「持続可能性と気候変動：教育と子どもへのサービスシステムの戦略」（2022 年）が推進されている。これは学校に限らず、地域社会全体において取り組んでいくべきものとして定義され、2030 年までにイギリスが持続可能性と気候変動の分野で世界をリードする教育セクターになることが目指されている。
学校現場での実施体制・指導方法	<p>【レザーヘッド・トリニティ小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英語を母国語としない外国からの移住者、低所得者層、貧困家庭出身の児童が少なくなく、21%の児童は多様な民族構成となっている。 • 「今月の外国語（Language of the Month）」や「グローバル・コミュニティ週間（Global Community Week）」を設定し、簡単な外国語の挨拶や異なった国の文化を学ぶ活動を実施。 • アフリカのウガンダの小学校とのパートナーシップ協定を結び、情報共有や共同プロジェクトの実施。 <p>【エルム・ウッド小学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • もとは「改善必要」と評価された荒廃した学校で、近隣の同様な学校を統合して、学校運営改善を実施した結果、地域の優秀校に生まれ変わった。同校には移民の児童が多い。 • 「Global Arts Day」「Global Arts Week」「International Day」などを設定して、国際理解が深められる学習を実施。 	<p>【クロックスリー・デーイズ校】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全生徒約 900 人のうち、半数が民族的にイギリスとは異なった文化背景をもった家庭の出身である。 • 「卓越性」「尊敬」「信頼」の原則に基づいて、伝統を重んじると同時に変革への取り組みも積極的に行い、自信に溢れ、好奇心と勇気をもった人間形成を目指している。 • 各教科目はもちろんのこと、「PSHE」などの教科横断的な学習活動を通じて、国際教育の内容を実践している。 • 学校として、「黒人の歴史週間」などを設けて、その週は、全教科の学習において、「アフリカの歴史」「黒人差別」「人権」といったテーマを取り入れるようにしている。また食堂で提供される献立もアフリカ料理を含んだものとしている。
開発援助機関等の国際教育への関与	<ul style="list-style-type: none"> • イギリス国際開発省（Department for International Development: DfID）は従来からの開発教育と並行してグローバル教育（Global Education）やグローバル学習（Global Learning）を積極的に推進。 • こうしたグローバル教育は、①社会正義と公正、②多様性、③グローバル化と相互依存、④持続可能な発展、⑤平和と紛争、といった 5 つの概念を中心に展開（『Developing the Global Dimension in the School Curriculum』の中の 8 つの鍵概念と一致） • 国際教育に関する DfID の役割としては、①国際教育推進のための政策的資料の策定（『Developing the Global Dimension in the School Curriculum』『Get Global』など）、②開発 NGO への資金提供（「開発問題認識基金（Development Awareness Fund: DAF）」「小規模 	<ul style="list-style-type: none"> • 2020 年の組織改革によって、DfID は外務・英連邦・開発省（Foreign, Commonwealth and Development Office: FCDO）に統合された。 • 新組織 FCDO でも既存の国際開発法（International Development Act, 2002）に基づいて開発援助活動は継続されているが、教育分野における援助はほぼすべて開発途上国に対する援助であり、イギリス国内の学校や若者に向けた国際教育実践は行われていない。 • ただし、2022 年までは DfID の支援を引き継ぐ形で、ブリティッシュ・カウンシルが実施する「グローバル学習で教室をつなぐ（Connecting Classrooms through Global Education）」に資金を提供していた。 • イングランド各地に設置された開発教育センター（DECs）は資金難のため、多くが閉鎖されたり、活動を制限したりしている。フェーズ I 時点では

<p>助成基金 (Mini-Grant Fund: MGF)」、③国際教育関連プロジェクトの実施 (Global School Partnership: GSP、Global Students Forum、Global Learning Programme Scotland など)、の3つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 上記の中の中心的プロジェクトである GSP は 2003 年にブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ教育財団、UK ワン・ワールド・リンクング協会、VSO らで構成される共同事業体によって、イギリス国内の学校とアフリカやアジア、ラテンアメリカの学校との交流を行う活動である。 • この GSP は 2013 年に終了予定であることから、DfID はブリティッシュ・カウンシルと共同で「Connecting Classrooms」を立ち上げ、この活動を継続する予定である。 • 「Global Learning Programme (GLP)」を計画中で、このプログラムにおいて学校でのグローバル学習の普及のために教員に対する継続的なプロフェッショナル・デベロップメント研修を実施する予定。調査時点ではこのプログラムを運営できる組織が検討されている段階 (例えば、Think Global や DEC など) 	<p>48 あったが、現在では 28 に激減した。その内訳は以下のようなものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ イングランド：37→21 ➤ スコットランド：6→5 ➤ 北アイルランド：1→1 ➤ ウェールズ：4→1 <p>(スコットランド、北アイルランド、ウェールズは政治体制が異なっているため、現在の資金難の影響を受けたのは主としてイングランドの DECs である)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 開発 NGO も資金難のため、国際教育の関連活動が大きく制限されている。例えば、オックスファム (Oxfam GB) では、従来の国際教育活動を行っていた部署は「教育&キャンペーン課」と他部署と合併され、教育担当者も複数名から 1 名に削減された。現在、直接学校現場に対して直接的に国際教育を推進する活動は行っておらず、既存の教材のアップデートなどが主要な業務となっているということであった。
---	--

付属資料 1：教科「地理」（キーステージ 1～3）の学習内容

目標				
<ul style="list-style-type: none"> • 地形的・人文的な特徴の定義やこうしたことが行動を理解するための地理的文脈をどのように提供するのかということを含んだ、陸上及び海洋の両方における世界的に重要な場所の文脈的知識を発展させる。 • 世界の主要な地形的・人文的な特徴を生起する過程、それらがどのような相互関係をもっているか、またそれらがどのように空間的変動、時間的変動をもたらすかについて理解する。 • 次のような場合に必要とされる地理的スキルを獲得する。 <ul style="list-style-type: none"> - 地理的過程の理解を深めるための野外調査を通して収集された広範なデータの整理、分析 - 地図、図表、地球儀、航空写真、地理情報システム (GIS) を含む多様な地理的情報の解釈 - 地図、数値的及び定量的技能、長文の執筆を含む多様な方法での地理的情報の検討 				
成果				
<ul style="list-style-type: none"> • 各キーステージの終わりまでに、教科における具体的に示された知識内容、技能、学習過程を知り、応用し、理解することができるようになる。 				
学習内容				
KS/領域	位置の情報	場所の知識	人文・自然地理	地理的スキルと野外調査
KS1	<ul style="list-style-type: none"> • 世界の 7 大陸と 5 大洋の名前と位置 • イギリスを構成する四つの国とその首都とそれを囲む海洋の名前と位置と特徴 	<ul style="list-style-type: none"> • イギリスのある地域の人文地理と自然地理の学習を通して、その地理的類似性と独自性を理解する。また対照的な非欧州諸国のある地域におけるそれについても理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> • イギリスの季節的気候及び日々の天候のパターンを理解する。また世界の暑い地域と寒い地域について赤道や北極、南極との関係から理解する。 • 次のことを参考に基礎的な地理用語を使う。 <ul style="list-style-type: none"> - 海岸、崖、沿岸、森林、丘陵、山岳、海洋、大洋、河川、土壌、溪谷、植生、気候、天気を含む主要な自然的特徴 - 都市、町、村、工場、農場、家屋、会社、港湾、商店を含む主要な人文的特徴 	<ul style="list-style-type: none"> • このキーステージにおいて学習されるイギリスやそれを構成する国々、世界の諸外国、大陸、大洋を世界地図や地図帳、地球儀を使ってその位置を示すことができる。 • 簡単な方位磁石（東西南北）と位置や方向を指す用語（例えば、近く、遠く、左、右）を使って、地図上で位置や特徴、経路を説明できる。 • 航空写真を使って、ランドマークや基本的な人文的・自然的特徴を認識する視点を計画することができる。また単純な地図を多様化することができる。さらにキーで基本的な記号を使用し、構築することができる。
KS2	<ul style="list-style-type: none"> • 欧州（ロシアを含む）の地図、南北アメリカの地図を使って世界の国々の位置を知るとともに、それぞれの地域の環境、主要な自然的・人文的特徴、国名や都市 	<ul style="list-style-type: none"> • イギリス、欧州、南北アメリカ地域の人文的・自然的地理の学習を通じて、地理的類似点及び相違点について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 次の主要な事柄について理解し、説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> - 気候区、生物群・植生帯、河川、山岳、火山、地心、水の循環を含む自然地理 - 移住形態、土地利 	<ul style="list-style-type: none"> • 地図、地図帳、地球儀、コンピュータを使って、学習した国々の位置を示し、その特徴を説明できる。 • 8 方位が描かれた方位磁石、4 行と 6 行から構成された方眼

	<p>名がわかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> イギリスを構成する国々と都市の名前と位置、地理的な位置、人文的・自然的特徴、主要な地形的特徴（丘陵、山岳、海岸、河川を含む）や土地利用状況、それらの土地の変化について理解できる。 緯度、経度、赤道、北半球、南半球が理解できる。また北回帰線、南回帰線、北極圏、南極圏、昼夜を含むグリニッジ子午線、等時帯も理解できる。 		<p>用、貿易を含む経済活動、エネルギー、食料、鉱産物、水を含む天然資源の埋蔵を含む人文地理</p>	<p>紙、記号とキー（測量地図の使用を含む）を使って、イギリス及び世界の知識を構築できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地図や図表を描くなど多様な方法を用いて身近な地域の人文・自然的特徴を観察し、測量し、記録し、発表するために野外調査を行う。
KS3	<ul style="list-style-type: none"> アフリカ、ロシア、アジア（中国及びインドを含む）、中東を示した世界地図を使って、世界の国々の位置や配置についての理解を深める。また極や灼熱の砂漠を含む各地の環境や各地の自然的・人文的特徴を理解する。さらに国々の名前や都市についても理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> アフリカやアジア地域の人文・自然地理の学習を通じて地理的類似点と相違点、及び地域の関係性について理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 次のような詳細な地域の例の学習を通して理解する。 <ul style="list-style-type: none"> 地質学的年代とプレートテクトニクス、岩石と気象と土壌、氷河期から現在までの気候の変化を含む天気と気象、氷河作用、水文学、海岸に関する自然地理 人口と都市化、国際的発展、第一次・第二次・第三次・第四次産業、天然資源の活用といった人文地理 人文及び自然過程がどのように関係して風景や環境、気候に影響を与え変化させているのかを理解するとともに、人間はどのように自然界の機能に頼っているのかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地球儀や地図、地図帳についての知識を獲得し、授業や野外活動においてその知識を活用し、発展させていく。 方眼紙や縮尺の使い方、地形図やそれ以外の目的で描かれた地図、航空写真や人工衛星から撮影された写真を含む測量地図を授業や野外調査において読み取る。 地理情報システム（GIS）を使って、場所やデータを分析し、解釈する。 複雑な情報を含む多様なデータを使用して、地理的情報を収集し、分析し、結論を導くために場所を特定する。

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 2：教科「歴史」（キーステージ 1～3）の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> • どのように人々の生活がこの国において形成されたのか、どのようにイギリスは世界に影響を与えたのかなど、古代から現在までのイギリスの歴史を首尾一貫した時系列の物語として理解する。 • 古代文明、帝国の拡大と崩壊、過去の非欧州社会の特徴、人間による成果と愚行など世界の歴史の重要な事柄について理解する。 • 「帝国」「文明」「議会」「農民」などの抽象的な用語を歴史に基づいて理解する。 • 連続性と変化、原因と結果、類似性と相違点、重要性などの歴史的概念を理解し、それらを使用して事象を繋げ、対比を描き、傾向を分析し、歴史的に有効な問いを組み立てて、記述された物語と分析を含む独自の構造化された説明を行うことができる。 • 歴史的主張を行うために、証拠を厳密に使用方法を含め、歴史的調査の方法を理解し、過去の対照的な議論と解釈がどのように、そしてなぜ構築されたかを理解する。 • 発展する知識を様々な文脈にあてはめ、地方、地域、国内及び国際的な歴史の間の繋がりを文化、経済、軍事、政治、宗教、社会史の間、そして長期と短期の間において理解する。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> • 各キーステージの終わりまでに、教科における具体的に示された知識内容、技能、学習過程を知り、応用し、理解することができるようになる。 	
学習内容	
KS1	<ul style="list-style-type: none"> • 歴史は生きている記憶の中で変化し、必要に応じて記憶は国民生活の変化の側面を明らかにするために使用されるべきであることを理解する。 • 国内的または世界的において重要な事柄（例えば、ロンドンの大火、最初の飛行機の飛行、フェスティバルや記念日に行われる行事）は人々の記憶に鮮明に残っていることを理解する。 • 国内及び国際的な業績に貢献した過去の重要な人物の生活については、異なる時代の生活の側面を比較するために有用であることを理解する。（例えば、エリザベス 1 世とビクトリア女王、クリストファー・コロンブスとニール・アームストロング、ウィリアム・キャクストンとティム・バーナーズリー、長老ピーター・ブリューゲルと LS ローリー、ローザ・パークスとエミリー・ディヴィソン、メアリー・シーコール及び/またはフローレンス・ナイチンゲールとエディス・キャベル） • 重要な歴史的出来事、地元の人々、場所について理解する。
KS2	<ul style="list-style-type: none"> • 石器時代から鉄器時代のイギリスの変化を理解する。 • ローマ帝国とイギリスへの影響について理解する。 • アングロサクソンによるイギリスへの定住とスコットランドについて理解する。 • エドワード懺悔王の時代までのイングランド王国をめぐるバイキングとアングロサクソンの闘争について理解する。 • 地域の歴史について調べる。 • 1066 年以降の歴史について年代順の知識を拡大させる。またイギリスの歴史におけるテーマ研究を行う。 • 初期の文明の成果：最初の文明が出現した場所と時期の概要と、「古代シュメール」「インダス渓谷」「古代エジプト」「古代中国の殷王朝」のいずれかについて詳細に調べる。 • 古代ギリシア：ギリシア人の生活と業績及び西洋世界への影響に関して調べる。 • イギリスの歴史との対比を提供する非欧州社会：「バグダットの研究を含む初期のイスラム文明：AD900 年頃」「マヤ文明：AD900 年頃」「ベナン（西アフリカ）：AD900-1300 年頃」から一つについて調べる。
KS3	<ul style="list-style-type: none"> • 中世イギリスにおける教会、国家、社会の発展（1066-1509 年）について理解する。 • イギリスにおける教会、国家、社会の発展（1509-1745 年）について理解する。 • 思想、政治力、産業、大英帝国（1745-1901 年）について理解する。 • 1901 年から現在までのイギリス、欧州、そして世界の課題について理解する。またホロコーストについて調べる。 • 地域の歴史について調べる。 • 1066 年以前からの歴史について年代順の知識を統合し拡大させる。またイギリスの歴史におけるテーマ研究を行う。 • 世界史における重要な社会問題、及び他の世界の発展との相互関係に関する少なくとも一つの調べ学習を行う。（例えば、インドのムガル帝国：1526-1857 年、中国の清朝：1644-1911 年、ロシア帝国の変化：1800-1989 年、20 世紀のアメリカ）

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料3：教科「シティズンシップ」(キーステージ3~4)の学習内容

目標	
<ul style="list-style-type: none"> イギリスが国家としてどのような政治体制で統治されているのか、また民主主義体制において国民はどのように政治に参加しているのかについての正しい知識を獲得し、理解する。 社会における法の支配及び司法制度、そして法律がどのように制定され、施行されるのかについて正しい知識を獲得し、理解する。 慈善事業やそれ以外の責任のある社会活動に、成人してから参加することに興味をもち、コミットする気持ちを育てる。 政治問題について批判的に思考し討論できる技能を身に付けたり、日々の金銭の取り扱いや将来の必要性に向けた金銭の計画的な管理ができる。 	
成果	
<ul style="list-style-type: none"> 各キーステージの終わりまでに、教科における具体的に示された知識内容、技能、学習過程を知り、応用し、理解することができるようになる。 	
学習内容	
KS3	<ul style="list-style-type: none"> 国民の役割や議会、君主を含むイギリスの民主主義政府の政治体制の発展について理解する。 投票及び選挙、政党の役割を含む議会の運営について理解する。 イギリスの国民に享受されている貴重な自由について理解する。 警察の役割、裁判所及び法廷の運営を含む法の支配と司法制度について理解する。 社会における公的機関と任意団体が行う役割、学校を中心とした活動への参加の機会を含む地域社会の改善に向けた市民の共同活動のあり方について理解する。 お金の機能と使い方、予算編成とリスクマネジメントの重要性について認識する。
KS4	<ul style="list-style-type: none"> 政府の権力、権力者に説明責任を負わせる市民と議会の役割、行政、立法、司法の異なった役割、報道の自由を含むイギリスにおける議会民主制と憲法の重要な要素について理解する。 イギリス国内外における異なった選挙制度と、市民が地域においてまたは国家において、さらにはそれ以上の範囲で選挙結果に影響を与えることができる民主的選挙制度における行動について理解する。 イギリス国外における民主的政府制度及び非民主的政府制度について理解する。 私たちの住むコミュニティ行政、地方行政、国際行政及び欧州諸国、イギリス連邦、国連、さらには全世界とのイギリスの関係について理解を深める。 人権と国際法について知る。 イギリスにおける法制度、様々な法源及び法律がどのように複雑な問題の解決に寄与するかについて知る。 イギリスにおける多様な国、地域、宗教、民族的アイデンティティと相互尊重と理解の必要性について理解する。 慈善活動やその他の責任ある活動に積極的に参加するなどを含めたコミュニティ改善を行うための多様な方法について知る。 収入と支出、信用と負債、保険、貯蓄、年金、金融商品及びサービス、公的資金がどのように集められ、使われるかについて知る。

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料 4：教科「理科・科学」（キーステージ 3～4）の学習内容

<p>目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物、化学、物理の特定の分野の学習を通じて、理科的知識と概念的理解を発展させる。 身の回りの世界についての科学的な疑問に答えるのに役立つ様々な種類の理科・科学の探究を通じて、理科・科学の性質、思考のプロセス及び方法についての理解を深める。 現在及び将来における科学の用途と意義を理解するために必要な理解的知識を備える。 	
<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要な各教育段階の終わりまでに、児童生徒は関連する学習プログラムで指定されている事項、技能、思考プロセスを知り、応用し、理解することが求められる。 <p>なお、学校においては「法定外」と示された内容を教えることは法律で義務付けられていない。</p>	
<p>学習内容</p>	
<p>KS1 1年生</p>	<p>【植物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 落葉樹や常緑樹を含む様々な一般的な野生動物や園芸植物を特定して名前が言えるようになる。 樹木を含む様々な一般的な顕花植物の基本構造を特定して説明できる。 <p>【人間を含む動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 魚類、両生類、爬虫類、鳥類、哺乳類を含む様々な一般的な動物を識別し、名前が言える。 肉食動物、小食動物、雑食動物などの様々な一般的な動物を特定して、名前が言える。 <p>【物質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物質とそれを構成している素材を区別する。 木、プラスチック、ガラス、金属、水、岩などの日常の様々な素材を特定し、名前が言える。 日常の様々な素材を単純な物理的特性に基づいて比較及びグループ化する。 <p>【季節変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 四季の変化を観察する。 季節に関連する天気と日の長さがどのように変化するかを観察して説明する。
<p>KS1 2年生</p>	<p>【生物とその住処】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きているもの、死んでいるもの、無生物の違いを調べて比較する。 ほとんどの生物がそれぞれに適した生息地に住んでいることを確認し、異なる生息地が様々な種類の動物や植物の基本的なニーズをどのように満たし、それらがどのように相互に依存しているかを説明できる。 小さな生息地を含む生息地内の様々な付帯物を特定し、名前が言える。 単純な食物連鎖の考え方を使用して、動物が植物や他の動物からどのように植物を得るかを説明し、様々な食物源を特定して名前が言える。 <p>【植物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 種子と球根がどのようにして成熟した植物に成長するかを観察し、説明できる。 植物が成長し健康を維持するためにどのように水、光、適切な温度が必要かを調べて説明できる。 <p>【人間を含む動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間を含む動物には子どもがいて、それが大人になることを知る。 人間を含む動物の生存のために基礎的なニーズ（水、食物、空気）について調べて説明できる。 人間にとっての運動、様々な種類の食品の適切な量の摂取、衛生の重要性について説明できる。 <p>【物質の使用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 木材、金属、プラスチック、ガラス、レンガ、石、紙、ボール紙などの様々な日常的材料の特定の用途への適合性を特定し、比較する。 いくつかの材料で作られた個体の形状が、押しつぶされたり、曲げられたり、ねじられたり、延ばされたりすることによってどのように変化するかを調べる。
<p>KS2 3年生</p>	<p>【植物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 開花植物の様々な部分の機能を特定し、説明する（根、茎、幹、葉、花）。 植物の生命と成長のための要件（空気、光、水、土壌からの栄養分、成長する余地）とそれらが植物毎にどのように異なるかを調査する。 植物がないで水がどのように運ばれるかを調査する。 受粉、種子の形成、種子の散布など、開花植物のライフサイクルにおいて花が果たす役割を調べる。 <p>【人間を含む動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間を含む動物は適切な種類と量の栄養を必要とし、自分で食物を作ることができないこと、ものを食べることで栄養を得ていることを認識する。 人間や他の動物には、身体を支持し、保護し、運動するための骨格と筋肉があることを理解する。 <p>【岩石】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の岩石を、その概観と単純な物理的特性に基づいて比較し、グループ化する。 生きていたものが岩石の中に閉じ込められ、化石がどのように形成されたかを簡潔に説明できる。 土壌は岩石と有機物からできていることを理解する。 <p>【光】</p> <ul style="list-style-type: none"> ものを見るためには光が必要であり、暗闇とは光がないことであることを理解する。 光が表面から反射していることを理解する。 大洋からの光は危険な可能性があること、目を保護する方法があることを認識する。 光源からの光が不透明な物体によって遮られると影が形成されることを認識する。 影の大きさが変化するパターンを見つける。 <p>【力と磁石】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な表面上で物がどのように動くかを比較する。 いくつかの力は二つの物体間の接触を必要とするが、磁力は離れた場所でも作用できることを知る。

	<ul style="list-style-type: none"> 磁石がどのように互いに引き付けたり反発したりするのか、またある物質を引き付けるが他の物質を引き付けられない様子を観察する。 日常の様々な物資を磁石に引き付けられるかどうかに基づいて比較及びグループ化し、いくつかの磁性物質を特定する。 磁石は二つの極をもつものとして説明できる。 どちらの極が向いているかに応じて、二つの磁石が互いに引き合うか反発するかを予測する。
<p>KS2 4年生</p>	<p>【生物とその住処】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物は様々な方法でグループ化できることを認識する。 分類キーを操作、使用することで、地域的及び広範な環境で様々な生物をグループ化し、識別し、名前を付けることができる。 環境は変化する可能性があり、それが生き物に危険をもたらす可能性があることを理解する。 <p>【人間を含む動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の消化器系の基本的な部分の簡単な機能を説明する。 人間の様々な種類の歯とその簡単な機能を識別する 様々な食物連鎖を構築及び解釈し、生産者、捕食者、獲物を特定する。 <p>【物質の状態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個体、液体、気体のいずれであるかに応じて、材料を比較及びグループ化する。 一部の材料が過熱または冷却されると状態が変化することを観察し、これが起こる温度を摂氏（℃）で測定する。 水循環における蒸発と凝縮の役割を特定し、蒸発速度と温度を関連付ける。 <p>【音】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音の発生方法を特定し、その一部を振動するものと関連付ける。 音の振動が媒体を伝わって耳に伝わることを認識する。 音のピッチとそれを発生させた物体の特徴の間のパターンを見つける。 音の量とそれを発生させる振動の強さの間のパターンを見つける。 音源からの距離が遠くなるにつれて音が小さくなることを理解する。 <p>【電気】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気で動く一般的な電化製品を特定する。 単純な直列電気回路を構築し、セル、ワイヤー、電球、スイッチ、ブザーなどの基本部品を特定して名前が言える。 ランプが電池との完全な回路の一部であるかどうかに基づいて、単純な直列回路でランプが点灯するかどうかを調べる。 スイッチが回路を開閉することを認識し、これを単純な直列回路でランプが点灯するかどうかに関連付ける。 いくつかの一般的な胴体と絶縁体を認識し、金属を良好な導体であると認識する。
<p>KS2 5年生</p>	<p>【生物とその住処】</p> <ul style="list-style-type: none"> 哺乳類、両生類、昆虫、鳥類のライフサイクルの違いを説明する。 いくつかの植物や動物の生殖の生命過程を説明する。 <p>【人間を含む動物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間が老年期に至るまでの変化を説明できる。 <p>【物質の特性と変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 硬度、溶解性、透明性、導電性（電氣的及び熱的）、磁石への反応などの特性に基づいて日常の物質を比較及びグループ化する。 一部の物質は液体に解けて溶液を形成することを知り、溶液から物質を回収する方法を説明できる。 固体、液体、気体の知識を利用して、濾過、ふるい分け、蒸発など、混合物を分離する方法を決定する。 比較かつ公正なテストの証拠に基づいて、金属、木材、プラスチックなどの日常的な物質の特定の用途について理由を説明できる。 一部の変化は新しい物質の形成を引き起こし、燃焼や重炭酸ソーダに対する酸の作用に関連する変化を含め、この種の変化は通常可逆的ではないことを説明できる。 <p>【地球と宇宙】</p> <ul style="list-style-type: none"> 太陽系の大洋の対する地球や他の惑星の動きを説明できる。 地球に対する月の動きを説明できる。 太陽、地球、月をほぼ球体として説明することができる。 地球の自転の考えを使って、昼と夜、そして空を横切る太陽の見かけの動きを説明できる。 <p>【力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支えられていない物体は、地球と落下物体の間に働く重力により地球に向かって落下することを説明できる。 移動する表面に作用する空気抵抗、水抵抗、摩擦の影響を特定する。 レバー、プーリー、歯車などの一部の道具では、より小さな力で大きな効果が得られることを理解する。
<p>KS2 6年生</p>	<p>【生物とその住処】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通の観察可能な特徴に従って、また類似点と相違点に基づいて、微生物、植物、動物を含む生物がどのように各種グループに分類されるのか説明できる。 特定の特徴に基づいて動植物を分類する理由を説明する。 <p>【人間を含む生物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の循環系の主要な部分を特定して名前を言い、心臓、血管、血液の機能を説明できる。 食事、運動、薬物、ライフスタイルが身体の機能に及ぼす影響を認識する。 人間を含む動物の体内で栄養素と水がどのように運ばれるかを説明できる。 <p>【進化と継承】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 生物は時間の経過とともに変化し、化石は数百万年前に地球上に生息していた生物に関する情報を提供してくれることを理解する。 生物は同じ種類の子孫を残すが、通常、子孫は変化し、親と同じではなく、異なるものであることを認識する。 動物や植物が環境に合わせて様々な方法でどのように適応しているのか、そして適応が進化に繋がる可能性があることを理解する。 <p>【光】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光は直線的に進むように見えることを理解する。 光が直線的に進むという考えを利用して、物体が目から光を放したり反射したりするために物体が見えることを説明する。 私たちが物を見るのは光のおかげであり、光源から物体を経て私たちの目に伝わることを説明できる。 光は直線で伝わるという考えを利用して、なぜ影がそれを落とす物体と同じ形になるのかを説明できる。 <p>【電気】</p> <ul style="list-style-type: none"> ランプの明るさまたはブザーの音量は回路で使用されているセルの数及び電圧と関連付いていることを理解する。 電球の明るさ、音量など、コンポーネントの機能の違いを比較し、その理由を説明できる。 簡単な回路を図で表す場合に共通の記号を使用することを学ぶ。
<p>KS3 7～9年生</p>	<p>生物</p> <p>生物の構造と機能</p> <p>【細胞と組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光学顕微鏡を使用して生物の基本単位としての細胞を観察し、解釈し、記録する方法を理解する。 細胞壁、細胞膜、細胞質、核、液胞、ミトコンドリア、葉緑体の機能を知る。 植物細胞と動物細胞の類似点と相違点を理解する。 細胞及び細胞間の物質の移動における拡散の役割を知る。 いくつかの単細胞生物の構造的適応について理解する。 多細胞生物の階層的組織（細胞から組織、器官、システム、生物自体）を理解する。 <p>【骨格と筋肉】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の骨格の構造と機能（支持、保護、運動、血球の生成を含む）を理解する。 生態力学（様々な筋肉によって発揮される力の測定を含む、骨格と筋肉の間の相互作用）について理解する 筋肉の機能を知る。 <p>【栄養と消化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康的な人間の食事の内容（炭水化物、脂質<脂肪と油>、タンパク質、ビタミン、ミネラル、食物繊維、水及びそれぞれが必要な理由）について説明できる。 健康的な毎日の食事におけるエネルギー必要量の計算を学ぶ。 肥満、飢餓、欠乏症など食事の不均衡の影響を知る。 人間の消化器系の組織と機能、機能への適応や消化器系が食物を消化する方法を知る。 人間の消化器系における最近の重要性を理解する。 植物は光合成によって葉で炭水化物を作り、根を介して土壌からミネラル栄養素と水を獲得することを学ぶ。 <p>【呼吸システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間の呼吸システムの構造と機能を理解する。 圧力モデルを使用して肺に空気を出入りさせる呼吸メカニズムを理解する。 運動、喘息、喫煙が人間の呼吸システムに及ぼす影響を知る。 植物の呼吸システムにおける葉の気孔の役割を知る。 <p>【生殖】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間（哺乳類の例として）における生殖、男性と女性の生殖系の構造と機能、月経周期、受精、妊娠、出産、母親のライフスタイルの影響などについて理解する。 花の構造、風や昆虫の受粉、受精、種子と果実の形成と散布を含む植物の成長について理解する。 <p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none"> 娯楽目的の薬物（薬物乱用を含む）が行動、健康、生活に及ぼす影響を知る。 <p>物質循環とエネルギー</p> <p>【光合成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光合成の反応物質とその生成物及び光合成の概要を理解する。 地球上のほぼすべての生命は植物や藻類など光合成生物が太陽光を光合成に利用して、必須のエネルギー貯蔵庫である有機分子を構築し、大気中の酸素と二酸化炭素のレベルを維持する能力に依存していることを学ぶ。 葉の光合成への適用について理解する。 <p>【細胞呼吸】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命に必要な他のすべての科学プロセスを可能にする有機分子の分解を含む、生物の好気性呼吸と嫌気性呼吸を理解する。 好気性呼吸に関して説明できる。 発酵を含む人間や微生物の嫌気性呼吸のプロセス及び嫌気性呼吸について説明できる。 反応物、形成される生成物、生物への影響に関する好気呼吸と嫌気呼吸の違いを理解する。 <p>相互作用と相互依存関係</p> <p>【生態系における関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食物連鎖や昆虫受粉作物など、生態系における生物の相互依存性を理解する。

		<ul style="list-style-type: none"> 人間の食糧安全保障における昆虫受粉による植物の繁殖の重要性を知る。 生物が有毒物質の蓄積を含め、環境にどのように影響を及ぼし、また影響を受けるかを理解する。 <p>遺伝学と進化</p> <p>【遺伝・染色体・DNA・遺伝子】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報がある世代から次の世代に伝達されるプロセスとしての遺伝について理解する。 遺伝における染色体、遺伝子、DNA の単純なモデルを理解する。また DNA モデルの開発においてワトソン、クリック、ウィルキンス、フランクリンが果たした役割を知る。 種間の違いについて知る。 連続的または不連続的な種内の個体間の変化、変化の測定とグラフの表示について学ぶ。 種間及び同じ種の個体間の差異は、一部の生物がより上手く競争することを意味し、それが自然選択を促進する可能性があることを理解する。 環境の変化により、種内の個体や一部の種全体が競争や繁殖に上手く適応できなくなる可能性があり、その結果、絶滅に繋がる可能性があることを知る。 生物多様性の維持と遺伝物質を保存するための遺伝子バンクの利用の重要性を認識する。
<p>KS3 7～9 年生</p>	<p>化学</p>	<p>【物質の粒子的な性質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 粒子モデルに関する物質の様々な状態（個体、液体、気体）の特性を知る。 粒子モデルの観点からの状態の変化を説明できる。 <p>【原子・元素・化合物】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単純な（ダルトン）原子モデルを理解する。 原質、元素、化合物の違いを理解する。 元素と化合物の化学記号と化学式を知る。 状態及び化学変化の保存を理解する。 <p>【純粋物質と不純物質】</p> <ul style="list-style-type: none"> 純粋物質の概念を説明できる。 混合物（溶解を含む）を説明できる。 粒子モデルによる拡散を説明できる。 混合物を分離するために簡単な技術（濾過、蒸発、蒸留、クロマトグラフィー）を理解する。 純粋物質を同定する。 <p>【化学反応】</p> <ul style="list-style-type: none"> 原子の再配列としての化学反応を理解する。 式と方程式を使用して化学反応を表現することができる。 燃焼、熱分解、酸化、置換反応を知る。 中和反応の観点から酸とアルカリを定義する。 酸性・アルカリ性を測定するために pH スケールとインジケータを理解する。 酸と金属の反応による塩と水素の生成について理解する。 酸とアルカリを反応させて塩と水を生成する。 触媒の働きを知る。 <p>【エナジエティックス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 状態の変化によるエネルギー変化（定性的）を知る。 夏熱及び吸熱化学反応（定性的）を知る。 <p>【周期表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な元素の様々な物理的及び化学的特性を知る。 メンデレーエフ周期表の基礎となる原則を知る。 周期表の周期と族について知る、金属と非金属について理解する。 周期表を参照して、反応パターンをどのように予測できるかを知る。 金属と非金属の性質を理解する。 酸性度に関する金属及び非金属酸化物の科学的性質について認識する。 <p>【材料】</p> <ul style="list-style-type: none"> 反応下系列における金属と炭素の順序を認識する。 金属酸化物から金属を得る際の炭素の利用について知る。 セラミックス、ポリマー、複合材料の特性（定性的）について知る。 <p>【地球と大気】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球の構成と構造を理解する。 岩石サイクルと火成岩、堆積岩、変成岩の形成について理解する。 限りある資源の源としての地球とリサイクルの有効性について知る。 炭素循環、大気の組成、人間活動による二酸化炭素の生成と気候への影響を考える。
<p>KS3 7～9 年生</p>	<p>物理</p>	<p>【国内における燃料使用量とコストの計算】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な食品のエネルギーの比較をする。 家電製品の定格電力をワット (W) で比較する。 伝達されたエネルギー量を比較する (J, kJ, kW)。 国内の燃料代及びコストを計算する。 燃料とエネルギー資源について知る。 <p>【エネルギーの変化と伝達】</p> <ul style="list-style-type: none"> 単純な機会はより大きな力を与えるが、より小さな動きを犠牲にすること、力と変異の積は変化しないことを理解する。 加熱と熱平衡（二つの物体間の温度差により、接触電動または放射を通じて、熱い方から冷たい方へエネルギーが移動する。このような移動は温度差を減少させる傾向がある）を理解する。

		<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー伝達を伴うその他のプロセスとして、動きの変化、物体の落下、電気回路の完成、ばねの伸縮、食物代謝、燃料の燃焼を理解する。 <p>【システムの変更】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定量化及び計算できる量としてのエネルギー、総エネルギーは変更の前後で同じ値になることを理解する。 システムの開始状態と最終状態を比較し、フィールド内の動き、温度、一の変化、弾性ゆがみ、科学組成に関連するエネルギー量の増減を説明することができる。 エネルギーではなく、物理的なプロセスとメカニズムを使用して、そのような変化をもたらす中間段階を説明する。 <p>動きと力</p> <p>【動きの説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> 速度と平均速度、距離、時間の定量的関係（速度＝距離÷時間）を理解する。 距離と時間のグラフでの移動の表現を理解する。 相対運動（列車と自動車が互いにすれ違う）を理解する。 <p>【力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 二つの物体間の相互作用から生じる、押したり引いたりする力を理解する。 図で力を矢印を使用して一次元で力を追求し、平衡力と不平衡力を追加する方法を知る。 力の回転効果としてのモーメントを理解する。 力は物体の変形に関連付けられ、バネ伸ばしたり、ちぢめたりするときに働くことを理解する。 ニュートン単位で測定された力、力が変化した時の伸びまたは圧縮の測定を行う。 力と伸びの線形関係、特別な場合としてのフックの法則について理解する。 行われた仕事と変形時のエネルギーの変化を理解する。 非接触力（地球上及び宇宙で離れた場所で働く重力、磁石観の力及び静電気による力など）を理解する。 <p>【液体内の圧力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気圧は上空の空域の重さが高度とともに減少するため、高度の増加とともに減少することを理解する。 液体内の圧力は深さとともに増加することを知る。 圧力は面積に対する力の比によって測定され、あらゆる表面に対して垂直に作用することを知る。 <p>【バランスのとれた力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 反対の力と平衡（重要は、伸ばされたバネによって保持されるか、圧縮された表面で支えられる）を理解する。 <p>【力と動き】</p> <ul style="list-style-type: none"> 物体を停止または移動させたり、速度や運動方向を変更したりするのに必要な力（定性的なもののみ）を理解する。 力の方向と大きさによって変化することを知る。 <p>波</p> <p>【観測された波動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 横方向の動きで水中を伝わるうねりとしての水上の波、これらの波は反射され、重ね合わせを加えたりキャンセルしたりすることができることを知る。 <p>【音波】</p> <ul style="list-style-type: none"> 音波の周波数はヘルツ（Hz）単位で測定されることを知る。音のエコー、反射、吸収など。 音には伝わる媒体、空気中、水中、固体中の音速が必要であることを知る。 大音量スピーカーで物体の振動によって生成される音はマイクの振動版と鼓膜への影響によって検出されること、音波は縦波であることを知る。 人間と動物の可聴範囲は異なっていることを理解する。 <p>【エネルギーと波動】</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギーを伝達する圧力波は、超音波による洗浄と理学療法に使用され、マイクによって電気信号に変換するための情報を伝達する波であることを理解する。 <p>【光の波】</p> <ul style="list-style-type: none"> 光の波と物質の波の類似点と相違点を知る。 真空中を伝わる光波について知る。 物質を通る光の透過、表面での吸収、拡散散乱、鏡面反射について知る。 光線モデルを使用して、鏡での結像、ピンホールカメラ、光の屈折、収束時の凸レンズの作用（定性的）を説明できる。 光が光源から九州体にエネルギーを伝達し、科学的及び電氣的効果を引き起こすことを理解する。 光、白色光、プリズムの色と様々な周波数（定性的のみ）を理解する。 <p>電気と電磁気</p> <p>【電気の流れ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電流（アンペアで測定）、回路、直列及び並列回路内で、電流は分岐が交わる場所で加算され、電流は電荷の流れとして表示されることを知る。 電圧は電池及び電球の定格で測定される電位差であることを知る。 伝導性コンポーネントと絶縁性コンポーネント間の抵抗の差（定量的）を知る。 <p>【静電気】</p>
--	--	--

		<ul style="list-style-type: none"> 物体がこすり合わさったときの正または負の電荷の分離を理解する。 電場の概念を知る。 【磁気】 <ul style="list-style-type: none"> 磁極と引力、斥力を知る。 コンパスでプロットすることによる磁場、磁力線で表現する。 物質 【物質の変化】 <ul style="list-style-type: none"> 溶解、凝固、蒸発、昇華、凝縮、溶解における物質と質量の保存及び可逆性を理解する。 固体、液体、気体間の類似点と相違点を知る（密度祭を含む）。 気体のブラウ運動を知る。 【粒子モデル】 <ul style="list-style-type: none"> 状態、形状、密度の変化を知る。 粒子としての原子と分子を理解する。 【物質中のエネルギー】 <ul style="list-style-type: none"> 運動中の温度と粒子の感覚によって変化することを知る。 蓄えられた内部エネルギーについて理解する。 【宇宙物理学】 <ul style="list-style-type: none"> 重力、流量=質量×重力場の強さ（g）、地球では $g=10N/kg$、他の惑星や構成では異なることを知る。 星としての私たちの太陽、私たちの銀河系の他の星、他の銀河を理解する。 様々な半球における季節と地球の傾き、一年の様々な時期の日の長さを知る。 天文学的な距離の単位として光年があることを知る。
KS4 10～11年 生	生物	<p>(詳細な内容は省略)</p> 【細胞生物学】 【循環システム】 【健康・病気・薬品の開発】 【協力と管理】 【光合成】 【エコシステム】 <ul style="list-style-type: none"> エコシステム内の組織のレベルを理解する。 地域社会に影響を与えるいくつかの非生物的及び生物的要因を知り、コミュニティ内の生物間の相互作業の重要性を認識する。 生態系の非生物的及び生物的構成要素が物質をどのように循環するかを知る。 生態系における物質の循環における微生物（分解者）の役割を知る。 生物は相互依存しており、環境に適応していることを理解する。 生物多様性の重要性を認知する。 種を特定し、生息地内の種の分布、頻度、存在量を測定する方法を知る。 人間と生態系との肯定的及び否定的な相互作用を理解する。 【進化・継承・変異】
KS4 10～11年 生	化学	<p>(詳細な内容は省略)</p> 【原子の構造、周期表】 【物質の構造・結合・性質】 【化学変化】 【エネルギーの変化】 【化学変化の速度と程度】 【化学分析】 【化学及び関連産業】 【地球と大気の化学】 <ul style="list-style-type: none"> 地球形成以来の大気の組成と進化の証拠を説明する。 気候変動のさらなる人為的原因に関する証拠と証拠の不確実性について理解する。 二酸化炭素とメタンのレベル上昇が地球に気候に及ぼす潜在的な影響とその緩和について調べる。 一般的な大気汚染物質である二酸化硫黄、窒素酸化物、微粒子及びそれらの発生源を調べる。 地球の水資源と飲料水の確保について探求する。
KS4 10～11年 生	物理	<p>(詳細な内容は省略)</p> 【エネルギー】 【力】 【力と動き】 【波動】 【電気】 【磁力と電磁気】 【物質の構造】 【原子の構造】 【宇宙物理学】

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料5：教科「宗教（RE）」（キーステージ1～4）の学習内容

宗教教育の重要性	
	<ul style="list-style-type: none"> • 宗教と信念は、私たちの価値観に影響を与え、私たちの発言や行動に反映される。宗教教育はそれ自体が重要な教科であり、現代社会の一部を形成する宗教と信念についての個人の知識と理解を発展させる。 • 宗教教育は、人生の究極の意味と目的、神についての信念、自己と現実の性質、善悪の問題、人間であるとは何かなどについての挑戦的な疑問を引き起こす。このような疑問に対する答えを提供するキリスト教をはじめ、他の主要な宗教、他の宗教的伝統、世界観についての児童生徒の知識と理解を発展させる。 • 宗教教育は、「人格・社会・保健・経済教育（PSHE）」、人文科学、持続可能な開発のための教育（ESD）など、学校カリキュラムの他の部分にも重要な貢献をする。 • 宗教教育は、個人的な内省と精神的な成長の機会を提供し、個人、共同体、異文化間で、他の人々との生活における宗教の重要性についての理解を深める。
宗教教育の貢献	
	<ul style="list-style-type: none"> • 宗教教育は、生徒にとって次の三つのことを発展させるのに役立つ。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 精神的・道徳的・社会的・文化的発展 ➤ 個人の成長と幸福 ➤ コミュニティの結束力
宗教教育が目指すもの	
KS 1～4	<ul style="list-style-type: none"> • 人生の意味と目的、信念、自己、善悪の問題、人間であることの意味について挑戦的な疑問を誘発する。キリスト教、その他の主要な宗教、宗教的伝統についての生徒の知識と理解を深め、これらの疑問を検討し、個人的な内省と精神的な発達を促す。 • 宗教的信念と信仰の問題及びそれらが個人的、制度的、社会的倫理にどのような影響を与えるかを検討する際に、学んだことに照らして、児童生徒が自分の信念（宗教的であるか無宗教的であるかに関わらず）を探求することを奨励する。これにより、反民主主義や過激派の言説に対する耐性力も高まる。 • 児童生徒がアイデンティティと帰属意識を構築できるようにし、それがコミュニティ内で、また多様性のある社会の市民として成長するのに役立つ。 • 児童生徒に異なる信仰や信念をもつ人々を含む他者への敬意を育むように指導し、偏見に対抗するのに役立つ。 • 児童生徒が自分自身と他人に対する責任を考え、地域社会やより広い社会にどのような貢献できるかを探求するように促す。共感、寛大さ、思いやりを育成する。

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。

付属資料 6：教科「人間関係・性教育（RSE）と保健教育」（キーステージ 1～4）の学習内容

目標	
<p>【KS1～2】（人間関係教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> 初等学校では、特に友情家族関係、他の子ども達や大人との関係に言及しながら、前向きな人間関係の基本的な構成要素と特徴を教えることに重点を置く必要がある。 <p>【KS3～4】（人間関係教育・性教育）</p> <ul style="list-style-type: none"> 人間関係・性教育の目的は、親密な関係だけでなく、あらゆる種類の健全で育む人間関係を築くのに役立つ情報を若者に提供することである。それによって、健全な関係とはどのようなものか、何が良い友人であり、良い同僚であるのか、そして幸せな結婚やその他の種類の献身的な関係をどのように作るかを知ることができる。また、避妊、親密な関係の構築、セックスへのプレッシャーに抵抗すること（そしてプレッシャーをかけないこと）といった情報も提供する必要がある。人間関係において何が許容され、何が許容されない行動であるかを教えることも重要である。これは、児童生徒が良好な人間関係によって精神的健康に与えるプラスに影響を理解し、人間関係が正しくない場合を特定し、そのような状況にどのように対処できるかを理解するのに役立つ。 <p>【KS1～4】（身体的・精神的健康）</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体的・精神的健康について児童生徒に教える目的は、自分自身の健康と幸福について適切な決定を下すために必要な情報を提供することである。これによって、子ども達は自分自身や他人にとって何が正常で、何が問題なのかを認識できるようになり、問題が生じた場合に適切な情報源にできるだけ早く支援を求める方法を知ることができるようになる。 	
成果	
<p>KS1～2 （人間関係教育）</p>	<p>【私を世話してくれる家族と関係者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族は愛情、安全、安定を与えてくれるので、成長する子供たちにとって重要であるということを理解する。 健康な家庭生活の特徴、困難な時を含むお互いへの献身、子どもや他の家族の保護と世話、一緒に時間を過ごし、お互いの人生を分かち合うことの重要性を理解する。 学校でも、より広い世界でも、他人の家族は自分の家族とは異なるように見えることもあるが、それらの違いを尊重し、他の子どもの家族も愛と思いやりをもっていることを知る。 安定した思いやりのある関係は、様々な種類があるかもしれないが、幸せな家族の中心であり、成長する子ども達の安全にとって重要であるということを理解する。 結婚は、生涯にわたることを意図した、正式かつ法的に認められた二人の互いへの誓約を表すものであるということを理解する。 家族関係が家族に不幸や危険を感じさせているかどうかを認識する方法及び必要に応じて他の人に助けやアドバイスを求める方法を知る。 <p>【友情を大切に】</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちが幸せで安心感を感じるために友情がどれほど重要であるか、そして人はどのようにして友達を選び、友達を作るのかを知る。 相互尊重、誠実さ、信頼性、忠誠心、優しさ、寛大さ、信頼、興味や経験の共有、問題や困難へのサポートなどの友情の特徴を理解する。 健全な友情は他者に対して前向きで歓迎的なものであり、他者に孤独を感じさせたり、疎外感を与えたりしないことを知る。 ほとんどの友情には浮き沈みがあり、それを乗り越えることで友情は修復され、さらには強化されることがよくあり、暴力に訴えることは決して正しくないことを知る。 誰を信頼すべきか、誰を信頼すべきでないかを認識する方法、友人関係によって不幸や不快感を感じているときの判断方法、対立の管理方法、これらの状況の管理方法、必要に応じて他の人に助けやアドバイスを求める方法を学ぶ。 <p>【尊敬すべき関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者が（例えば、身体的、性格、性格、背景において）自分たちと大きく異なっていたり、異なる選択をしたり、異なる好みや信念をもっていたりしても、他者を尊重することの重要性を理解する。 敬意をもった関係を改善またはサポートするために、様々な状況で実行できる実際的な手順を知る。 礼儀とマナーの約束事を理解する。 自尊心の重要性と、それがどのように自分自身の幸福に結びつくのかを知る。 学校や社会において、他者から敬意をもって扱われることが期待されており、権威ある立場にある人を含め、他者に対して相応の敬意を示すべきであるということを理解する。 様々な種類のいじめ（ネット上でのいじめを含む）、いじめの影響、傍観者の責任（主にいじめを大人に報告する）、助けを求める方法について学ぶ。 ステレオタイプとは何か、そしてステレオタイプがどのように不公平、否定的、または破壊的なものになり得るかを理解する。

	<ul style="list-style-type: none"> 友人、同僚、大人との関係において、許可を求めることと許可を与えることの重要性を理解する。 <p>【オンラインでの関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々は自分ではない誰かのふりをするなど、オンラインでは異なる行動をすることがあることを知る。 匿名である場合を含め、オンラインでの他者への敬意の重要性を含め、対面の関係と同じ原則がオンラインの関係にも適用されることを知る。 オンラインの安全を保つためのルールと原則、リスク、有害なコンテンツと接触を認識する方法及びそれらを報告する方法を知る。 会ったことのない人々に関連するリスクの認識を含め、オンラインでの友人関係や情報源を批判的に検討する方法を知る。 情報とデータがオンラインでどのように共有され、使用されるかを理解する。 <p>【安全であること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同僚や他者との友情において（デジタル環境を含む）どのような境界線が適切であるかを理解する。 プライバシーの概念と、それが子どもと大人の両方に与える影響について、その中には安全に関係する秘密を守ることが必ずしも正しいとは限らないということも含まれるということを理解する。 各人の身体はその人のものであること及び身体的接触やその他の接触が適切なものと不適切または危険なものとの違いを知る。 知らない大人に（オンラインを含むあらゆる状況で）遭遇する可能性のある安全かつ適切に対応する方法について知る。 大人に対して危険な感情や不快な感情を認識し、報告する方法を知る。 自分自身や他の人のためにアドバイスや助けを求める方法、そして彼らの意見を聞いてもらえるまで努力を続ける方法を知る。 懸念や虐待を報告する方法及びそのために必要な語彙と自信について学ぶ。 アドバイスが得られる場所 例えば、家族、学校、その他の情報源などを知る。
<p>KS3～4 （人間関係教育・性教育）</p>	<p>【家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> 献身的で安定した関係には様々なタイプがあるということを理解する。 家族関係が人間の幸福と、子どもを育てる上での重要性にどのように貢献するかについて知る。 法的地位を含む結婚とは何か。例えば、結婚には同棲しているカップルや未登録の宗教的儀式で結婚したカップルには受けられない法的権利と保護が保障されているということを理解する。 なぜ結婚は多くのカップルにとって重要な関係の選択であり、なぜ自由に結婚しなければならないのかを知る。 他のタイプの長期関係の特徴と法的地位について知る。 成功した子育ての特徴を含む子どもの育成に関する親の役割と責任について理解する。 <p>【友情を含む尊敬すべき関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> ポジティブで健全な友情（オンラインを含むあらゆる状況における）の特徴には、信頼、尊敬、誠実、優しさ、寛大さ、境界線、プライバシー、同意、対立の管理、和解、関係の終了が含まれることを理解する。 敬意をもった関係を改善またはサポートするために、様々な状況で実行できる実際的な手順について理解する。 <p>固定観念、特に性別、ジェンダー、人種、宗教、性的指向または障害に基づく固定観念がどのように損害を引き起こす可能性があるかについて理解する（例：同意のない行動を常態化したり、偏見を助長したりする可能性がある）。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校やより広い社会においては、他者から敬意をもって扱われることが期待されており、その結果、権威ある立場にある人々を含む他者に対して正当な敬意を示し、他者の信念に対して正当な寛容を示すべきであることを知る。 様々な種類のいじめ（ネットいじめを含む）、いじめの影響、いじめを報告する傍観者の責任及び助けを求める方法と場所について理解する。 暴力行為や強制支配など、人間関係におけるある種の行為は犯罪であることを理解する。 セクシャルハラスメントや性暴力とは何なのか、そしてなぜこれらが常に受け入れられないのかについて理解する。 <p>平等に関する法的権利と責任（特に 2010 年平等法で定義されている保護された特性に関して）及び誰もが貴重な存在であり、平等であることを知る。</p> <p>【オンラインとメディア】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行動に対する同じ期待は、オンラインを含むあらゆる状況にあてはまるということを知る。 オンラインリスクについて、誰かが別の人に提供したマテリアルはオンラインで共有される可能性があること、またオンラインに置かれた潜在的に危険なマテリアルを削除することの難しさなどを知る。 これ以上共有されたくない内容を他者に提供したり、送信された個人的な内容を共有したりしないことを知る。

	<ul style="list-style-type: none"> オンラインで資料を報告したり問題を管理したりするために何をすべきか、またどこでサポートを受けるべきかを知る。 有害なコンテンツの閲覧による影響について理解する。特に性的に露骨な内容、例えば、ポルノは性的行動の歪んだイメージを提示し、他者に対する人々の自分自身の見方を傷つけ、性的パートナーに対する人々の行動に悪影響を与える可能性があることを知る。 児童のわいせつな画像（児童が作成したものも含む）の共有及び閲覧は、懲役を含む厳しい刑罰を伴う刑事犯罪であることを理解する。 情報とデータがオンラインでどのように生成、収集、共有、使用されるかについて理解する。 <p>【安全であること】</p> <ul style="list-style-type: none"> 性的同意、性的搾取、虐待、身だしなみ、強制、ハラスメント、強姦、家庭内暴力、強制結婚、名誉に基づく暴力、FGM の概念とそれらに関連する法律及びこれらが現在と将来の人間関係にどのような影響を与える可能性があるかについて理解する。 人々が性的同意を含む他者からの同意を積極的にコミュニケーションし認識する方法及び同意をいつどのように撤回できるかを知る（オンラインを含むあらゆる状況において）。 <p>【性的な健康を含む健全な性的関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健全な1対1の親密な関係には、相互尊重、同意、忠誠心、信頼、共通の利益と展望、セックスと友情が含まれることを理解する。 健康のあらゆる側面は、性別や人間関係における選択によって、正または負の影響を受ける可能性があることを知り、また身体的、感情的、精神的、性的、生殖に関する健康と幸福についても理解する。 生殖能力を含む生殖に関する健康に関する事実及び男性と女性の生殖能力、また閉経に対するライフスタイルの潜在的な影響について理解する。 性的プレッシャーを特定し、管理するためのさまざまな戦略があることを知り、これには仲間からのプレッシャーを理解すること、プレッシャーに抵抗すること、他人にプレッシャーをかけないことなどが含まれることを理解する。 セックスを遅らせるか、セックスなしで親密な関係を楽しむかを選択できることを知る。 あらゆる種類の避妊薬の選択肢、有効性、利用可能なオプションに関する事実を知る。 流産を含む妊娠に関する事実について理解する。 妊娠に関して選択肢があることを知る（赤ん坊を残すこと、養子縁組、中絶、さらなる支援がどこに得られるかなど、すべての選択肢に関する医学的及び法的に正確で公平な情報が含まれている）。 HIV/AIDS を含む様々な性感染症（STI）がどのように伝染するか、より安全なセックス（コンドームの使用を含む）によってどのようにリスクを軽減できるか、検査の重要性とその事実について理解する。 一部の性感染症の蔓延、感染者に与える影響及び治療に関する重要な事実について理解する。 アルコールや薬物の使用がどのように危険な性行動に繋がるかについて知る。 性と生殖に関する健康に関する機密のアドバイスや治療にアクセスする方法と場所を含む、さらなるアドバイスを得る方法について知る。
KS1~2 (身体的・精神的健康)	<p>【精神的健康】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神的な健康は、身体的な健康と同じように、日常生活の正常な一部分であるというを理解する。 さまざまな経験や状況に関連してすべての人間が経験する、正常な範囲の感情（例：幸福、悲しみ、怒り、恐怖、驚き、緊張）と感情の規模があることを知る。 自分自身や他人の感情について話す時に使用できる様々な語彙をもつことを含む、自分の感情を認識して話す方法を知る。 彼らが感じていることや行動が適切で比例しているかどうかを判断する方法を知る。 身体的運動、屋外での時間、地域社会への参加、ボランティア活動や奉仕ベースの活動が精神的健康と幸福にもたらす利点について理解する。 休息の重要性、友人や家族と過ごす時間、趣味や興味の利点などの簡単なセルフケア技術について知る。 孤立感や孤独感は子ども達に影響を与える可能性があり、子ども達が自分の気持ちを大人と話し合い、サポートを求めることが非常に重要であることを理解する。 いじめ（ネットいじめを含む）は精神的健康に悪影響を及ぼし、しばしば永続的な影響を及ぼすことを理解する。 どこに、どのようにサポートを求めるか（サポートを求めるきっかけを認識することを含む）について学ぶ。これには、自分自身や他人の精神的健康や感情のコントロール能力（オンラインで生じる問題を含む）について心配な場合、学校の誰に相談すべきかが含まれる。 人々が精神疾患を経験することはよくあることである。そうした問題を抱えている多くの人にとって適切なサポートが利用可能であれば、特に十分に早い段階でアクセスできれば、問題は解決できるという理解する。

	<p>【インターネットの安全と危害】</p> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの人にとってインターネットは生活に不可欠な部分であり、多くの利点をもたらすことを理解する。 オンラインで過ごす時間を制限することの利点、電子機器に過剰な時間を費やすリスク、オンラインのポジティブなコンテンツとネガティブなコンテンツが自分自身や他人の精神的及び身体的健康に及ぼす影響について理解する。 オンラインでの自分の行動が他の人に与える影響を考慮する方法、オンラインでの敬意をもった行動を認識して示す方法及び個人情報をプライバシーに保つことの重要性を知る方法について理解する。 なぜソーシャルメディア、一部のコンピューターゲーム、オンラインゲームなどに年齢制限があるのかについて理解する。 インターネットはオンラインでの虐待、荒らし、いじめ、嫌がらせが行われるマイナスの場所でもあり、精神的健康に悪影響を与える可能性があることを知る。 検索エンジンからの情報を含む情報がランク付けされ、選択され、ターゲットが定められていることを理解するなど、オンライン情報の目の肥えた消費者になる方法について知る。 オンラインで懸念事項を報告し、問題に関するサポートを受ける場所と方法について理解する。 <p>【身体的健康とフィットネス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動的なライフスタイルの特徴と精神的及び身体的利点について理解する。 定期的な運動を毎日および毎週の日課に組み込むことの重要性とそれを達成する方法について知る。例えば、学校への徒歩や自転車通学、毎日のアクティブな活動、またはその他の定期的で激しい運動など。 非活動的なライフスタイルに関連するリスク（肥満を含む）について理解する。 いつ、どのようにしてサポートを求めるとかについて知る（健康について心配な場合、学校でどの大人に相談すればよいかなど）。 <p>【健康な食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康的な食事とは何かについて知る（カロリーやその他の栄養成分の理解など）。 様々な健康的な食事を計画し準備する原則を理解する。 不適切な食事の特徴と、不健康な食事（肥満や虫歯など）やその他の行動（食事や健康に対するアルコールの影響など）に関連するリスクについて理解する。 <p>【麻薬・アルコール・タバコ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 合法及び法の有害物質と、喫煙、飲酒、薬物摂取などの関連リスクに関する事実について理解する。 <p>【健康と予防】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体重減少や原因不明の体の変化など身体疾患の初期の兆候を認識する方法を知る。 太陽への曝露の安全性と危険性及び皮膚がんを含む日光による損傷のリスクを軽減する方法について理解する。 健康のためには十分な質の高い睡眠が重要であり、睡眠不足は体重、気分、学習能力に影響を与える可能性があることを知る。 歯の健康、良好な口腔衛生とデンタルフロスの利点について知る（歯科医での定期検診を含む）。 個人の衛生状態と細菌、ウイルスを含む細菌、それらがどのように拡散し治療されるか、手洗いの重要性について理解する。 アレルギー、予防接種、ワクチン接種に関する事実について理解する。 <p>【基本的な応急処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な応急処置の概念について理解する。例えば、頭部外傷を含む一般的な傷害への対処など。 <p>【変化する思春期の身体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期と身体的及び精神的な変化を含む、特に 9 歳から 11 歳までの思春期の身体の変化に関して理解する。 月経周期に関する重要な事実を含む月経の健康について知る。
KS3~4 (身体的・精神的健康)	<p>【精神的健康】</p> <ul style="list-style-type: none"> 切な語彙を使用して、自分の感情について正確かつ繊細に話す方法を知る。 幸福は他者との繋がりに結びついているということを理解する。 精神的健康に関する懸念の初期の兆候を認識する方法を知る。 一般的な種類の精神疾患（不安症やうつ病など）について知る。 自分の行動や関与が自分や他人の精神的健康に正または負の影響を与える場合に、どのように批判的に評価するかを学ぶ。 精神的な健康と幸福に対する身体的運動、屋外での時間、地域社会への参加、ボランティア活動や奉仕活動に基づく活動の利点と重要性について理解する。 <p>【インターネットの安全と危害】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインの世界と現実の世界の類似点と相違点を理解する。オンラインで他人と不健康または強迫的に比較することの影響（身体イメージに対して非現実的な期待を抱くことによる影響を含む）、人々がオンライ

	<p>ンで自分の人生の特定のイメージをどのようにキュレーションするか、ソーシャルメディアを含むオンライン関係への依存、借金の蓄積を含むオンラインギャンブルに関連するリスク、広告や情報がどのようにターゲットを絞っているか、オンライン情報の洞察力のある消費者になる方法について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> オンラインでの有害な行為（いじめ、虐待、ハラスメントを含む）を特定する方法及びそれらの行為の影響を受けた場合に報告する方法、またはサポートを見つける方法について学ぶ。 <p>【身体的健康とフィットネス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体活動と精神的健康の促進との間のポジティブな関連性について理解する（ストレスとの戦いへのアプローチなど）。 非活動的なライフスタイルとがんや心血管疾患などの病気との関連性を含む健康的なライフスタイル、健康的な体重の維持を構成するものの特徴と証拠について知る。 血液、臓器、幹細胞の提供に関する科学知識を習得する。 <p>【健康な食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康的な食事を維持する方法と不適切な食事と虫歯やがんなどの健康リスクとの関連性について知る。 <p>【麻薬・アルコール・タバコ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 合法及び違法の薬物とその関連リスクに関する事実について知る（薬物使用と関連リスク <重篤な精神的健康状態との関連を含む>との関連を含む）。 違法薬物の供給及び所持に関する法律について学ぶ。 アルコール摂取に関連する身体的及び心理的リスクと成人における低リスクのアルコール摂取とは何かについて知る。 アルコール依存症を含む中毒による身体的及び心理的影響について理解する。 処方されているものの依然として深刻な健康リスクを引き起こす薬物の危険性についての認識を深める。 喫煙による害（特に肺がんとの関連）に関する事実、禁煙の利点及び禁煙のためのサポートを受ける方法について知る。 健康と予防についての理解を深める。 <p>【健康と予防】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人の衛生状態、細菌やウイルスを含む細菌、それらがどのように広がるか、感染症の治療と予防、抗生物質について理解する。 歯の健康、健康的な食事や歯科医での定期検診など良好な口腔衛生とデンタルフロスの利点について理解する。 （二次後期）定期的な自己検査とスクリーニングの利点について学ぶ。 予防接種とワクチン接種に関する事実と科学について学ぶ。 健康のために十分な質の高い睡眠の重要性と、睡眠不足が体重、気分、学習能力にどのような影響を与えるかを理解する。 <p>【基本的な応急処置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的な怪我の基本的な治療について学ぶ。 CPR の実施方法を含む救命スキルについて学ぶ。 除細動器の目的と除細動器が必要となる場合について学ぶ。 <p>【変化する思春期の身体】</p> <ul style="list-style-type: none"> 思春期、思春期の体の変化、月経の健康についての重要な事実について知る。 男性と女性に起こる主な変化及び精神的、さらに身体的健康への影響について知る。
--	---

注：網掛け箇所は国際教育に関係する内容。

付属資料7：教科「人格・社会・保健・経済教育（PSHE）」（キーステージ1～4）の学習内容

扱う内容と各キーステージ	
<p>PSHE では、各教育段階において次のような内容を扱う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 初等教育（キーステージ1及び2）：人間関係教育 • 中等教育（キーステージ3及び4）：人間関係教育と性教育、経済教育 • 公立の初等・中等学校（キーステージ1～4）：保健教育 	
留意事項	
<ul style="list-style-type: none"> • PSHE はすべての児童生徒にとって重要で必要な教育である。すべての学校では PSHE を扱うべきであり、よい教育活動を実践すべきである。この教科を通じて達成されるべき期待は新しいナショナル・カリキュラム（2020年版）において明記されている。 • PSHE は法的には定めのない教科である。したがって、質の高い PSHE を実践するために教員に柔軟性を提供するために、新たな標準的な枠組みを提供する必要があると考えている。PSHE で扱うことができる内容は多様な領域にまで広がっている。教員は、児童生徒のニーズをよく理解できる立場にあり、追加的な中央政府からの指示は全く必要ない。 • しかしながら、各学校が独自の PSHE を児童生徒のニーズに合わせて作り上げていくことができると信頼している一方で、各学校には児童生徒が安全に行動し、適切な意思決定を行うために必要な知識と技能を習得できるように PSHE 教育の実践を行うことを期待している。 • 各学校は、PSHE 教育の機会を有効活用して、ナショナル・カリキュラムや基礎学校カリキュラム、必須教科ガイダンスに記載された必須の学習内容をもとに独自で、適切な内容を創造していただきたい。例えば、麻薬について、財政について、性教育、人間関係学、また身体的活動の重要性や健康な人生を送るための食事などが推奨される。 	
学習内容	
KS1～2	<p>【健康と福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 健康な生活（身体的福祉） • 精神的健康 • 自分自身、成長と変化 • 安全に • 麻薬・アルコール・タバコ <p>【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 家族と親しい関係者 • 友情 • 有害な行為といじめ • 安全な関係 • 自己と他者を尊重する <p>【より広い世界で生きる】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 責任の共有 • 地域社会 • メディアリテラシーとデジタルレジリアンス • 経済的幸福：お金 • 経済的幸福：願望、仕事、キャリア
KS3～4	<p>【健康と福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自己概念 • 精神的健康と感情的幸福 • 健康な生活（KS3）

	<ul style="list-style-type: none"> • 健康に関する決定 (KS4) • 麻薬・アルコール・タバコ • 危険と個人の安全 • 思春期と性的健康 (KS3) • 性的健康と生殖 (KS4) <p>【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> • よい人間関係 • 人間関係の価値 • 尊敬できる人間関係の形成と維持 <ul style="list-style-type: none"> • 同意 • 避妊と子育て <ul style="list-style-type: none"> • いじめ、虐待、差別 • 社会的影響 <p>【より広い世界で生きる】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学習スキル • 選択と進路 • 仕事とキャリア • 雇用の権利と義務 • 経済的な選択 • メディアリテラシーとデジタルレジリアンス
KS5	<p>【健康と幸福】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自己概念 • 精神的健康と感情的福祉 • 健康な生活 • 危険と個人の安全 • 性的健康 • 麻薬・アルコール・タバコ <p>【人間関係】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人間関係の価値 • 尊敬できる人間関係の形成と維持 <ul style="list-style-type: none"> • 同意 • 避妊と子育て <ul style="list-style-type: none"> • いじめ、虐待、差別 <p>【より広い世界で生きる】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 選択と進路 • 仕事とキャリア • 雇用の権利と義務 • 経済的な選択 • メディアリテラシーとデジタルレジリアンス

注：網掛け箇所は国際教育に関する内容。